

神戸大学 発達科学部
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

神戸大学 発達科学部 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 2014



〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
TEL 078-803-7924(教務学生係)
FAX 078-803-7929
<http://www.h.kobe-u.ac.jp/>

2014



つながる 未来の世界に

発達科学部・人間発達環境学研究科キャンパスにて
観察された二重虹（2009年6月5日撮影）

Contents

沿革	2
学部長あいさつ	3
発達科学部	5
人間形成学科	8
心理発達論 コース	14
子ども発達論 コース	16
教育科学論 コース	18
学校教育論 コース	20
人間行動学科	22
健康発達論 コース	28
行動発達論 コース	30
身体行動論 コース	32
人間表現学科	34
表現創造論 コース	40
表現文化論 コース	42
臨床・感性表現論 コース	44
人間環境学科	46
自然環境論 コース	52
数理情報環境論 コース	54
生活環境論 コース	56
社会環境論 コース	58
発達支援論 コース	60
ESD サブ コース	63
人間発達環境学研究科	65
人間発達専攻	70
心理発達に関する研究分野	72
臨床心理学 コース	74
健康発達に関する研究分野	76
教育科学論に関する研究分野	78
子ども発達に関する研究分野	80
発達支援に関する研究分野	82
身体行動に関する研究分野	84
行動発達に関する研究分野	86
表現創造に関する研究分野	88
表現文化に関する研究分野	90
人間環境学専攻	92
自然環境論 コース	94
数理情報環境論 コース	96
生活環境論 コース	98
社会環境論 コース	100
環境先端科学（連携）講座（後期課程のみ）	102
附属組織と附属施設	103
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター	104
心理教育相談室	106
サイエンスショップ	107
キャリア形成支援	108
発達キャンパス	110
施設紹介	112

発達科学部・人間発達環境学研究科の沿革

1874年 5月 兵庫県師範伝習所設置

1877年 1月 神戸師範学校と改称

1886年 9月 兵庫県尋常師範学校と改称

1897年10月 兵庫県師範学校と改称

1900年 4月 兵庫県第一師範学校と改称

1901年 2月 姫路に兵庫県第二師範学校を設置

1901年 8月 兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称
兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称

1902年 2月 兵庫県明石女子師範学校設置

1936年 4月 兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合

1943年 4月 兵庫師範学校として兵庫県明石女子師範学校を包括し国立移管

1944年 4月 兵庫青年師範学校国立移管

1949年 5月 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足

1992年10月 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置

1997年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした
神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置

1999年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程後期課程設置

2005年 4月 神戸大学発達科学部3 学科12 講座を4 学科6 講座に改組

2005年 4月 総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置

2007年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、
神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置

2013年 4月 神戸大学大学院人間発達環境学研究科4専攻を改組し、
人間発達専攻を設置



新たな 学問的地平を 切り拓く

発達科学部長・人間発達環境学研究科長
岡田 章宏 教授

1992年10月、発達科学部は、長きにわたる教育学部の伝統を引き継ぎながら、「人間の発達(human development)」を本格的に教育研究するかつてない学部として発足しました。そして、2007年4月には、総合人間科学研究科を改組し、学部での学問的営為をさらに推進する大学院として、人間発達環境学研究科を設立しました。

「人間の発達」を定義することは簡単ではありませんが、さしあたり、一人ひとりの「善き生(well-being)」を実現するために個人や集団が潜在的にもつ多彩な能力を開花させていくことと理解できます。そして、その観点から私たちの社会をながめると、いろいろな場面で「人間の発達」が阻害されていることがわかります。地球のあちこちで、深刻な地域紛争が発生し、多くの人たちが貧困にあえいでいます。自然環境の破壊も着実に進行しています。最近では、大規模な災害も頻発しています。そのなかで、人々はそれぞれがもつ様々な能力を開花させる可能性をどんどん失っているのです。

発達科学部、人間発達環境学研究科は、こうした今日の状況と対峙しながら、「人間の発達」とは何か、それを支える環境をいかにして構築するか、という人類に向けられた壮大な問いと格闘し、多様な学問的知見の自由な交流をととして新たな学問的地平を切り拓くことを目的とする学問共同体です。私たちは、教員と職員、そして学生諸君が一体となって、このプロジェクトに挑戦していきたいと考えています。熱意あるみなさんが参加されることを期待します。



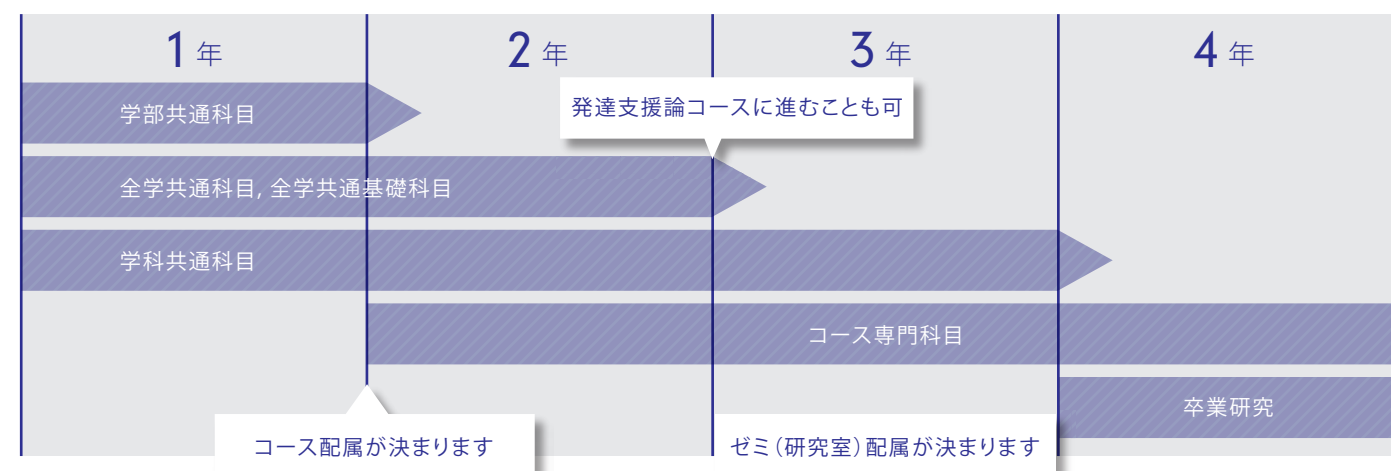


神戸大学 発達科学部

Faculty of Human Development



カリキュラムの特色



高い専門性を育成し、視野を広げます

発達科学部は、広い知識と豊かな教養を授けるとともに、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について様々な側面から教育研究し、これらに関する専門的知見及び問題解決能力をもった、自律的な人材の養成を目指しています。1年次の学部共通科目「発達科学への招待」で発達科学が目指すものは何かを考えます。2年次から希望するコースに進み、各コースにおける豊富なコース専門科目を通して確実な基礎知識を修得します。さらに、セミナー形式の少人数による授業、実験や実習を伴う授業を通して専門性を高めていきます。卒業研究を始める段階でゼミ(研究室)に配属され、指導教員のもとで専門分野からテーマを選び卒業研究を行います。発達科学部では、講義のみではなく、豊富なセミナー、演習、実験、実習、実践形式の授業を通して、学生は主体的に専門分野の学習と研究に取り組みます。

コースに進んだ後も、学科共通科目や所属するコース以外のコース専門科目も履修でき、学問的な視野を広げることができます。幅広い知識を得て、それを自分の専門分野に活かすことができ、また自分の専門以外の分野との関わり方や他分野への応用についても考えることができます。

3年次からは、地域組織、NPO、行政、企業、学校などと共同して実践的な課題に取り組む、発達支援論コースへ進むことも可能です。また、自分のコースに所属しながら、ESD(Education for Sustainable

Development, 持続可能な開発のための教育)サブコースで体験的な学習に取り組むこともできます。

これからの社会では、専門分野の枠を超えた人々が協調して、困難な問題を様々な視点から解決していくことが求められます。発達科学部は、高度な専門性をもち、文系・理系(学問領域)の枠を超えた幅広い視野を身につけた人材を育成します。このため、卒業後は多種多様な方面へ進むことが可能です。発達科学部は、キャリア形成支援のための「キャリアサポートセンター」を開設し、専任のキャリア開発サポートアドバイザーが、就職活動を中心とした学生のキャリア支援を積極的に行っています。



発達科学部の魅力

学問領域を超え 新しい学問の創造を目指します

発達科学部は既成の学問領域にとらわれることなく、「人間」に焦点をおいた、学際的、応用的、実践的な、新しい学問の創造を目指しています。学生は文系、理系を問わず、幅広い領域の学問にふれ、人間の発達とそれを支える環境に関わる現代的な課題を追究します。教員や学生同士で密接なコミュニケーションをとる少人数教育を通して、課題の解決を展望する学習を行います。新たな学問の創造を目指す発達科学部は開放感にあふれています。



発達科学部の求める学生像

発達科学部では、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について、様々な側面から教育研究を行っています。そして、人間の発達や環境に関する諸問題をとらえ、解決するための専門的知見と問題解決能力を養成することを目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

- 人間の発達やそれを取り巻く環境に興味をもち、人間形成、人間行動、人間表現、人間環境のいずれかの視点から、新しい学問領域を開拓する意欲のある学生
- 人間の発達や環境に関する現代的課題に主体的にかかわることを希望する学生
- 高等学校等までの基礎的学力を幅広く身につけており、専門的な知識を積極的に学んでいける学生
- 自ら問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生

人間形成学科

人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する

学科の理念

人間の誕生から高齢期に至るころ及び諸能力の発達並びに人間形成に関わる諸要因について、社会的及び文化的な観点から教育研究を行い、教養並びに心理、発達、教育及び学習に係わる専門的な知識を身に付けた人材を養成することを目的とします。

学科の特色

社会と歴史の中で 発達する人間の姿を捉える

人は相互に支え合いながら成長・発達しています。文化とは、そのような社会的関係の歴史的な所産です。人間形成学科では、社会と歴史の中で生活している人間（子ども）の心や身体の発達、自然認識や社会認識の発達、言語や芸術表現の発達などを探究しています。また、人間（子ども）の発達を支える社会システムの歴史や制度について、学校教育と深く結びつけて探究しています。

人間の発達と支援の関係を 総合的に捉える

人間（子ども）の発達には前進だけでなく、停滞も退行もあります。それが私たちの発達の実相です。したがって、発達を支援する方法やシステムを考える場合には、問題を幅広い視点と時間軸で捉え、総合的に取り組んでいく必要があります。人間形成学科では、4つのコースが有機的に結びついて、人間（子ども）の発達とその支援のあり様を総合的に分析し、具体的かつ実践的に探究しています。

教員志望の学生の強い味方になる

人間形成学科は、人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する学科ですが、とくに「学校教育」との強い結びつきを特色としています。幼稚園、小学校、特別支援学校の教師を目指す人には、これらの学校の教員免許状の取得に特別に配慮したコース（学校教育論コース）が用意されています。そこでは、他コースの科目も学ぶことで、すぐれた教師へと旅立つ資質が養成されています。



履修コース

人の「心の発達」を、様々な側面から科学的に探究する

心理発達論 コース

定員：30名

▶P14



乳幼児から青年期の子どもを対象に、子どもの教育と発達を総合的に学ぶ

子ども発達論 コース

定員：20名

▶P16



教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう？

教育科学論 コース

定員：20名

▶P18



小学校、幼稚園および特別支援学校の教諭の免許を取得しよう

学校教育論 コース

定員：30名

▶P20



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

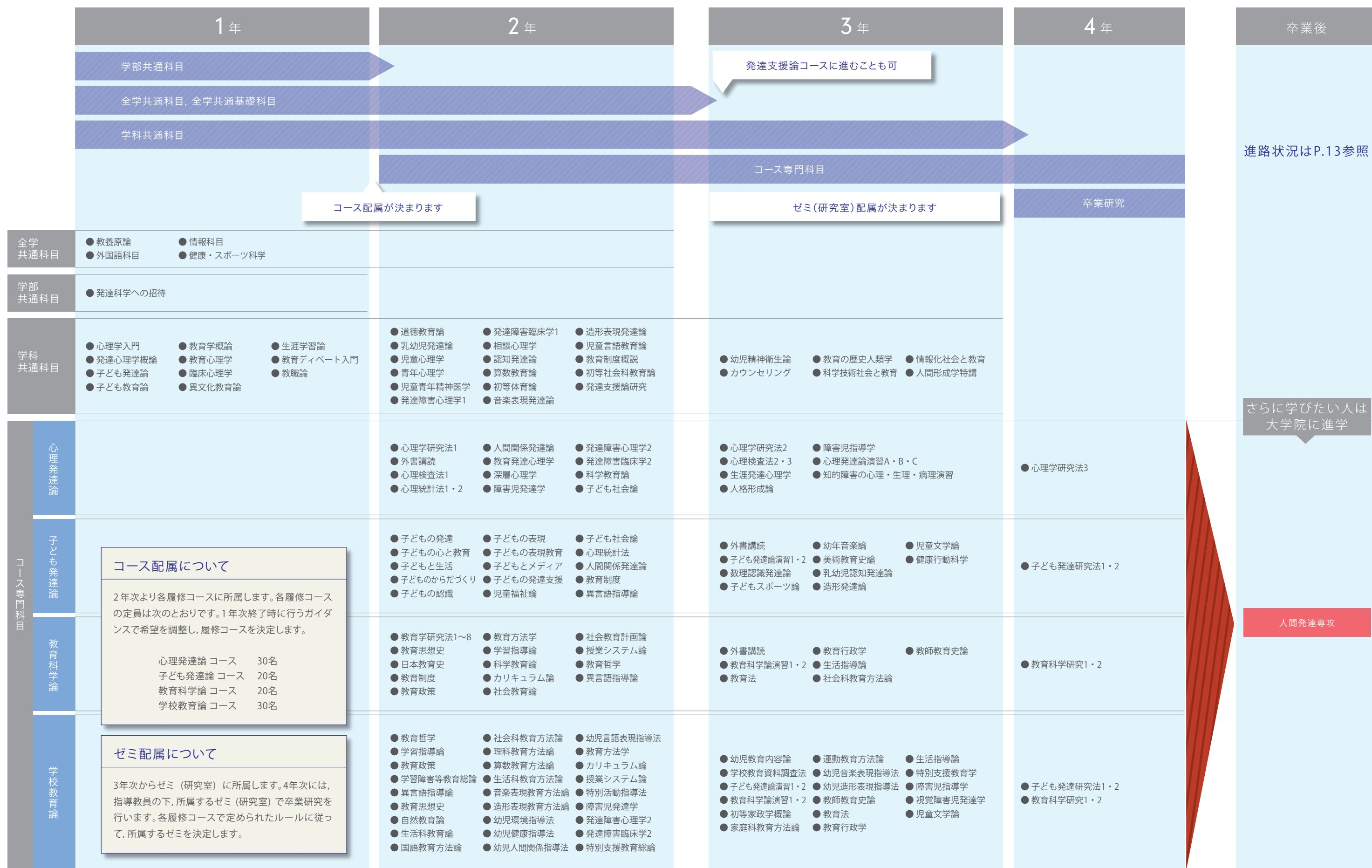
- ・幼稚園教諭一種免許状
- ・学芸員*
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・小学校教諭一種免許状
- ・社会教育主事*
- ・環境再生医資格*
- ・特別支援学校教諭一種免許状

学科長からのメッセージ

学科長 稲垣 成哲教授
(教育科学論コース)

人間形成学科では、人が生活の中で相互に支え合いながら、人として育ち、育てられていくプロセスを理論的、実証的に探っていきます。人は一生の間に、いろいろな世界やたくさんの人たちと出会い、「新しい自分」をつくりあげていきます。私たちは、いつの間にか能力や価値観を身につけているように思いますが、実際には、そこには、さまざまな発達のメカニズムがはたらいているのです。また、人間の発達は、社会や文化のありようと無関係ではありません。インターネット時代の子どもは、親の世代とはコミュニケーションのとり方も、身につける知識や技術も大きく変わっているはずです。人間形成学科では、このような社会・歴史的な観点から、人の発達とその条件について、また社会がかかえる問題の解決策について、探究していきます。





さらに学びたい人は
大学院に進学

人間発達専攻

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

兵庫県中央子ども家庭センター 勤務

稲田 さやか さん
(2009年3月卒)



学部と大学院での学びを活かし、 人と向き合う専門職に就いて

現在、私は、兵庫県の心理職として兵庫県中央子ども家庭センターに勤務しています。センターの業務は、療育手帳にかかわる心理判定や発達相談、虐待、非行問題への対応など多岐にわたります。配属される機関によって仕事は様々ですが、希望通り、こどもに関わる仕事に就くことができ、先輩に指導して頂きながら、勉強の日々です。

学部では心理学だけでなく教育学など幅広く学び、教員免許も取得しました。さらに、大学院では専門的な授業や実習で実践的に学びました。実践的な学びの中でも最も印象に残っているのは、心理教育相談室での面接と児童養護施設でのプレイセラピーです。授業やスーパーバイズを通して学んだ心理士としての姿勢が、現在の自分の軸になっていると実感します。

今後も専門性を磨きながら、「生きにくさ」を抱えている人が少しでも生きやすくなるような支援をしていきたいと思っています。

INTERVIEW 02

ひかりのくに株式会社 勤務

長田 亜里沙 さん
(人間発達科学科2004年3月卒)
(発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。
人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。)

仕事の喜びと重責の中で

現在、保育図書の編集をしています。「子どもに関わる仕事がしたい」、「本が好き」、「何かを作りたい」これらの思いが、編集の仕事を目指した原点です。

先生方をはじめ多くの方の励ましに支えられて就職できました。先輩方のご指導を受けて、現場の保育者の声を聞き、本を作っています。タイトルひとつで本の売れ行きが変わり、一語、一文字で文章の意味もニュアンスも変わってきます。

発達科学部では、卒業論文では若狭出身の女性詩人の生涯と詩を研究しました。詩を綴る中で児童劇を発見していったその女性詩人の、言葉やリズムから伝わる思いを感じ取ることを、論文作成を通じて経験させてもらえたように思います。

今日、言葉、文章のおもしろさと難しさを、読者(受け手)と著者(作り手)の橋渡しという立場で、改めて感じています。

本という形にすることは一筋縄ではいきませんが、少しでも多くの保育者のお役に立てる本を作れば、と考えています。

INTERVIEW 03

国立国会図書館 勤務

真子 和也 さん
(人間発達科学科2006年3月卒)
(発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に改組しました。人間発達科学科は現在の人間形成学科の前身です。)



学校教育に疑問を感じたことのある方におすすめのコースです

私は、大学入学前から現代の学校教育制度の画一性に疑問を持っていましたので、教育科学論を志望しました。それが日本経済の発展に貢献したことは否定しませんが、もっと自由なやり方があってよいと思っていました。こうした拙い問いに対して、コースの先生方は、多くの素材を提供しながら、自分の頭で考えるよう促してくれました。

私は現在、国立国会図書館に勤務しています。今の仕事は、「立法調査業務」というので、国会議員からの依頼に対して、図書館の蔵書や各種のデータベースを用いて作成した報告書を提供したり、将来国会で話題になりそうなテーマについて調査論文をまとめたりしています。常に複数の調査案件を抱え、書庫とデスクとの往復に明け暮れる毎日です。

学生時代に得た知識は社会でそのまま役立つものではありませんが、発達科学部で自分の頭で考える力を培ったことは、仕事の上でも、社会人として生活していく上でも、とても大きな財産となっています。

INTERVIEW 04

神戸市の小学校 勤務

原田 麻衣 さん
(2010年3月卒)



かけがえのない仲間と共に 夢を実現できた大切な場所

現在、私は小学校教員として働いています。教員は小学生の時から夢でした。発達科学部に入学した時は、周りに知り合いもなく、不安もありましたが、学校教育論コースに入ったことでかけがえのない仲間に出会いました。

教育実習の時は、夜遅くまで残ってみんなで授業の指導案を検討したり、大学での講義では、グループに分かれて乳幼児の遊びを考えて発表したりしました。一人では成し遂げられなかったことも、信頼している仲間と共に取り組むことではじめて出来たことが数多くありました。授業以外でも、コースやゼミの仲間と公私共に楽しく充実した大学生活を送ることができました。そんな環境の中で、私は人と人との繋がりの大切さを改めて実感し、教師として、子どもたちにそのことを伝えていきたいと思いました。

今後は、子どもと一緒に遊ぶことや、子どもに近い立場で関わっていけることを最大限に生かし、子どもと共に成長していける教師になりたいと思っています。

主な進路・主な資格免許の取得状況

心理発達論 コース

主な進路

2011年度	2012年度
・伊藤丸紅鉄鋼	・関西アーバン銀行
・エー・ビー・シー開発	・京都銀行
・関西アーバン銀行	・ダイエー
・ココロ発達療育センター	・ツジカワ
・コヴィディエンジャパン	・豊田通商
・大都産業	・名古屋鉄道
・東京海上日動火災保険	・ニッセン
・兵衛向陽閣	・日本ビッグメント
・兵庫県信用組合	・ヤマハ
・JA共済連愛知	・大阪大学職員
・大阪国税局	・香川県職員
・大阪税関	・神戸税関
・河内長野市役所職員	・広島市職員
・神戸家庭裁判所	・法務省
・姫路市職員	・神戸大学大学院
・広島家庭裁判所	・人間発達環境学研究所(5名)
・神戸大学大学院	・兵庫県職員
・人間発達環境学研究所(7名)	・鳴門教育大学大学院学校教育研究所
・京都大学大学院文学研究科	
・武庫川女子大学大学院文学研究科	

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

2011年度	2012年度
・幼稚園教諭一種免許状	・幼稚園教諭一種免許状
・小学校教諭一種免許状	・小学校教諭一種免許状
・特別支援学校教諭一種免許状	・中学校教諭一種免許状(社会)
・学芸員	・特別支援学校教諭一種免許状

教育科学論 コース

主な進路

2011年度	2012年度
・鷗州コーポレーション	・イオンリテール
・シティ・コム	・カゴメ
・森永乳業	・グロップ
・リクルートスタッフィング	・西日本電信電話
・神戸大学職員	・日本入試センター
	・神戸大学大学院
	・人間発達環境学研究所(3名)
	・福井大学大学院教育学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

2011年度	2012年度
・小学校教諭一種免許状	・幼稚園教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(社会)	・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(数学)	・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)	・中学校教諭一種免許状(理科)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)	・高等学校教諭一種免許状(家庭)
・高等学校教諭一種免許状(公民)	・高等学校教諭一種免許状(数学)
・特別支援学校教諭一種免許状	・高等学校教諭一種免許状(理科)
・学芸員	・特別支援学校教諭一種免許状
・学芸員	
	・環境再生医(初級)

子ども発達論 コース

主な進路

2011年度	2012年度
・アートチャイルドケア	・池田泉州銀行
・アド・ダイセン	・花王ロジスティクス
・アメリカンファミリー生命保険会社	・カトージ
・関西アーバン銀行	・京都銀行
・キタムラ	・近畿労働金庫
・長野県信用組合	・タマノイ酢
・ベネフィット・ワン	・西日本シティ銀行
・JR西日本	・パソナ パソナキャリアカンパニー
・西宮市保育士	・ビジネスサポートセンター
・神戸市教員(小学)	・赤穂市職員(保育士)
・奈良県教員(小学)	・神戸市職員
・神戸大学大学院	・広島市職員(保育士)
・人間発達環境学研究所(3名)	・横浜市教員(小学)
・広島大学大学院教育学研究科	・神戸大学大学院
	・人間発達環境学研究所(2名)

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

2011年度	2012年度
・幼稚園教諭一種免許状	・幼稚園教諭一種免許状
・小学校教諭一種免許状	・小学校教諭一種免許状
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)	・中学校教諭一種免許状(社会)
	・特別支援学校教諭一種免許状

学校教育論 コース

主な進路

2011年度	2012年度
・旭化成アミダス	・ウィル
・かんぽ生命保険	・バリューマネジメント
・社会福祉法人北摂杉の子会	・京都女子学園職員
・社会福祉法人同朋福祉会同朋学園	・ソフトバンクテレコム
・三井住友海上火災保険	・大阪府教員(小学)
・鳥取市保育士	・神戸市教員(小学)
・西宮市職員	・豊中市職員(保育士・幼稚園教諭)
・大阪府教員(小学)	・広島県教員(小学)
・神戸市教員(小学)	・横浜市教員(小学)
・神戸市教員(特別支援)	・神戸大学大学院
・吹田市教員(小学)	・人間発達環境学研究所(7名)
・奈良県教員(小学)	・岐阜大学大学院教育学研究科
・兵庫県教員(小学)	
・松原市教員(小学)	
・横浜市教員(小学)	
・和歌山県教員(小学)	
・神戸大学大学院	
・人間発達環境学研究所(3名)	
・兵庫教育大学大学院	

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

2011年度	2012年度
・幼稚園教諭一種免許状	・幼稚園教諭一種免許状
・小学校教諭一種免許状	・小学校教諭一種免許状
・中学校教諭一種免許状(社会)	・中学校教諭一種免許状(家庭)
・中学校教諭一種免許状(数学)	・中学校教諭一種免許状(数学)
・高等学校教諭一種免許状(数学)	・中学校教諭一種免許状(理科)
・高等学校教諭一種免許状(地理歴史)	・高等学校教諭一種免許状(家庭)
・高等学校教諭一種免許状(公民)	・高等学校教諭一種免許状(数学)
・特別支援学校教諭一種免許状	・高等学校教諭一種免許状(理科)
・学芸員	・特別支援学校教諭一種免許状
・環境再生医(初級)	

心理発達論 コース

▶ Course Keyword 【コースキーワード】

- ☐心理学
- ☐発達障害
- ☐発達
- ☐人格発達
- ☐カウンセリング
- ☐心理検査

人の「心の発達」を、様々な側面から科学的に探究する

人の生涯は、受胎に始まり、誕生、赤ちゃんの時代、子どもの時代、青少年の時代、大人の時代、高齢の時代を経て、死で終わります。こうした生涯のそれぞれの時代に重要な「心の発達」があるとともに、各時代の「心の発達」が相互に影響しています。心理発達論コースでは、心の発達の様相とその支援とについて、発達心理学を中心に、様々な学問領域から学びます。具体的には、個々人が自分らしさをどのように形成してゆくのかという人格発達、人の認識・思考・判断等の変化を探る認知発達、心の病をどのように理解し、ケアするかという臨床心理学、発達の障害をどのようにとらえ、支援するかという発達障害学などです。本コースでは、これらの学問領域における理論や知見を学ぶことに加え、心理学の手法を用いて心理学的知見を見だし、それを卒業論文にまとめることを4年間のゴールとしています。そのため、

心理学概論・各論の授業と平行して、実験法や観察法、質問紙法、検査法などの心理学研究法を獲得していくカリキュラムが組まれています。2年生ではまず、様々な研究法を実習し、データ分析のための統計法も学びます。3年生になると、計画立案ーデータ採取ー分析ー結果解釈という研究プロセスを、ゼミの仲間と共同で経験します。4年生では、個人の関心から研究テーマを設定し、一人で卒業研究に臨みます。卒業後の進路は様々で、心理学に関連する仕事もそうでない仕事もあります。しかし、心とその発達について、苦労して採取した生のデータで、自分の考えた仮説を実証し、結果をレポートや論文の形式で発信するという、科学的探究を経験してきたことは、卒業生の将来に、有形無形の影響を与えています。カウンセラー等の心理職を目指す人は、大学院に進学し、臨床心理士の資格を取得します。

主なコース専門科目

- ☐心理学研究法1
- ☐心理検査法1
- ☐心理統計法1・2
- ☐人間関係発達論
- ☐教育発達心理学
- ☐深層心理学
- ☐障害児発達学
- ☐発達障害心理学2
- ☐発達障害臨床学2
- ☐科学教育論
- ☐子ども社会論
- ☐心理学研究法2
- ☐心理検査法2・3
- ☐生涯発達心理学
- ☐人格形成論
- ☐障害児指導学
- ☐心理発達論演習A・B・C
- ☐知的障害の心理・生理・病理演習
- ☐心理学研究法3

教員からのメッセージ



心理学から、子どもの学びと育ちを考える

坂本美紀 准教授(教育心理学)

心理学といえば、人間関係のコツや性格テスト等を連想する人が多いと思います。しかし、教育心理学の分野では、学び方や教え方、子どもの成長過程や適応、進路決定など、学びと育ちのプロセスが、心理学的研究の対象となっています。私のゼミでは、子どもの学習と発達について、心理学の知見を元に語るための研究を志向しています。3年生では、テーマを決めて、計画立案、データ採取、分析、結果解釈という研究プロセスを、ゼミの仲間と共同で経験します。4年生では、ゼミ生個人の関心に基づいて研究テーマを設定し、これまで学んだ知見とスキルをフルに活用しつつ、一人で卒業研究に臨みます。苦労して採取したデータで、自分の仮説を実証し、レポートや論文の形式で発信するプロセスは、山あり谷ありの経験です。学業生活を支えるのは、苦楽をともにする仲間や、頼れる先輩たち。学業・研究以外にも様々な語らいをしながら、研究と友情を深めていくのです。

スタッフと研究分野・研究テーマ

相澤 直樹 准教授	赤木 和重 准教授	伊藤 俊樹 准教授	河崎 佳子 教授	齊藤 誠一 准教授
臨床心理学, 臨床心理検査(投影法)	発達障害心理学	臨床心理学	臨床心理学, 発達臨床心理学	発達心理学
青年期における自己愛的傾向と対人恐怖的傾向に関する調査研究を行っています。ロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法(投影法)について実践的に研究しています。	自閉症児のコミュニケーションの発達に関心をもって研究しています。特に自閉症児が他の子どもに「教える」という行動の発達に注目しています。	臨床心理学を専攻しています。特にアートを心理療法に用いた芸術療法や心理療法で相談者のイメージがどのように変わっていくかを研究しています。	聴覚障害児の心理発達と家族支援について研究してきました。近年は、虐待児童への心理的ケアについて乳児院・児童養護施設を舞台に取り組んでいます。	思春期の身体発達や性的成熟が、その子どもや、親・友人などの周囲の人たちにどのような影響を与えるかを研究しています。

坂本 美紀 准教授	谷 冬彦 准教授	鳥居 深雪 教授	林 創 准教授	森岡 正芳 教授
教育心理学	人格心理学	発達障害臨床学	認知発達心理学, 教育心理学	臨床心理学, 文化心理学, カウンセリング
教科学習における知識の獲得とその活用について、学習者の内的過程と学習環境づくりの両面から研究しています。	青年期におけるアイデンティティ形成や自己形成の研究を中心として、人格(パーソナリティ)の生涯発達に関して広い視野で研究をしています。	読み書きが苦手、多動、社会的な意味の理解が苦手、といった様々な困難さの背景にある脳機能と効果的な支援方法について研究しています。	幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性やコミュニケーションの発達に関する研究をしています。	ナラティブ(物語)や対話的自己という視点からトラウマのケア、心身相関、家族関係、文化と癒しの問題に取り組んでいます。

主な卒業研究テーマ

- ・大学生の一般企業への就職活動における進路確定プロセス
- ・特別養護老人ホームの介護職員と利用者間で生じる心理的困難についての質的検討
- ・妊娠期女性における「親になる」意識の形成過程
- ・CMC(Computer-Mediated Communication)における人間関係形成過程について
- ・青年期における自己受容と他者受容に関する研究ー批判的思考, 社会的迷惑行為との関連についてー
- ・青年期の親子関係が青年の精神的自立と他者への依存性に及ぼす影響について
- ・友人関係のタイプ別に見た大学生の学校適応と自己嫌悪感, 本来感ー学校適応, 自己嫌悪感, 本来感に影響を与える要因に注目して
- ・ジャルゴンの独語の目立つ自閉症幼児の被慣用的言語行動の機能変化ー特定の相手の形成・他者理解の発達の变化を軸に
- ・大学生の関係性攻撃と社会的情報処理の関連について
- ・ソシオメータ理論の立場における他者の評価と自尊心に関する研究
- ・中学生の居場所と、抑うつ傾向、自己肯定感との関連
- ・青年期女子の就業意識の形成背景に関する研究
- ・幼児期における早期発達支援ー支援のための気づきを深める
- ・テレビゲームと社会性の関連に関する一考察
- ・被相談行動がアイデンティティ形成に及ぼす影響
- ・女子青年期における化粧行動に関する研究
- ・ジェンダー・アイデンティティと適応, 食行動異常傾向との関連
- ・女子大学生のインテリアの色彩嗜好と性格特性に関する分析
- ・教師の援助成果に教師ー生徒関係が及ぼす影響
- ・読み書き困難における認知特性の検討ーある小学生の事例から
- ・摂食障害当事者の語りに関する研究ー自助グループの役割に着目して
- ・精神疾患患者との関わりを通じた地域訪問支援の在り方についての検討

学生からのメッセージ



心に関する「なぜ」を探りながら、人や自分自身と向き合う。

池田 ゆきみ さん(心理発達論コース4年生)

心理発達論コースの講義では、様々な方向から人の心にアプローチすることができます。なかでも「心理検査法」では、実際に検査を行い結果を考察し、人と違う自分を改めて知ることができます。また三回生から始まるゼミでは、仲間と好きなテーマで共同研究に取り組みます。当たり前に思っていたことに対して、新たな発見やわくわくすることがたくさんあるはず。例えば、ポジティブな人もいれば、ネガティブな人もいます。なぜポジティブな人はポジティブなのか。ある事柄に対する心情や解釈、どう思うか、どう行動するかは人それぞれです。自分はどうしてそうなのか、人と違うのはなぜなのか。私たちのあらゆる行動基準や判断、そこに生じる感情は、どう育ってきたか、どう生きてきたか、など、その人の心の発達と密接に関わります。

心を探ることは、その人の人生を見つめ直すことでもあると思います。是非このコースで、色々な人やその考え方、そして多様な生き方に触れて下さい。

子ども発達論 コース

Course Keyword 【コースキーワード】

- ☐ 子どもの発達
- ☐ 子どものからだづくり
- ☐ 乳幼児教育学
- ☐ 児童文学
- ☐ 子どもの数理認識
- ☐ 子どもの表現教育
- ☐ 幼年音楽

乳幼児から青年期の子どもを対象に、 子どもの教育と発達を総合的に学ぶ

- ①子ども発達論コースは、乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識、発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に学びます。
- ②子どもの教育や子どもと関わる仕事を目指す方、子どもの文化に興味のある方、子どもの心やからだの発達と教育の謎に迫りたい方などとともに、子どもを多面的に学び研究していきます。
- ③一方では、「子どもの認識と表現の発達」として、家庭・地域での生活体験や学校教育ともかかわって、言語表現、数理認識、運動発達、音楽表現、造形表現等の領域について学びます。
- ④他方では、今日の子ども達がかかえる困難や発達のもつれに焦点をあてて、家庭、地域、学校などでの教育実践や支援のあり方について学びます。

主なコース専門科目

- ☐ 子どもの発達
- ☐ 子どもの心と教育
- ☐ 子どもと生活
- ☐ 子どものからだづくり
- ☐ 子どもの認識
- ☐ 子どもの表現
- ☐ 子どもの表現教育
- ☐ 子どもとメディア
- ☐ 子どもの発達支援
- ☐ 児童福祉論
- ☐ 子ども社会論
- ☐ 心理統計法
- ☐ 人間関係発達論
- ☐ 教育制度
- ☐ 異言語指導論
- ☐ 子ども発達論演習1・2
- ☐ 数理認識発達論
- ☐ 子どもスポーツ論
- ☐ 幼年音楽論
- ☐ 美術教育史論
- ☐ 乳幼児認知発達論
- ☐ 造形発達論
- ☐ 児童文学論
- ☐ 健康行動科学
- ☐ 子ども発達研究法1・2

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡部 恭幸 准教授	北野 幸子 准教授	木下 孝司 教授	國土 将平 教授	五味 克久 教授
数理認識論, 数学教育	乳幼児教育学, 保育学	発達心理学	身体発達発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定	幼年音楽, リトミック, 合唱指揮
算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成していくのか、またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	子ども特に乳幼児（0～8歳くらい）の遊び・生活・学びの内容や、乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。	乳幼児や障害をもつ子どもたちが、発達の主体となり、相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。	子どもの身体の発達や健康、体力・運動能力・運動動作の発達を理解し、それらに影響を与える教育・学習や生活環境、生活習慣との関係を探っています。	音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは、手作り楽器で音の発見というテーマです。
鈴木 幹雄 教授	目黒 強 准教授			
図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学	児童文学, 国語教育			
(1) 子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達、或いは(2) モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。			

主な卒業研究テーマ

- ・現代の小学生における植物遊び体験の実態調査
- ・人々は魅力的な芸術教育をどのようにつくり上げてきたのかー3人の芸術教育者の試みー
- ・人形を用いたふり遊びにおける幼児の理解とコミュニケーションの発達ー子ども・人形・おとなの三者関係に着目してー
- ・児童養護施設における読書環境の実態
- ・保育用品としての「おどろぐばこ」の歴史
- ・文学教育におけるメディアリテラシーの育成ー「注文の多い料理店」を事例としてー
- ・3歳児クラスの仲間関係の発達における身体接触の役割について
- ・幼児期における言語活動としての対話型美術鑑賞
- ・子どもとの相互作用を重視した保育実践の検討ー臨床美術の分析を中心にー
- ・幼児期の科学教育ー科学絵本の読み聞かせを通してー
- ・2, 3歳児の砂山や砂山作りから発展した遊びの特徴
- ・イリノイ州立大学幼児教育学研究者の幼児教育観についてのー考察ーラウラ・E・バーク氏の著作を手がかりにー
- ・3歳児クラスにおけるトラブルの発達ー未解決のトラブルに着目してー
- ・4歳児はどのように絵本をとらえるかー昔話「三びきのこぶた」の読み聞かせを通してー
- ・子育てを通して母親が成長していくプロセスー幼児・学童期の子どもをもつ母親の語りの分析からー
- ・子どもとパズル遊びに関する研究
- ・子どもの赤ちゃん返りの実際と教育的対応に関する研究
- ・地域における子育て支援政策の展開ー地域子育て支援センター事業に着目してー
- ・地域に対する理解や興味を深めるための授業の工夫についての考察ー総合的な学習の時間においてー
- ・知育玩具とその対象年齢
- ・父親の育児参加とその影響ー父母の違いに着目してー
- ・定期的な冒険教育活動が子どもの意識や態度に与える影響
- ・表現の魅力を伝える教育についての考察

教員からのメッセージ

算数・数学についての 子どもの「わかり」を解き明かす

岡部 恭幸 准教授(数理認識論, 数学教育)

子どもが算数・数学がわかるようになるとはどういうことでしょうか。繰り返し練習さえすればいつかわかるようになるのでしょうか。授業に積極的に取り組み、しっかり発表すればわかるようになるのでしょうか。これらの答えを見つけるのは実は簡単なことではありません。

私達の研究室では数理認識の発達と教育についてのいくつかの研究を行っています。子どもはどのように数理概念をとらえているのでしょうか。さらに、子どもが獲得すべき概念はどのような構造をもっているのでしょうか。また、子どもはそれをどのように獲得していくのでしょうか。子どもたちの「わかり」は、まだまだ解き明かしていくべき「謎」に満ちあふれています。

また、この研究室では、研究で得られた知見をもとに、現場の先生方とも協力しながら教育内容や指導方法の開発も行っています。子どもの「わかり」を大切にする算数・数学教育をともに創っていきたくと考えています。

頭で考え身体で感じ 子どもを多面的に理解する

畑野 史帆 さん(子ども発達論コース4年生)

子ども発達論コースでは、教育という視点だけでなく子どもの心理発達、数理認識、運動発達、メディア環境、芸術などを学び、子どもを理解していくことにも重点を置いています。私自身、幼稚園教諭の免許取得を目指していますが、保育の方法を学ぶだけでなく、子どもの発達を多面的に学びたいと思い本コースを選びました。本コースでは、頭で考え、身体で感じ、子どもを理解していきます。講義形式の授業に加え、グループでの話し合いを重視したり子どもの玩具で遊んでみたりと子どもを理解するためには椅子に座っているだけではだめだということを実感します。

4年次に取り組む卒業研究では、本コースでの学びを活かしそれぞれが子どもを様々な角度からアプローチし研究していきます。研究テーマを見てもわかるよう、子どもをどの角度から深く研究していくかは実に様々です。ここに、本コースの多面的に子どもを学べるという最大の魅力が現れていると思います。

学生からのメッセージ

教育科学論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- 教育の歴史
- 教育のしくみ
- 教育の方法
- 社会科教育
- 科学教育
- 美術教育

教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう？

「科学・サイエンス」という言葉で皆さんが思い浮かべるのは、おそらく自然科学や科学技術のイメージではないでしょうか。しかし、この言葉の語源「スキエンティア」(ラテン語)は、「物事が今のような仕方であるのはなぜかについて知る」という意味なのです。私たち教育科学論コースが目指すのは、まさに、「教育や学校のいろいろな現象やあり方が今のような仕方であるのはなぜか、そしてそれは望ましいあり方か?」を問うことです。皆さんは今まさに学校で教育を受けていますね。学校があり先生がいていろいろな教科の授業が行われる。このような皆さんにとって自明の教育のあり方は、実は、法律・制度・行政・財政のルールや枠組みに即して運営され、しかも、このような学校教育制度が

成立したのは、人類史的に見ればごく最近のことにすぎません。また、各教科の内容はそれぞれ、やはり人類の長期にわたる思索、探究、試行の結果が凝縮されたものですし、それを教える先生の教え方についても、実にさまざまな理論や方法の探究の歴史があります。たとえれば、いくつもの長い川が合流した地点に皆さんの学校は立っていて、そこに皆さんがいるわけです。では、その「川」は今後どう流れていくか。それは皆さんにとってわからないだけでなく、実は私たち大人にもわかりません。でも、今よりもっとたくさんの豊かな水が活き活きと流れる川のあり方がきっとあるはずです。その「あり方」を皆さんと共に考えてみたい。それが、教育科学論コースのスタッフ一同の願いです。

主なコース専門科目

- 教育学研究法1〜8
- 教育思想史
- 日本教育史
- 教育制度
- 教育政策
- 教育方法学
- 学習指導論
- 科学教育論
- カリキュラム論
- 社会教育論
- 社会教育計画論
- 授業システム論
- 教育哲学
- 異言語指導論
- 造形発達論
- 教育科学論演習1・2
- 教育法
- 教育行政学
- 生活指導論
- 社会科教育方法論
- 教師教育史論
- 教育科学研究1・2

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲垣 成哲 教授	奥山 和子 講師	川地 亜弥子 准教授	勅使河原 君江 講師	船寄 俊雄 教授
科学教育	日本語教育, 日本事情, 異文化間教育	教育方法学	美術教育	日本教育史, 教育学
科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインの研究を行っています。	若者の内向き志向が嘆かれています。が、一歩足を踏み出してこの島国を出ることができるのは皆さんの特権です。英語力や奨学金など留学の相談に乗り皆さんを支援をします。	国内外の創造的な教育実践に注目し、わかる・楽しい・感動のある授業づくり、安心できる集団づくりについて研究しています。	美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり、この研究は美術を通して子どもを知ること、私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。	「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」、このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。
山口 悦司 准教授	山下 晃一 准教授	吉永 潤 准教授	渡部 昭男 教授	
科学教育	教育制度論	社会認識教育論	教育行政学(地域教育学, 特別ニーズ教育)	
現在、子どもから大人までが、いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば、それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。	教育制度改革論(子どもの豊かな育ちの保障に向けて、地域が学校に関与するしくみや、学校内部で教職員同士が協働するしくみ等)に関する研究をしています。	幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで(!?), 他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決、または回避できるのだろう。	「学校」は個人的な体験と想い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探索しています。	

主な卒業研究テーマ

- ・フランソワ・ラブレールにおける肉体と言語の陽気な出会い
- ・テスト機能を実装した児童用指文字学習ソフトウェアの実践的評価
- ・医学教育における大学―地域間連携を通じた専門教育の展開と課題―高等教育一般への適応可能性を念頭に置いて―
- ・ロアルド・ダールの児童文学作品についての考察
- ・道徳授業実践家としての教師の事例研究―授業とインタビューの分析から―
- ・日本人学生の留学推進に向けた大学の支援策をめぐる現状と課題―神戸大学を素材にして―
- ・ドラマ『熱中時代』にみる教師の責任
- ・中学校武道必修化における柔道の安全対策―大阪府高槻市の中学校の授業実践を通して―
- ・学力観の転換とフィンランドの教育
- ・階層化機能を実装した再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアの実践的評価について
- ・学級における教師―生徒関係の社会的研究に関する一考察
- ・教育の地方分権化と国の役割
- ・教科書制度について考える
- ・公立小中学校事務職員における労働の自己マネジメントと意義づけの検討―心理主義化を超えて―
- ・国定修身教科書「野口英世」の伝記教材―伝記教材作成と教科書の在り方―
- ・少年非行対策における学校と警察の連携の意義について―兵庫県警の実例を軸として―
- ・新聞による自衛隊事故報道の研究
- ・リコーダーの歴史と器楽教育

教員からのメッセージ

教育の歴史を知ることが、明日の教育を拓くカギである

船寄 俊雄 教授(日本教育史, 教育学)

新聞やテレビを通して、毎日のように、児童虐待、いじめ、不登校など深刻な教育問題が報じられています。私の研究室では、これらの問題を解決する現実的な処方箋を考えると同時に、これらの問題が歴史的にどのように推移し、その時々どのような解決策を人々は選択してきたのかという教育史的思考方法を鍛えています。

ゼミは、3年生と4年生合同で行い、4年生は先輩として緊張感を持って卒業研究に取り組み、3年生は4年生と身近に交流することにより、早くから卒業研究へ向けた取り組みができます。また、学部生と大学院生との合同ゼミも行い、研究者の卵である先輩からも指導してもらいます。私の専門は、日本の教員とその養成制度の歴史研究ですが、ゼミ生は私の専門分野にこだわらずに自らが関心を持つテーマに取り組んでいます。大学史、教科書史、子ども史、国語科教育史、道徳教育史など教育の歴史に関して幅広いテーマの研究を行っています。

“教育”をキーワードに学びを広げてみませんか。新たな視点に出会い、自分の可能性を広げる

高橋 敦子 さん(教育科学論コース4年生)

教育科学論コースに入り、“教育”は学校だけでは語れないということを感じました。一言で教育を学びたいといっても様々な分野があります。科学教育、教育方法学、教育の歴史、制度、行政など挙げていくときりがありませんが、各々が“教育”を形成しています。

私自身今まで「教育は学校が舞台だ!」と考えていましたが、教育科学論コースで学ぶうちに、多様な視点を持つことができました。今まで知らなかったことに出会い、コースの仲間と議論を交わす中で、もっと知りたい、もっと探究したいと思うようになりました。教育科学論コースでは豊富な知識と経験をお持ちの先生方が、私たちの知的探究をサポートして下さいます。また少人数でアットホームな雰囲気も魅力の一つです。

みなさんの知的好奇心を刺激するたくさんの問題と出会うことができ、興味関心のある問題を深めることができます。

“教育”をキーワードに学びを広げてみませんか。

学生からのメッセージ

学校教育論 コース

▶ Course Keyword 【コースキーワード】

☐幅広い教養

☐小学校教諭

☐発達を踏まえた実践力

☐幼稚園教諭

☐協同力

☐特別支援学校教諭

小学校, 幼稚園および特別支援学校の
教諭の免許を取得しよう

小学校や幼稚園, 特別支援学校の教師を目指す人たちが, 学校教育を通じた人間発達と人間形成に関して, 理論的かつ実践的に学びます。

コースの所定の科目を履修することにより, 小学校教諭, 幼稚園教諭および特別支援学校教諭の資格を取得することができます。そのために, コースに所属する学生にはまず, 人間, 文化, 社会, 自然のさまざまな事象について幅広く学ぶことを求めます。それらに関する広い関心と教養が, 優れた学校教育実践の基礎として不可欠だからです。その上で, このコースでは, 適切な学習環境づくりと発達支援のための子

ども理解の方法, 各教科をはじめ, 道徳, 総合的な学習などの指導法, さらにには学校教育の歴史, 制度など, 教師として必要な専門的知識, 技能についての学習を行います。それらの学習の成果を, 実践的場面で, つまり実際の子どもの前にして試す場が教育実習です。教育実習を通して, 教職の意義への理解と教育への情熱はいっそう深まることでしょう。以上の学びの集大成としての卒業研究は, 「子ども発達論」か「教育科学論」のいずれかのコースの教員のゼミに所属してまとめます。子どもの発達や学校教育に関する多様な課題領域の中から「自分ならではの」テーマを選択し, 1年以上をかけて追究していきます。

主なコース専門科目

- ☐教育哲学

☐学習指導論

☐教育政策

☐学習障害等教育総論

☐異言語指導論
- ☐教育思想史

☐幼児環境指導法

☐幼児健康指導法

☐幼児人間関係指導法

☐幼児言語表現指導法
- ☐教育方法学

☐カリキュラム論

☐授業システム論

☐特別活動指導法

☐障害児発達学
- ☐特別支援教育総論

☐幼児教育内容論

☐学校教育資料調査法

☐教師教育史論

☐教育法
- ☐教育行政学

☐生活指導論

☐特別支援教育学

☐障害児指導学

☐視覚障害児発達学

教員からのメッセージ



美術を通した人間の発達を考える

勅使河原 君江 講師(美術教育)

私たちの研究室では, 美術を通して人を理解し, その発達を支援する研究に取り組んでいます。

実践研究としては, 継続的に神戸市内の美術館と美術教育普及活動の連携を行っています。この活動では, 知識や技法を重視するのではなく, 10歳の子どもならば10年の経験値を大切に美術鑑賞や制作を行い, 70歳の大人は70年の経験をもつ人にしかできない作品との向き合い方や表現を大切にしています。鑑賞の手法として, 対話を基本とした美術鑑賞を中心に行い, その後の制作へとつなげる活動を実施しています。このように美術活動では, ひとりひとりの異なった美術との関わり方があり, それを共有する事で, 自分でも気づかなかった新たな視点を見つけることができます。生涯にわたった美術を通した人の発達に貢献できる様に, ゼミの学生達と頑張っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲垣 成哲 教授	岡部 恭幸 准教授	奥山 和子 講師	川地 亜弥子 准教授	北野 幸子 准教授
科学教育	数理認識論, 数学教育	日本語教育, 日本事情, 異文化間教育	教育方法学	乳幼児教育学, 保育学
科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論, 方法, 評価及び実践デザインの研究を行っています。	算数・数学の授業の中で子どもたちはどのように概念を形成してくのか, またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	若者の内向き志向が嘆かれています。が, 一歩足を踏み出してこの島国を出ることができるのは皆さんの特権です。英語力や奨学金など留学の相談に乗り皆さんを支援をします。	国内外の創造的な教育実践に注目し, わかる・楽しい・感動のある授業づくり, 安心できる集団づくりについて研究しています。	子ども特に乳幼児 (0〜8歳くらい) の遊び・生活・学びの内容や, 乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。
木下 孝司 教授	國土 将平 教授	五味 克久 教授	鈴木 幹雄 教授	勅使河原 君江 講師
発達心理学	身体発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定	幼年音楽, リトミック, 合唱指揮	図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学	美術教育
乳幼児や障害をもつ子どもたちが, 発達の主体となり, 相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。	子どもの身体の発達や健康, 体力・運動能力・運動動作の発達を理解し, それらに影響を与える教育・学習や生活環境, 生活習慣との関係を探っています。	音楽でいかに遊ぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは, 手作り楽器で音の発見というテーマです。	(1) 子どもの心に語りかける教師たち・自分の中に変化を発見する子ども達, 或いは (2) モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり, この研究は美術を通して子どもを知ること, 私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。
船寄 俊雄 教授	目黒 強 准教授	山口 悦司 准教授	山下 晃一 准教授	吉永 潤 准教授
日本教育史, 教育学	児童文学, 国語教育	科学教育	教育制度論	社会認識教育論
「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」, このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。	近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。	現在, 子どもから大人までが, いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば, それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。	教育制度改革論(子どもの豊かな育ちの保障に向けて, 地域が学校に関与するしくみや, 学校内部で教職員同士が協働するしくみ等)に関する研究をしています。	幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで (!?), 他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決, または回避できるのだろうか。

主な卒業研究テーマ

- ・ネットいじめの原因と対策 ―学校裏サイトを軸にして―

・小学校における協働に関する研究

・聴覚障害児の比喻理解の過程と課題

・海外の日本人論を活用した自文化理解教育

・幼稚園・保育所における家庭との連携

・養護学校義務化について ～判例を手がかりに～

・環境学習を支援するための植生遷移ゲームの改良

・小学生における学校トイレ環境がトイレの快適性に与える影響

・地域の特性に応じた保育とは 一過疎地域における工夫を中心に―

・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続における意義と課題
- ・キャリア教育の現状と課題

・学校週5日制の再検討

・公害教育の制度化研究

・校庭芝生化の現状について

・国内外の教員養成制度と今学生が求めているもの

・子どものドッジボール投動作上達のための指導法の検討

・自己評価能力を育成する授業実践

・総合遊具にみられる児童の基本動作

・病棟における保育と看護の協働について

・幼小連携 ―小学校教員の意識調査からわかる現状と課題―

教職だけを学んだ教師ではなく、
いろんなことを学んだ教師に

竹内 悠希 さん(学校教育論コース3年生)

あなたはどんな先生になりたいと思いますか?

それぞれに夢はあると思いますが, そのためには教職だけではなく, 様々なことを学ばなければならないでしょう。

学校教育論コースは, 教員になるための必修科目が卒業に必要な単位になるため, その他に自分の興味のある授業を取ることが出来ます。つまり, その夢を実現することが出来るのです。

また, コースの行事のシンポジウムでは, 自分たちでテーマを決め調べることで, 深く学べるとともに, コースで協力し, みんなと仲良くなれます。みんなで話し合い, アドバイスし合うことで, 新たな視点を得ることも出来ます。教師になる上では, 仲間の協力は不可欠です。一人で出来ることには限界があり, みんなとやるからできることもたくさんあります。それは, 教師になってからも大切なことだと思います。

あなたも大切な仲間と出会い, 教職だけではなく様々なことを学んだ, あなたの目指す教師になりませんか?

学生からのメッセージ



人間行動学科

人間の発達を身体, 健康, 行動・運動から考える

学科の理念

人間の行動に係わる諸環境が高度に変容している現代社会においては、人間の価値観が多様化し、それに伴って人間の行動も複雑かつ多様化しています。このような人間の行動を解明し、人間の発達を探求するには、自然科学から人文・社会科学にわたる新たな学際的な枠組みによる教育研究が重要です。人間行動学科では、人間の行動と発達に係わる諸問題を、身体・健康・行動・運動の視点から探求します。

学科の特色

アクティブ・ライフスタイルの構築を目指す — 各ライフステージに応じた活動的なQOLを実現しよう！

社会の高度な発達は、人間の価値観の多様化を生じるとともに、長寿社会を実現しています。このような現代社会においては、自らが自立して生きがいと幸福感を持ち、活動的なライフスタイルを実践できる健康と活力が必要です。人間行動学科では人間の身体的・心理的・社会的健康および発達・加齢現象を総合的に教育・研究し、各ライフステージにおける高いQOLを実現できる人材を育成します。

実践的行動力を重視する — 人間行動について理論と実践に強い人材の育成！

行動ということば、単に身体的に行動する(動く)だけでなく、心理的・精神的な行動もあれば、社会的行動もあります。まさに人間の発達そのものです。多くの大学の人間行動は心理学・教育学が中心ですが、本学の人間行動学科は、これらに加え健康・スポーツ科学の視点も含め学際的に教育・研究します。そして身体行動の実践を重視し、理論と実践の有機的結合を目指すユニークな学科です。

新たな人間行動研究に挑戦する — 人文・社会・自然科学から人間行動を考える

青少年の健康行動、成人・高齢者のメタボや認知能力、子どもの身体能力の低下、地球温暖化と人間行動等、現在我が国は人間行動に係わる多くの課題があります。これらの課題は、人間・社会・自然環境それぞれの要因が複雑に絡み合っています。その解決には学際的なアプローチが欠かせません。人間行動学科では健康科学、心理・社会科学、スポーツ科学から、新たな人間行動学の構築を目指します。



履修コース

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ

健康発達論 コース

定員：15名

▶P28



加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

行動発達論 コース

定員：15名

▶P30



人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム

身体行動論 コース

定員：27名

▶P32



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・ 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- ・ 社会教育主専*
- ・ 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- ・ 社会福祉主専任用資格*
- ・ 学芸員*
- ・ 環境再生医資格*

学科長からのメッセージ

学科長 平川 和文教授
(身体行動論コース)

みなさんに身近な例として、子どもの体力・健康問題を取り上げて、人間行動を考えてみます。近年の子どもの体力は長年に渡る持続的低下と、運動をよくする子どもとしない子どもの両極の増加に特徴づけられます。子どもの頃の体力・運動習慣は大人になっても持ち越されます。言い換えれば、運動不足の子どもは将来のメタボ予備軍です。一方、運動をやりすぎている子どもはスポーツ障害やバーンアウトの増加が問題となっています。これらは深刻な問題です。身体的にはどのような運動をどれくらいすればよいか、心理・社会的にはどのように運動環境を整えればよいか、自然環境的には地球温暖化も含めてどのように安全対策を講ずればよいかなど、総合的に考える必要があります。人間行動学科は、子どもから高齢者までを対象に、心身とも健康でアクティブなライフスタイルについて身体、健康、行動・運動をキーワードに教育・研究する活動的な学科です。





INTERVIEW 01

日本テレビ放送網
株式会社 勤務

石浜 勇樹 さん
(2011年3月卒)



人間力を養う学部 やれないことは、ひとつもない

「現場から中継です。石浜さん!!」現場と呼ばれる場所に行き、情報を取り、アナウンサーが読む原稿を書く。時には、中継という形で自分でニュースを読んだりもする。zeroという番組では櫻井翔さんと一緒に仕事をする。女子じゃなくてもやっぱりときめく(笑) これが報道に携わる私の仕事の一例です。

発達には私みたいな体育会系、芸術センス溢れる人、数学博士みたいな人、四六時中麻雀していたって人もいます。多様な人間が集まる学部に入ったおかげで「人間」そのものに興味を持ち、世の中を良くも悪くも騒がせる人達と取材を通して関わりたいと思いました。

人付き合いが嫌いな人はもしかすると発達科学部には向いていないかもしれません。人と関わるのが好きで、勉強するときはおもいきり勉強する、遊ぶときはおもいきり遊ぶ。とにかく濃い4年間を過ごしたい。そういう人は是非門をくぐってほしいと思います。最高の大学生活が待っていますよ。

INTERVIEW 02

TIS株式会社 勤務

大西 結花 さん
(2009年3月卒)



研究内容は柔軟に選択可能、 卒業後に活かせる力も身に付いた

健康発達論コースには文系から理系まで様々な分野を専門とする先生方がおり、あらゆる観点から健康について学ぶことができました。私は文系入学でしたが、医学が専門の中村晴信ゼミに所属し、実験的手法によりアレルギー様症状に影響する因子について研究を行いました。学問の領域に捉われず、最適な研究方法を選択できることは本学科の特長だと思います。また、他の研究室と合同で研究発表会を開催する機会が多く、異なる分野の先生・先輩方からアドバイスを頂けたことは自分の考えを多角的に見つめ直す貴重な経験でした。

現在、TIS株式会社のシステムエンジニアとして、お客様が抱えるビジネス上の課題に解決方法をご提案する仕事をしています。最適な解決方法を総合的に判断する能力が求められる為、大学で培った「多角的な観点から問題解決する力」が活かされていると感じます。今後はさらに実力をつけて活躍の場を広げ、社会に貢献していきたいです。

INTERVIEW 03

長瀬産業株式会社 勤務

高田 京 さん
(2010年3月卒)



発達科学部での大学生活で、 自分の人生の軸がつけられました

私は現在、長瀬産業株式会社という専門商社の人事部門で人材育成の仕事に携わっています。より会社を発展させるためにそこで働く社員に対して何をすればよいのか、ということ日々考えております。

大学では、「人」に焦点をあてて、社会的・心理的・身体的な面から様々なことを学びましたが、次第に人が歳を重ねることで起きる変化に興味を持ちました。ゼミでは加齢にともない起きる筋力やバランス能力の変化を分析し、より高齢者が健康的に生き生きと暮らすには、ということに勉強していました。

このように大学時代に感じていた「人が年を重ねても生き生きと暮らせれば」という思いは、現在仕事を通じて日々感じている「社員1人1人が生き生きと働き満足のできるキャリアをつくることができるよう助けをしたい」という思いにつながっていると感じます。

今後もこの思いを大切に仕事に精進したいと思っています。

INTERVIEW 04

大阪府立
成城高等学校Ⅲ部 勤務

安田 亜未 さん
(2011年3月卒)



人と人、心と心をつなぐ スポーツを学ぶ

スポーツなしでは生きていけないと考えるくらいスポーツが大好きだった私は発達科学部人間行動学科に入り、2回生になって身体行動論コースに進みました。身体行動論コースではスポーツを多角的に勉強することができ「スポーツって面白い!」とより一層思うようになりました。特に六甲縦走、遠泳、スキーなどの宿泊を伴った実習はスポーツの素晴らしさを私に再確認させてくれました。これらの実習は勿論楽しいものなのですが、体力的につらい実習でもありました。しかし、どんなに心が折れそうでも皆で励ましあって乗り越え、絆を深めることができた経験は、スポーツには人と人、心と心をつなぐ力があることを教えてくれました。

私は現在、大阪府の高等学校の保健体育の教員をしています。私は体育を教える教員ではなく、体育で教える教員になりたいです。この4年間で学んだ人と人、心とスポーツの素晴らしさを体育教師として伝え続けていきたいと思っています。

主な進路・主な資格免許の取得状況

健康発達論 コース

主な進路

2011年度 ・花王カスタマーマーケティング ・カネボウ化粧品 ・関西電力 ・大和証券 ・NTTデータ関西 ・NTTドコモ ・Meiji Seika ファルマ	2012年度 ・共栄火災海上保険 ・コベルコシステム ・サントリーホールディングス ・ダイドードリンコ ・福井県経済農業協同組合連合会 ・北陸銀行 ・SMBCフレンド証券 ・岡山市教員(中学校) ・京都府教員(小学) ・東大阪市職員 ・神戸大学大学院国際文化学研究科
--	--

主な資格免許の取得状況

2011年度	2012年度 ・中学校教諭一種免許状(数学) ・中学校教諭一種免許状(理科) ・高等学校教諭一種免許状(数学) ・高等学校教諭一種免許状(理科)
--------	--

行動発達論 コース

主な進路

2011年度 ・アイエックス・ナレッジ ・サントリーホールディングス ・電通 ・トヨタ自動車 ・日鉄日立システムエンジニアリング ・ニトリ ・ヒューマン・ブレーン ・ミズノ ・生駒市職員 ・長崎市職員	2012年度 ・アルペン ・伊藤忠商事 ・エン・ジャパン ・能勢電鉄 ・ワコールホールディングス
--	---

主な資格免許の取得状況

2011年度	2012年度
--------	--------

身体行動論 コース

主な進路

2011年度 ・伊藤忠商事 ・関西電力 ・キッセイ薬品工業 ・京セラ ・コーベヤ ・ゴールドウィン ・サウンドクリエーター ・ジェイテクト ・東京海上日動火災保険 ・東レ ・トヨタ自動車 ・南都銀行 ・日本放送協会 ・ピーワークス ・丸紅 ・ミズノ ・ワコール ・大阪府警察 ・神戸大学大学院 人間発達環境学研究科(5名) ・神戸大学大学院国際文化学研究科	2012年度 ・朝日新聞社 ・アシックス ・アルペン ・追手門学院職員 ・紀陽銀行 ・京都銀行 ・クラレ ・サイボウズ ・サントリーホールディングス ・ダイキン工業 ・東映 ・日本メナード化粧品 ・パナソニック ・ベルパーク ・ミキハウス ・ワコールホールディングス ・大阪府教員(小学) ・神戸市消防局 ・神戸大学大学院 人間発達環境学研究科(1名) ・国立障害者リハビリテーション学院
---	---

主な資格免許の取得状況

2011年度 ・中学校教諭一種免許状(保健体育) ・高等学校教諭一種免許状(保健体育)	2012年度 ・中学校教諭一種免許状(保健体育) ・高等学校教諭一種免許状(保健体育)
---	---

健康発達論 コース

▶ Course Keyword【コースキーワード】

□ヘルスプロモーション

□こころの健康

□ライフスキル教育

□健康行動

□公衆衛生

□健康と環境

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学ぶ

健康発達論コースは、人間の健康に関わる諸問題を扱う「健康科学」について学習・研究するコースです。健康科学においては、ヒトの構造や機能といった生物学・生命科学に関する領域、自然環境や生活環境に関する領域、健康政策や健康教育などヒトの心理的側面や社会科学などに関する領域についての広範囲な知識を身につけ、自ら問題提起をし、これらの問題に対して科学的且つ論理的に徹底して追及する能力が求められます。このような健康に関する広範囲な知識、および問題解決能力を身に付けることにより、より高度な学問を追求する研究者、あるいは実社会における指導者として活躍できる人材の育成を目標としています。このため、学習の目標を人々の健康増進

(ヘルスプロモーション)に置き、そのために必要な基礎的な知識(疾病予防、健康増進のメカニズム、人間の発達と健康、環境と健康とのかかわりなど)および現実生活中に生活している人々に直接貢献する実践的な知識(健康教育と行動変容、健康政策など)の両面について医学、保健学、教育学、心理学等の専門スタッフより教育がなされています。本コースにおいては、文科系、理科系双方の領域に関して広く関心と興味を持ち、ヘルスプロモーションに関する具体的な課題を発見し、健康科学に基づいて基礎的・応用的・実践的な問題を解明するため、徹底的に、且つ多分野にわたる人々と協力して問題解決を図っていき、こうとする意欲ある学生を待っています。

主なコース専門科目

- ヘルスプロモーション論

□健康統計学

□安全行動・管理論

□健康行動科学

□高齢者保健福祉論

□予防医学概説

□救急医療概説

□健康環境論

□健康評価論

□健康政策論
- 国際健康開発論

□健康政策論演習1・2

□健康発達研究法

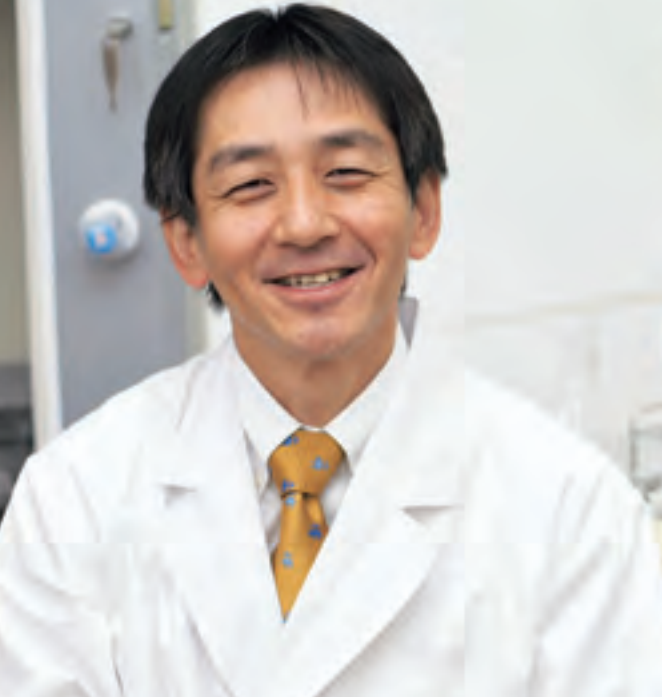
□ヘルスプロモーション論演習1・2

□健康行動科学演習1・2

□健康評価論演習1・2

□健康環境論演習1・2

教員からのメッセージ



生活習慣と健康との関係や仕組みを科学的に解明する

中村晴信 教授(公衆衛生学)

長い人生を健康で過ごすためには、日々の生活習慣をいかに適切なものにするかが重要です。しかしながら、生活習慣と健康に関する問題は、まだ未解明の部分がたくさん残されています。

私の研究室では、食事と健康との関係や、メンタルヘルスに及ぼす影響といった、現代社会に特有な健康問題を研究テーマとして取り上げ、それがどのような仕組みで生ずるのか解明に取り組んでいます。これらの研究は、多数の対象者に対してアンケートや測定を行うフィールド調査と実験室実験の2つの証明方法を組み合わせて行っています。学生の最終目標は卒業論文の完成です。科学的証拠に基づいた卒業論文の完成を目指して、研究室の学生が自主的かつ意欲的に取り組めるように学習環境を整備し、また、研究室内での発表では盛んに意見を交わり、卒業論文作成に取り組んでいます。せっかくの大学生活ですから、関心があることについて思い切り勉強してみませんか？

スタッフと研究分野・研究テーマ

加藤 佳子 准教授	川畑 徹朗 教授	中村 晴信 教授
健康教育、健康心理学	健康教育、ヘルスプロモーション	公衆衛生学
生活科学と心理学の学際領域をベースとし、食行動など日常生活における健康に関連する人の行動について探究し、健康の増進を目指しています。	青少年が薬物乱用などの危険行動を避け、健康増進行動を主体的に選択できるようにするため、健康教育、ヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について研究しています。フィールド調査で健康問題を発掘し、実験で証明するスタイルをとっています。



主な卒業研究テーマ

- ・運動部の活動に関連した課題に関する文献的考察

・里親制度に関する文献研究

・男性摂食障害の発症リスク軽減のための教育的アプローチに関する研究

・きょうだいと性格特性に関する研究

・PMS(月経前症候群)の実態把握と学校教育における月経随伴症状に関する教育の必要性の文献的検討

・運動習慣の二極化の現状・学校現場での教育的アプローチの提言

・現代的なリズムのダンスを中高生の体育授業に取り入れる意義について

・一般流動性知能と性格特性の相関について

・顔の再認記憶における社会情報が及ぼす影響に関する研究

・健康増進に関わる防衛体力とそれに対する運動効果に関する文献研究
- ・健康への運動効果に関する文献的研究

・高機能自閉症における一般流動性知能について

・心の健康についての文献的研究 ～宗教的視点を中心に～

・社会的スキルを介した愛着と不登校問題の関係

・若年女性におけるアレルギー疾患と食習慣および体組成・免疫獲得機会・ストレスとの関連について

・小学生における空間性ワーキングメモリの発達に関する研究

・摂食障害発症の関連要因に関する文献学的検討

・糖尿病患者における履物選択意識およびその行動

・美容から見た健康に関する文献的検討(化粧と健康との関係)

・ワーク・ライフ・バランスと健康に関する文献的研究

新たな視点を与えてくれる学問

渡邊 日香里 さん(健康発達論コース4年生)

「健康とは何ですか。」と聞かれたとき、皆さんなら何を思い浮かべますか？「病気がないこと」と考える人もいるのではないのでしょうか。しかし実際は、ただ病気をしていないことだけが健康をあらわすわけではありません。世界保健機関の定義に「身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態」とあるように、健康はさまざまな角度からとらえることができるものなのです。

この健康発達論コースではそういったさまざまな観点から健康を学ぶことができます。私はゼミで青少年の薬物乱用・喫煙・飲酒といった危険行動を防止するための教育プログラムを専攻しています。普段の生活に関係のある身近な話題であり、自分や周囲に重ねながら学ぶ事ができるためとてもおもしろいです。

また、健康発達論コースでは年に一度のコース合宿や月に一度の学習会があり、とてもアットホームな雰囲気の中で充実した大学生活を送ることができています。

学生からのメッセージ



行動発達論 コース

▶ Course Keyword 【コースキーワード】

☐加齢

☐行動発達

☐適応

☐学際性

☐文理融合

☐高齢社会

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

年齢とともに人間の行動はいかに発達し、人間はどのように社会に適応していくのでしょうか。人間の行動の発達にはどのような個人的・社会的課題が存在し、どのようにすればそれらの課題を解決でき、人間行動の発達を促進できるのでしょうか。行動発達論コースでは、そうした疑問や関心に答えられるように、人間行動の発達と適応に関する仕組みや原理を学び、現実のさまざまな人間行動を多角的に解明、理解する能力と実践力を身につけ、人類社会に貢献しうる学生の育成を目指しています。行動発達論コースでは、以下に示すような学際的・総合的な4つの学習目標を設定しています。1) 人間の行動を生体メカニズムから社会・文化的行動まで総合的に理解する能力を身につける。2) 人間の行動を発達論的観点と社会・文化的観点から分析

的に理解する能力を身につける。3) 人間の行動を自然科学と社会科学の両面から観察・解明する方法を習得する。4) 人間の行動と環境との関係についての理解を深める。これらの学習目標を達成するために、このコースでは、応用生理学、環境生理学、身体運動科学、加齢体力学、社会学、社会心理学、行動適応学、実験心理学、ジェロントロジー、アクティブエイジング研究、スポーツプロモーションなど行動発達に関わる諸領域の理論と方法を学び、実践力を養います。現代の人間や社会が抱えている多様な課題に情熱を傾けて意欲的に取り組む学生、そして人間行動に関わる未知の分野を積極的、自主的に開拓する意欲のある学生を待っています。

主なコース専門科目

- ☐行動発達研究法

☐エイジング研究

☐行動適応論

☐身体適応論

☐スポーツプロモーション論
- ☐予防医学概説

☐エイジング論演習1・2

☐身体機能加齢適応論1・2

☐身体適応論演習1・2

☐ヘルスポロモーション論

☐アクティブエイジング研究演習1・2
- ☐行動適応論演習1・2

☐行動発達演習1・2

☐運動処方論

☐運動心理学
- ☐身体運動制御論

☐栄養学

☐乳幼児発達論

☐臨床心理学

☐健康行動科学
- ☐バイオメカニクス実験

☐健康政策論

転倒予防の戦略と「七転び八起き」の大切さを学ぶ!?

岡田 修一 教授(加齢の身体運動科学)

身体機能は、様々な発達(加齢を含む)ステージにおける人間の行動を規定する要因のひとつです。加齢に伴って身体機能は低下しますが、なかでも立位バランス能力の低下は他の能力に比べ大きいことが明らかになっています。わが国の高齢者が抱える大きな健康問題となっている、老化期の転倒者の増加は立位バランス能力の低下が一因です。

直立二足歩行をとるヒトでは、転倒せずに生活を送るのはとても難しいことですが、少しの努力と知恵によって、転倒を予防することは可能です。私のゼミでは、身体運動科学的手法を用いて、転倒予防を視野に入れた高齢者の生活・運動機能の解析とその能力向上に関する研究や人間の行動に関わる今日的課題の解決に向けた研究を行っています。ゼミ活動、学内外での実験や測定を通して、超高齢社会における人間の行動に関する身体運動科学的方策について考究するとともに、「七転び八起き」の重要性を学んでほしいと願っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡田 修一 教授	近藤 徳彦 教授	長ヶ原 誠 准教授	増本 康平 准教授
加齢の身体運動科学	応用生理学、運動生理学、環境生理学	スポーツプロモーション、健康行動科学、ジェロントロジー	高齢者心理学、実験心理学、認知心理学
高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。	物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から検討し、ヒトのからだの不思議にせまります。	成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツ振興をテーマとして、健康的かつ活動的に年齢を重ねていくための支援方法を探究しています。	ひとの記憶・注意・感情・思考といった認知機能の仕組みや、加齢によるそれら認知機能の変化について実験心理学的手法を用いて研究しています。

主な卒業研究テーマ

- ランニングにおけるピッチの変化が体温調節反応に及ぼす影響

三次元映像を用いた突然の視覚的外乱が高齢者の立位バランスに及ぼす影響

大学野球部員における野球グラブの満足度と再購入に関する研究

大学野球部におけるキャプテンとポジションリーダーのリーダーシップ行動に関する研究

8週間にわたるオーディオビジュアル機器を用いた体操が高齢者の運動・認知機能および社会性に及ぼす影響

なぜ終の棲家として有料老人ホームを選ぶのか

大学女子ラクロス競技者のスポーツ価値意識に関する研究～男女比較による女子の特徴に着目して～

異なる歩行面における二重課題が高齢者の歩行動作に及ぼす影響

環境温度の違いが味覚閾値に及ぼす影響

地域日本語教室の学習者ニーズに関する研究―学習目的別の比較研究―

東日本大震災における小規模復興支援プロジェクトに関する研究

地デジ化に伴う高齢者のテレビ視聴に関する研究―データ放送の利活用に着目して―

Simple Cognitive testにより評価された認知機能と心身機能及び社会的活動性との関係

生け花が中高齢者に及ぼす心理・社会的効果に関する研究
- 家族の死の受容に関する研究 ～ネットがもたらすものとは～

高齢者の就活に関する研究

高齢者の投票参加に影響を及ぼす要因分析

滋賀県民にみる国民幸福度の要因とは―滋賀県民のスピリチュアリティに着目して―

自助グループにおける摂食障害者の新たな自己概念の獲得～「逃げ」という前進～

ジョガーのランニングウェア選好に関する研究

大学生のハンドボール継続に関する研究

暖色・寒色が温度環境の違いによる自律神経活動に及ぼす影響

段鼻の色および動作局面が高齢者の階段降下時の下肢筋活動に与える影響

中高齢者の「婚活」プロセス―結婚相談所に見る中高齢者の結婚活動の実態―

聴覚障害者の国外旅行の実態(国外旅行経験に影響を及ぼす要因の分析)

募金を巡る社会行動論的研究

歩数の違いが高齢者の運動機能・認知機能および主観的健康度に及ぼす影響

幼児の体温と身体活動性および環境要因との関連

ラベンダーとグレープフルーツの香りが高温下での自律神経活動に及ぼす影響

あらゆる角度から人間の「行動」を探求する

大谷 梨紗 さん(行動発達論コース4年生)

人間は生まれてから死ぬまでさまざまな行動をします。これらの行動は無意識的なものもあれば、成長してきた過程で形成されてきたものもあります。このような多種にわたる人間の行動をあらゆる角度・分野から探求できるのが『行動発達論コース』です。このコースでは、生理学、実験心理学、社会学、スポーツプロモーション、バイオメカニクスなど多領域にわたる研究分野から人間の行動発達のメカニズムを学ぶことが出来ます。また、加齢に伴う身体活動の変化や認知機能についての研究も行っており、高齢者が増加している現在の日本には欠かせない学問分野も取り扱っています。このようにあらゆる領域を学ぶことで人間の行動発達の理論や方法をより深く学び、実践力を養うことが出来ます。多領域にわたる人間の行動発達に対して熱心に学ぶことのできる学生、人間の行動の未知の世界を自ら解明していきたいという情熱を持った学生をお待ちしております。

学生からのメッセージ



身体行動論 コース

▶ Course Keyword 【コースキーワード】

- ☐ 体力・運動処方科学
- ☐ 身体行動の心理
- ☐ 身体行動とスポーツ医学
- ☐ 身体行動の社会学
- ☐ バイオメカニクス
- ☐ 体育・スポーツの歴史

人間の「行動」と「スポーツ」を科学するチーム

身体行動には日常生活を構成する基本的な運動から、気晴らしや健康のための軽い運動、スポーツのような人間が創造した身体文化に至るまで、実にさまざまな身体活動が含まれます。本コースでは、このような身体行動に関するさまざまな事象を自然科学・人文科学・社会科学的手法を用いて分析し、人間の発達および社会との関わりにおいて身体行動が果たす役割を究明すること、さらにはこれらの知見をスポーツ行動や生活の場に応用し、運動機能の向上を助け、よりよい身体行動の実践に貢献したいと考えています。代表的な授業科目としては、体育・スポーツ史、運動心理学、体力科学論、身体運動技術論、ストレス生理学、身体運動制御論、生涯スポーツ論、運動処方論などの

講義があります。また、実験科目として、バイオメカニクス実験や運動生理学実験も用意しています。人間の運動を種々の測定機器を駆使して、さまざまな手法を用いて分析し、人間の身体運動のメカニズムを自らの手で実験・解析することによって理解を深めます。実習科目では水泳系運動方法論、野外運動方法論など、学生と教員やティーチングアシスタント学生が宿泊をともにして海洋実習や六甲山縦走、スキー実習などを展開しています。3年次からは各研究室に分かれ、演習を中心に卒業研究を進めるために必要な知識や手法を学び、総まとめである卒業研究へと発展させていきます。さらには大学院への研究発展をも可能にできることを目指しています。

主なコース専門科目

- ☐ 体育・スポーツ史
- ☐ 体力科学論
- ☐ 陸上運動方法論
- ☐ バイオメカニクス実験
- ☐ スポーツ社会学研究法
- ☐ スポーツ社会学
- ☐ 身体適応論
- ☐ 水泳系運動方法論
- ☐ 球技運動方法論
- ☐ 運動心理学研究法
- ☐ 運動心理学
- ☐ 身体運動制御論
- ☐ 野外運動方法論
- ☐ 武道系運動方法論
- ☐ 体操運動方法論
- ☐ 身体運動技術論
- ☐ 身体運動システム論
- ☐ スポーツマネジメント論
- ☐ 舞踊運動方法論
- ☐ 運動処方論
- ☐ 運動障害論
- ☐ 運動生理学実験
- ☐ 体育・スポーツ史研究法

教員からのメッセージ



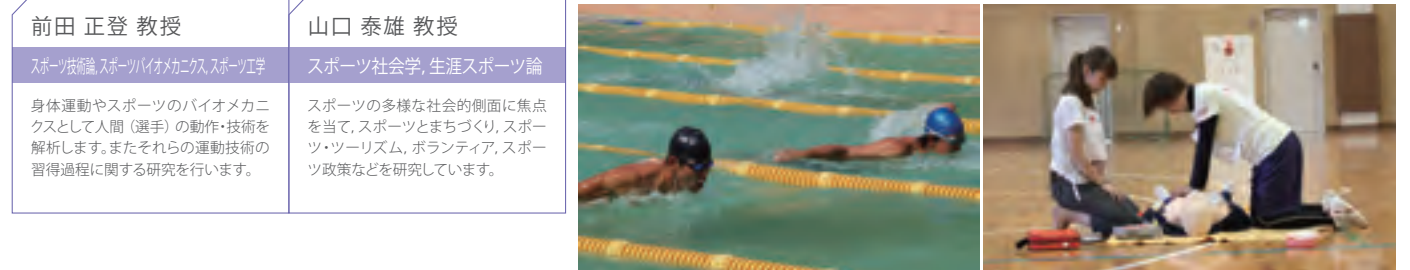
スポーツパフォーマンス向上と子供から高齢者までの体力増進

高田 義弘 准教授(運動生理学(身体コンディショニング))

スポーツを構成する体力要素は、種目によって大きく違います。例えば投手が速い球を投げられるためには、どのような能力を向上させればよいのでしょうか。筋力?筋持久力?筋パワー?これまでのトレーニングの量や質も違えば、身長や腕の長さなどの体格も違い、筋肉の質も違ってきます。これをやれば絶対に速い球が投げられるなど、パフォーマンスを伸ばす魔法の方法はありません。現在のレベルに応じた正しいトレーニングを行う必要があります。ゼミでは、その競技に必要な体力要素とそれをどのように測定して評価するのかや、どのようなトレーニングをどのくらいを行えばいいのかを研究します。また、現在医療費の高騰などの一因となっている生活習慣病予防対策について、その知識をどのようにすれば啓蒙できるかを各種団体と協力しながら講演会や展示会を企画し行っています。さあ、あなたも一緒に社会に役立つ研究・教育活動と一緒にやりませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

秋元 忍 准教授	河辺 章子 教授	高田 義弘 准教授	高見 和至 准教授	平川 和文 教授
体育・スポーツ史	運動生理学(身体運動制御)	運動生理学(身体コンディショニング)	運動心理学	運動生理学(運動処方論、体力・トレーニング科学)
スポーツの未来を展望するには、その過去と現在に関する深い認識が不可欠です。身体・スポーツ文化の過去を新しい視点から解明します。	ヒトの運動の発現のしくみから動きの巧みさを考えるとともに、どのようにして巧みな動作を身につけることができるかを探究しています。	野球投手の障害予防や競技力向上のためにはどのようなトレーニングを行えばいいのかを、疲労とパフォーマンスの変化から研究します。	運動やスポーツは「時間とエネルギーの消費」とも言えます。では何故、人は夢中になり、何を求めているのでしょうか。この人間の心理に潜む「何故」を探究しています。	「子どもの体力・運動能力」、「スポーツの競技力向上」、「高齢者の運動と健康」について、運動処方の観点から研究しています。



主な卒業研究テーマ

- ・弾性ソックス着用が運動後の心臓自律神経系活動に及ぼす影響
- ・野球における走塁技術に関する研究
～進塁時間短縮のための走塁方法を求めて～
- ・野球投手における投球腕の動作がボールの回転に及ぼす影響
- ・フットサル選手の間欠的持久性評価方法の検討
～直線、方向変換に着目して～
- ・KR&AC交流試合が神戸におけるサッカー普及に果たした役割
—明治から大正期を中心に—
- ・縄跳び運動が子どもの集中力に及ぼす影響
- ・走運動における下肢動作の左右差に関する研究
- ・大学運動部における集団効力感を規定する要因
- ・女子ラクロスにおけるクロスの保持が走運動に及ぼす影響
- ・中年ランナーの自主的な運動の継続要因
- ・水泳における効果的な下肢トレーニングの検討と付随する腰痛に関する実験的研究
- ・膝関節伸展筋力に対するアブドミナルベルト着用の影響
- ・運動後低血圧を引き起こす運動強度の下限の検討
- ・1分間の高強度激運動による疲労指標に関する研究
—3時間の休息期をはさむ運動の反復からの検討—
- ・運動後のクーリングダウンにおけるPNFストレッチが筋疲労回復に及ぼす効果
- ・競技種目の違いからみた立ち幅跳びの最適跳躍角度に関する研究
- ・筋出力量の記憶保持に関する研究
—保持時間と発揮筋力の大きさに着目して—
- ・Jリーグクラブにおけるボランティアマネジメントに関する研究
—関西に拠点を置くクラブに着目して—
- ・スポーツ経験がスポーツ参与に与える影響
—「みるスポーツ」と「するスポーツ」の2つの観点から—
- ・大学運動選手におけるセルフトークの使用状況と効果に関する研究
- ・男子ラクロス競技フェイスオフスキルに関する研究
- ・投球数増加に伴う上肢と下肢の筋疲労からみた投手の類型化の試み
- ・バスケットボールの試合による疲労がジャンプシュートに及ぼす影響
- ・バレーボールのスパイクジャンプに関する研究
—両脚の使い方に着目して—
- ・ボート競技において肩と肩甲骨の関節可動域が漕動作に及ぼす影響

変化する時代の中で、「一歩先」をみすえる場所

佐々木 里菜 さん(身体発達論コース4年生)

近年、日本は超高齢社会に突入しました。人々の寿命が延びる中、その生活は本当に豊かになっているのでしょうか?人々の生活を豊かにし、社会における多様な問題をスポーツの立場からみる、それが私の専攻するスポーツ社会学です。この分野では、人々のライフステージにあったスポーツを提供し、それを行うことで体力増進や仲間との交流、楽しみ、といったことから「いきがい」をみつけ、QOL(生活の質)の向上へつながることを目指しています。ライフステージにあったスポーツとは、「子どもから大人までそれぞれの能力にあったスポーツを楽しむこと」であり、この継続が「生涯スポーツ」へつながります。

このように、スポーツを通じて学べるのがこのコースの最も強い特色であり、また、多くの素敵な仲間と一緒にフィールドワークを通じて学べることも魅力だと思います。

スポーツが大好きでスポーツについて学びたい方、このコースと一緒に学びましょう!

学生からのメッセージ



人間表現学科

人間のあらゆる営みを、「表現」をキーワードに解明する

学科の理念

広い知識を授けるとともに、音楽、造形、パフォーミングアーツ等の人間の様々な表現や創造活動について教育研究を行い、教養並びに表現領域についての幅広い知識や個々の領域における専門的な知識及び技術を身に付け、研究、創造及び社会的実践に関する優れた能力を有する人材を養成することを目的とします。

学科の特色

表現の原初に立ち帰る

人の表現行為は、日常の何気ない所作や立居振舞から「芸術」と呼ばれるものまで、実に多様です。その現れ方は、音声や身振りに始まり、身体や道具を使つての音、色、かたち、香り、味などの創造へと多彩に発展しますが、すべては人間の五感に基づくものです。近年のテクノロジーの進歩は、この表現の実体までも曖昧にしていくかのようにですが、私たちは、変容し続ける人間の表現行為について、まずその原初に立ち帰って考えます。



複眼的アプローチで挑む

表現は、私たちの生の反映です。私たちひとりひとりの一挙一動には、その影響と反応を、無限に繰り返し共有するコミュニケーションのサイクルが内包されており、それが歴史を創るのです。その渾然一体となって姿を変える人間表現の解明に、私たちは、表現創造論、表現文化論、臨床・感性表現論という3つの視点から複眼的なアプローチで挑みます。

アート/ヒューマンインターフェースの研究・開発を目指す

専門性を高めることは何より重要なことですが、その上で私たちが目指すのは、本来、分かちがたい表現領域から、音楽、舞踊、美術、ファッションというように分割されてきた専門分野を、「表現」を鍵にして結び合おうとする教育研究の場です。ここから、多彩な表現世界を自由に往来して、新しい表現と価値を生み育て、人と人をつなぐ豊かなアートの創造と研究に携わる人材が生まれゆくことを願っています。



履修コース

未来を担うクリエイター、ファシリテーターを目指そう！

表現創造論 コース

定員：18名

▶P40



歴史や社会といった文脈の中で、表現文化を考える

表現文化論 コース

定員：18名

▶P42



新しいアート・ヒューマンインターフェースの開拓に挑戦する

臨床・感性表現論 コース

定員：12名

▶P44



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・中学校教諭一種免許状(音楽)
- ・高等学校教諭一種免許状(美術)
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・高等学校教諭一種免許状(音楽)
- ・学芸員*
- ・環境再生医資格*
- ・中学校教諭一種免許状(美術)
- ・社会教育主事*

学科長からのメッセージ

学科長 小高 直樹教授
(臨床・感性表現論コース)

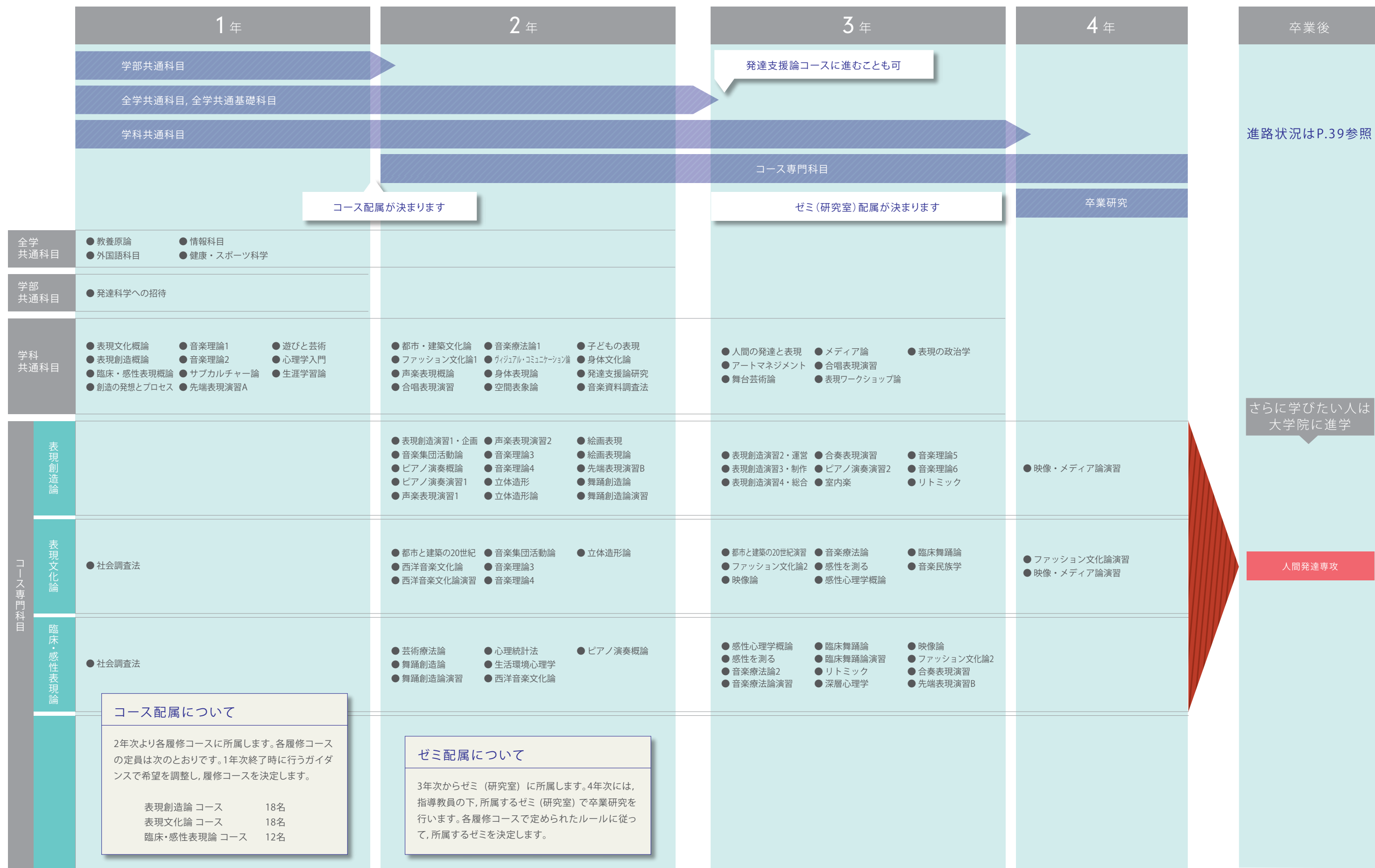
私たち人間は、長い歴史にわたって、その時々々の環境のもとでさまざまな表現を行い、その時代に固有の文化を生み出してきました。とりわけ音楽や造形、舞踊といった創造的表現は極めて人間的な行為であり、人間の発達や変容にとって欠かすことのできない重要な営みです。人間表現学科では、こういった人間の創造表現の本質を、理論と実践の両面から探究しています。

理論とはいわば論理の世界です。それに対して実践においては、ときとして論理を超えたものを求められることがあります。この論理の世界と、論理を超えた世界を結びつけることは決して容易なことではないのですが、理論と実践の世界を往還し、葛藤するなかにあつてこそ、新たな創造実践のインスピレーションがかき立てられ、また新たな理論の創出も可能になると考えています。

このような考えのもと、人間表現学科では、さまざまなユニークで刺激的な学びの場を提供しています。理論と実践の世界を縦横無尽にかけめぐりましょう。



入学から卒業までの流れ・カリキュラム



さらに学びたい人は
大学院に進学

人間発達専攻

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

東京芸術大学音楽研究科
音楽文化学音楽文芸専攻博士課程 在籍

生田 美由紀 さん
(2009年3月卒)



分野横断型の学びがくれたもの

演劇と音楽の二つに興味を持って人間表現学科に入学した私でしたが、神戸大学在籍時には、学科の特質である「各芸術分野を横断的に学ぶ」ということを最大限に活用できました。現代アートについて学ぶ機会は特に多く与えられ、中でもそれぞれ異なる特技をもつ仲間たちと分野横断的なパフォーマンスを創作する機会が与えられたのは、現在の私が芸術に関わるうえで、重要な経験となっています。大学在籍時に教授を通して関った市民オペラでの経験がきっかけで、外国作品を日本語で歌うことの意義はなにかということに疑問を持ち、より専門的な研究を志して東京芸術大学に進学しました。現在は外国オペラの「訳詞」について研究を進めています。また、演劇活動も続け、某新劇劇団の研修所に所属しています。芸大でも研修所でも、それぞれ専門分野に特化した活動になりがちですが、人間表現学科で学んだ幅広いアプローチ方法は大きなヒントになっています。

INTERVIEW 03

株式会社
博報堂プロダクツ 勤務

宇野 雅晴 さん
(2011年3月卒)



今をかたちづくっているのは、 ひとつひとつの学びです

私は広告制作会社の営業として、顧客動向のデータ分析、webサイトの作成・管理、DMなどの販促物の制作を行っています。大学時代は、情報社会論のゼミで学んでいました。メディアと密接な関係があり、社会の雰囲気をつえ、発信し、購買の促進や企業のイメージづくりに寄与する広告業に興味があり、この仕事を選びました。学生時代を振り返って印象に残っているのは、美術、音楽、身体表現といったさまざまな分野の先生方と直接インタラクティブな意見のやりとりができていたことです。それが可能だったのは、大学という環境だからこです。この学科は、学んだことが直接仕事と結びつくようなタイプではないと思います。しかし、感性や美といった抽象的で明確な答えのない命題に取り組むことによって、その人なりのユニークな考え方や解決法が身に付くと思います。広告とは人と違った視点で価値を生み出すことが大事なので、大学での学びは私の強みと自信になっています。

INTERVIEW 02

大阪府立吹田高等学校 勤務

池本 早織 さん
(人間行動・表現学科2008年3月卒)
(発達科学部は2005年4月に3学科を4学科に
改組しました。人間行動・表現学科は現在の
人間行動学科と人間表現学科の前身です。)



今、私が最も学生に送りたい言葉、 「好奇心の塊であれ」

私は現在、大阪府立高校で音楽教諭として勤務しています。教員という仕事には昔から興味があり、その想いは変わることなく発達科学部入学へ至りました。教員採用試験受験の際、志望動機を改めて考えましたが、結局答えは「学校という場所が好きだから」。

学部時代、指導教員である大田美佐子先生の生き方に非常に感化され、「音楽学」というものの見方が変わり、大学院に進むに至りました。人間表現専攻において、音楽のみならず他の表現分野の意見を横断的に吸収し、メディアを駆使した原語論文収集法や研究者としての心得を学ぶことができたことは、大きな収穫でした。ドイツ、オーストリア、アメリカに短期留学したり、学会に積極的に参加したりするなど二年間貪欲に過ごし、その経験は現職で活かされています。自身の専門は近現代アメリカ音楽史ですが、将来もう一度現地で研究したいというのが野望です。今は現場で日々奮闘していますが、ずっと変わらず「好奇心の塊」でありたいと思っています。

INTERVIEW 04

セントラルスポーツ
株式会社 勤務

高畑 侑季 さん
(2010年3月卒)



スポーツクラブという舞台ではたらく

私はスポーツクラブに就職し、インストラクター業務を行って2年が経とうとしています。エアロビクスやダンスのレッスンも行うほか、子どものスクール指導から経費の処理まで様々な業務をこなしています。私は在学中から「身体表現力を活かして人を元気にしたい」という思いで将来を考えていたので、「0歳から一生涯の健康づくりに貢献する」という企業理念に惹かれ就職しました。お客様の喜ぶ顔が最高のやりがいです。在学中には自らが中心となり学科の皆で協力し、舞台を一から作り上げたのが強く印象に残っています。スポーツクラブでもアルバイトを含め多くのスタッフがいる中、どう上手くまとめていこうかがクラブを率いる社員としての役目でもあります。私は在学中の経験を活かし、より良いクラブを作れるように一人ひとりの特性を見てアドバイスをしています。これからもお客様を元気にできる活気のあるクラブを作り、健康産業を盛り上げていきたいです。

主な進路・主な資格免許の取得状況

表現創造論 コース

主な進路

- | | |
|----------------|-------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・キョードー大阪 | ・小野 |
| ・愛媛朝日テレビ | ・さくらケーシーエス |
| ・星野リゾート | ・損害保険ジャパン |
| ・レンゴー | ・太陽生命保険 |
| ・NTTドコモ | ・富士通アドバンスソリューションズ |
| ・神戸市立保育所 | ・富士通パーソナルズ |
| ・大阪府立学校教員(中学) | ・三菱東京UFJ銀行 |
| ・神戸大学大学院 | ・良品計画 |
| 人間発達環境学研究科(2名) | ・堺市教員(中学) |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究科(1名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | ・中学校教諭一種免許状(音楽) |
| ・中学校教諭一種免許状(音楽) | ・中学校教諭一種免許状(美術) |
| ・中学校教諭一種免許状(美術) | ・高等学校教諭一種免許状(音楽) |
| ・高等学校教諭一種免許状(音楽) | ・高等学校教諭一種免許状(美術) |
| ・高等学校教諭一種免許状(美術) | |
| ・幼稚園教諭一種免許状 | |
| ・学芸員 | |

臨床・感性表現論 コース

主な進路

- | | |
|------------------|----------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・コーエーテクモホールディングス | ・アドバンスト・メディア |
| ・コベルコシステム | ・イワタニ近畿 |
| ・東海ゴム工業 | ・エコシシステムズ |
| ・阪神高速道路 | ・大阪ガス |
| ・埼玉県職員 | ・大塚家具 |
| ・神戸大学大学院 | ・ナガセケミカル |
| 人間発達環境学研究科(1名) | ・JTBコミュニケーションズ |
| | ・クイック |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究科(2名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|--------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・小学校教諭一種免許状 | |
| ・中学校教諭一種免許状(音楽) | |
| ・中学校教諭一種免許状(美術) | |
| ・高等学校教諭一種免許状(音楽) | |
| ・高等学校教諭一種免許状(美術) | |
| ・学芸員 | |

表現文化論 コース

主な進路

- | | |
|----------------|----------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・神戸デザインクリエイティブ | ・住友商事 |
| ・ジュー | ・第一三共 |
| ・社会福祉法人希望の家 | ・ホンコンマダム |
| ・パルグループ | ・三菱東京UFJ銀行 |
| ・JR西日本伊勢丹 | ・神戸市職員 |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究科(2名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事、社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|------------------|------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・中学校教諭一種免許状(家庭) | ・中学校教諭一種免許状(音楽) |
| ・高等学校教諭一種免許状(美術) | ・中学校教諭一種免許状(美術) |
| ・学芸員 | ・高等学校教諭一種免許状(音楽) |
| | ・高等学校教諭一種免許状(美術) |

表現創造論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- 複合的表現
- 絵画
- 彫刻
- 声楽
- 器楽
- 作曲

未来を担うクリエイター, ファシリテーターを目指そう!

私たち人間は、遥か古の時代より、思考や感情を表現しようとする欲求に駆られて、さまざまな文化を生み出し、この地球に生き存えてきました。なかでも音楽、造形、舞踊といった創造的表現は、本来、人間の生存本能に基づく必然的な文化的・芸術的行為であり、人間固有の発達や人格の形成に欠くことのできない重要な営みとして人びとの暮らしの中に根付き、永々と受け継がれてきています。表現創造論コースでは、このような人間存在の根幹に関わる創造的表現の可能性を、音楽や美術に基軸を置いた実践的研究を通じて多面的に追求し、私たち人間の存在の意味や文明の未来を、自分自身に、そして社会に問いかけていきます。さらに、それらの枠組みでは捉えきれない多様な表現領域をも巻き込んだ「時間と空間における総合的な表現の創造」にも挑戦し、各人固有のエネルギーと個性を存分に生かした協

同一致の表現世界の創造を目指します。この試みはコース必修科目である一連の「表現創造演習」において総合的なパフォーマンスとして結実させますが、同時にアート・マネジメントの実践の機会としても活用し、企画立案からパフォーマンスまでのプロセスをトータルに学びます。一方、マルチメディアやニューテクノロジーによる先端的融合表現の領域をも視野に入れながら、次代を担う複合的で新しいタイプのクリエイター、ファシリテーターの養成を目指しています。つまり、当コースで育まれるのは、美や自然の尊厳に対する鋭敏な感覚と洞察力に富んだ問題意識並びに、バランスに富んだ統治能力と現場感覚なのです。そして、このような美意識や能力を具えた人間力豊かな人材こそが、アートを新たな調和の世界へと導き、未来を切り開くものと確信しています。

主なコース専門科目

- 表現創造演習1・企画
- 音楽集団活動論
- 音楽理論3・4
- 絵画表現論
- 合奏表現演習
- 表現創造演習2・運営
- ピアノ演奏概論
- 立体造形
- 先端表現演習
- 室内楽
- 表現創造演習3・制作
- ピアノ演奏演習1・2
- 立体造形論
- 舞踊創造論
- 表現創造演習4・総合
- 声楽表現演習1・2
- 絵画表現
- 舞踊創造論演習

教員からのメッセージ

うたう
-息づかいが聞こえていますか、
感じていますか？

佐々木 倫子 教授(声楽)

私のゼミには、声を使って表現することに興味がある人が集まっています。音楽の中で、歌だけが言葉を持っていますが、言葉に魂を吹き込むのが息づかいを伴った声です。たとえば、毎日誰かと交わす「こんにちは」という挨拶ひとつ取り上げても、私たちはこれが昼間に出会ったときの挨拶だという意味以外に、この人は、今日は元気だなとか、疲れているのかな、何か怒っているなということは無意識に感じ取っています。それは、言葉の意味ではなく、息づかいつまり言葉を発した人の思いです。うたう者にとっては意味よりもこの息づかいのほうが重要であることが多いのです。このゼミでは、様々な息づかいが、どのような身体への反応とともに生まれてくるのかを観察・分析しながら、呼吸のコントロール法を身につけ、自分の声(うた)の表現へとつなげています。くうたう>という身体表現を通して生まれる感動や疑問を土台に、一緒に考え、議論しながら表現について深めてみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岸本 吉弘 准教授	佐々木 倫子 教授	田村 文生 准教授	塚脇 淳 教授	坂東 肇 教授
絵画表現	声楽	作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究	美術、彫刻	器楽(ピアノ、室内楽)
現代における「絵画表現」を実践的(実技) また理論的(研究) な両側面より追求し、より本質的な人間表現としての「絵画」像を模索しています。	クラシックの声楽曲の中で、日本・ドイツ・ロシアの歌曲を中心に研究・実践しています。どの歌曲も語るように歌うことがテーマです。	音楽作品の様式・実態・機能の分析により、音楽の作られ方・聴かれ方を研究しています。様々な演奏形態での音楽表現の多様性を、作品の創作によって提示しています。	20世紀の美術、特にロダン以降の抽象彫刻について研究教育しています。私自身は彫刻家として鉄の彫刻を制作し、国内外に精力的に発表しています。	音の中に込められた想いはどのような形をとって表現となり人の心に達するのか。ピアノ演奏におけるコミュニケーションに内在する原理を探求しています。

主な卒業研究テーマ

- ・ピクサーの成長にみられる3DCG映画が果たした役割と組織文化
- ・日本のジャズにおける実践・受容空間とコミュニティ ～その質的変容に関する考察～
- ・モーリス・ラヴェル《弦楽四重奏曲へ長調第一楽章》における「響き」と「形式」
- ・他者の文化的介入によって変容する先住民の造形 ―カナダ北西海岸先住民を一例に―
- ・声のことばの可能性 ～「詩のボクシング」を例に～
- ・『WEST SIDE STORY』が与えた影響について
- ・テレビアニメ『少女革命ウテナ』に見る前衛的演出 ～寺山修司の映画作品との比較を通して～
- ・現代日本アニメにおける「行間」についての研究 ―リミテッド・アニメーションの視点から―
- ・日本における音楽療法士の資格制度について ～国家認定の資格にむけての課題～
- ・スティーヴ・ライヒの中期作品におけるミニマリズムからの逸脱プロセスについて 一声を使った作品を中心に―
- ・クラシックピアノにおけるアマチュアの活躍と今後の展望
- ・マーク・ロスコの「場」の創造 ―シーグラム壁画にみる鑑賞者の経験を中心に―
- ・フランツ・リストの信仰心と音楽 ―巡礼の年第3年S.163>を中心に―
- ・「うた」の現代性と『信濃の国』―校門を出た唱歌―
- ・音響的視点から捉えるメディアアート
- ・J-POPと社会
- ・アーティストと学校の連携による教育実践の可能性
- ・アルフレッド・リードが日本の吹奏楽界へ与えた影響
- ・横尾忠則の絵画における流用表現
- ・イジー・トルンカ人形アニメーション作品における後期4作品の特殊性に関する研究ノート ―『真夏の夜の夢』以前の作品との比較から
- ・歌・絵本に込められた子どもたちへのメッセージ ～現実を語る作品から、社会の変化を読み解く～
- ・描かれる「女性像」の変化に関する考察
- ・コンサートホールとオーケストラ ―その相互関係の現状と課題―
- ・サイトスペシフィック・アートの発生と展開
- ・ソルの教授法から見た練習曲集 ～教則本と作品60を通して～
- ・ニキ・ド・サンファル研究 ―射撃絵画から『ナナ』に至るまでの表現―
- ・日本における社交ダンスの風紀問題 ―昭和初期までのダンスホールの商業化を中心に―
- ・モーリス・ラヴェルの音楽作品における機械的性質と卓越性
- ・ヤン・シュヴァンクマイエルの芸術における触覚への拘泥
- ・よさこい系祭の現状及び今後の可能性 ～関西の祭を中心に～
- ・肖像画の四分の三観面に関する研究
- ・創作和太鼓の成立と発展

「幅広い視野を持って芸術を学ぼう」

青木 優佳 さん(表現創造論コース4年生)

私は幼少期からヴァイオリンを学んでおり、芸術大学への進学を考えていましたが、この表現学科では幅広い視野をもって芸術を学べると知り、芸術大学とは違った魅力のあるこの学科を志望しました。表現学科のユニークな点は、他ジャンルの芸術に触れる機会を通じて、自身の専門分野においても表現の幅を広げられることです。私は、今まで技術にとらわれ価値観が狭くなっていましたが、この学科で学ぶことで、表現には様々なアプローチがあり、感じたことを素直に伝えることの重要性に気づきました。私が所属する表現創造論コースは、特に実技に重点を置いています。このコースでは必修授業として「表現創造論演習」があり、音楽と美術と身体表現を融合させた舞台を白紙の状態から自分たちで創り上げていきます。様々な価値観を持つ仲間と共に1つのものを創り上げていく上で多くの葛藤がありますが、やり遂げた後の達成感は何物にも代え難いものです。

学生からのメッセージ



表現文化論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- ☐表現
- ☐民族音楽
- ☐建築
- ☐メディア
- ☐音楽文化史
- ☐ファッション

歴史や社会といった文脈の中で、表現文化を考える

「表現」といえば、アーティストやパフォーマーの専売特許だと思いませんか?もし、あなたがそんなふうに思っているなら、ぜひ表現文化論コースの扉を叩いてみてください。そこには、これまで知らなかった表現の世界が広がっているはずです。表現文化を学ぶ立場からすれば、あらゆる人間の生きた証こそが「表現」なのです。そのとき表現者とは、何か特別な才能をもった人たちばかりではありません。それとは比べものにならないくらい多くの普通の人びとがそれぞれの時代を懸命に生きる中で、さまざまなモノが創り出され、歌が生まれ、街ができ、流行と同時に変わらぬ伝統も受け継がれてきたのです。傑出した芸術作品もまた、この広がり抜きには語れません。

このようにして、近代社会の形成とともに人間をとりまく環境や身の回りのものごとは、目まぐるしく変容してきました。それはまた、人間の考え方や振る舞いにも影響を与えずにはおきません。表現文化論コースでは、近現代において独自の展開を見せてきた表現分野、たとえば建築、デザイン、メディア、ファッション、音楽文化、舞台芸術などを取り上げながら、人間の創造物や表現行為に関わる歴史や文化を、政治や経済、社会、技術といったさまざまな文脈から学び、人・モノ・社会の交流のなかに生成する近現代の表現文化を見つめ、考え、その可能性を探求します。そのなかから、あなたの知的好奇心は、新たな表現のあり方と人間の姿を発見することでしょう。

主なコース専門科目

- ☐都市と建築の20世紀
- ☐音楽理論3・4
- ☐映像論
- ☐臨床舞踊論
- ☐西洋音楽文化論
- ☐立体造形論
- ☐音楽療法論
- ☐ファッション文化論演習
- ☐西洋音楽文化論演習
- ☐都市と建築の20世紀演習
- ☐感性を測る
- ☐映像・メディア論演習
- ☐音楽集団活動論
- ☐ファッション文化論2
- ☐感性心理学概論
- ☐音楽民族学

教員からのメッセージ

ファッションの「今」を過去から見つめ直す

平芳 裕子 准教授(ファッション文化論, 表象文化論)

みなさんは「おしゃれ」と言えば女性のものと思っていませんか。ハイヒール、アクセサリ、レース、刺繍など、現代の女性ファッションにとって欠かせないアイテムが、歴史を遡ると実は「男性」貴族を華やかに飾っていたことがわかります。それではなぜ、どのようにしてファッションは女性的なものと見なされるようになったのでしょうか。私のゼミでは、西洋を中心にファッションやブランドをとりまく文化の歴史を学び、人々がファッションをいかに解釈してきたのかを考え、実物の服飾作品を美術館で見学しながら、近現代のファッション文化に対する知識と理解を深めています。古くから洋服産業の発展してきた街・神戸において、歴史を学ぶことで、ファッションの「今」を過去から見つめ直し、現代に対する認識を新たにする一卒業生の中には実際、ファッション業界で活躍している人もいます。あなたもファッションについて、ぜひ一緒に学んでみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

梅宮 弘光 教授	大田 美佐子 准教授	田畑 暁生 准教授	谷 正人 准教授	平芳 裕子 准教授
近代建築史	西洋音楽史, 音楽美学	社会情報学, 映像論	民族音楽学・異文化理解教育	ファッション文化論, 表象文化論
20世紀の建築について研究しています。とくに日本の大正期, 昭和戦前期。実際に建てられたものだけでなく, 計画倒れや夢想に終わったものも興味深いです。	両大戦間の音楽文化の諸相(音楽・音楽劇における伝統の継承とその展開, 受容の問題)について研究しています。	現代は情報社会と呼ばれ, さまざまな情報メディアが社会で利用されていますが, その機能や影響について, 特に映像メディアを中心に, 研究しています。	イラン音楽を題材に, 「即興」「伝統」「オリジナリティ」などの諸概念を研究しています。最近ではイラン国外に亡命した音楽家達も視野に入れつつ, 伝統音楽の教授法の変遷やウエアエーションを調査しています。	ファッションとそれを取りまく文化の歴史を明らかにすることによって, 西洋近現代を中心とする「ファッションと女性」との関わりを考察しています。

主な卒業研究テーマ

- ・舞台芸術とマーケティング ～その理論と実践について～
- ・日本人の美意識に関する考察 ―ファッション文化史的な観点から
- ・ブランドとしてのチャネルの継続性に関する考察 ―復帰コレクションを中心に―
- ・複製技術と既製品の登場による芸術的価値観の変容についての考察 ―デュシャン, ウォーホールに焦点を当てて―
- ・企業広告におけるヴィジュアル・デザインについての一考察 ―『年鑑広告美術』の中のサントリーウイスキー4商品を事例として
- ・コミックを原作とした実写映画化に関する考察 ―「ハチミツとクローバー」の内容比較
- ・雑誌『オートバイ』(1983年～2003年)に見られる Kawasaki GPZ900Rのデザインの変遷
- ・神戸市における1980年代以降の都市開発と遊園地
- ・「デジタル・コピー」の時代における音楽消費習慣の変容について
- ・日本のエイズポスター表現に関する研究
- ・パンクファッションの誕生と展開 ―1970年代イギリスから現代日本まで―
- ・ファッションにおけるジャポニズム ―着物がモードに与えた影響―
- ・「アウトサイダー・アート/アール・ブリュット」の日本での受容 ―ボーダーレス・アートミュージアムNO-MAの取り組みから―
- ・デジタル情報財の価値設定問題に対する考察 ―効率性と公平性の観点から―
- ・「ゆるキャラ」人気に関する一考察
- ・1936年撮影神戸市空中写真の分析をとおして見た, 戦前期神戸の都市景観に関する研究
- ・1968年における男女の表象に関しての一考察 ―『平凡パンチ』と『婦人公論』を手がかりとして
- ・4マス媒体との比較から見るインターネット広告の課題
- ・iPodとウォークマンのコンテンツ保有からの考察 ―テレビCM事例を通して―
- ・朝日新聞の松屋(呉服屋)店の広告(1922-1942年)に見られる 銘仙の盛衰に関する一考察
- ・エドゥアール・マネ 近代絵画と女性像
- ・音楽史のなかのベルエポック ードビュッシーの作品と思想を通して―
- ・芸術家と市民の「文化」観念の相違 ～明治期・大正前期の交響楽運動からみるオーケストラのアウトリーチ活動への示唆～
- ・雑誌『暮らしの手帖』による生活の提案に関する研究

興味ある分野を探し出し、とことん追究してゆく

西川 侑輝 さん(表現文化論コース4年生)

表現文化論コースでは、人間が築き上げてきた表現分野について、様々な角度から学び、その可能性を探求することができます。一口に「文化」と言っても、多種多様なものがあり、分野を限定することが困難かと思われます。しかし、だからこそ自分の興味ある分野を探し出し、とことん研究することに価値を見出すことができるのではないかと感じます。また、カリキュラムを受ける中で、自分が今までに関心の無かった分野にも目を向け、幅広い知識を身につけることができるのも、このコースの大きな魅力です。

私自身は、テレビや新聞といったマスメディアに関心があったので、「メディア論」を専攻しているゼミに入りました。ゼミでは、ただ自分が興味ある分野を学ぶだけではなく、統計論や文献研究を行い、今後、卒業論文で研究する分野をあらゆる方面から探求してゆく足掛かりを作っているところです。

学生からのメッセージ

臨床・感性表現論 コース

- ▶ Course Keyword (コースキーワード)
- コミュニティ □図形科学
 - 音楽／ダンス療法 □感性心理学
 - 臨床音楽学／舞踊学 □視覚・物質文化

新しいアート・ヒューマンインターフェースの開拓に挑戦する

人々の価値観が多様化した現代社会においては、これまで我々の生き方を規定してきた文化的な枠組みは大きく変化し、社会と人間の間には新たな関係が見出されるようになってきました。人間の表現行為は、芸術から日常的な行為にまでさまざまな様態がありますが、そういった行為を一続きのものとする見方も、比較的最近になってからと言ってよいかもしれません。

歌を歌う、踊る、ものを作るといった人間の表現行為は専門の芸術家でなくとも、すべての人間にとっても、生きていく上で大変大きな意味を持っています。その領域は、音楽療法やダンス療法、美術療法といったさまざまな芸術療法という形に展開することができますし、あるいはデザインや生活上のさまざまな表現リソースの開発や研究としても展

開できます。また、新しい時代の芸術表現の創造へと展開する大きな可能性も秘めています。

臨床・感性表現論コースでは、従来のさまざまな芸術コースとも、諸芸術学ジャンルとも異なり、表現者として、新しいアート・ヒューマンインターフェース(芸術と人間という2つのものの間に立って、双方の情報のやりとりを仲介するもの)を研究し、開発する人材を養成していくための大変新しいコンセプトの履修コースです。具体的には、音楽療法、ダンス療法などの諸芸術療法、感性や心理をもとにしたデザインやメディアの研究、開発、マルチメディアなどを使った複合的芸術表現やインタラクティブ・アート、新しい表現教育などの領域の研究、開発、創造を目指します。

主なコース専門科目

- 芸術療法論
- 心理統計法
- ピアノ演奏概論
- 音楽療法論2
- 舞踊創造論
- 生活環境心理学
- 感性心理学概論
- 臨床舞踊論
- 舞踊創造論演習
- 西洋音楽文化論
- 感性を測る
- 臨床舞踊論演習

スタッフと研究分野・研究テーマ

小高 直樹 教授	関 典子 講師	山本 道子 講師
感性科学, 図形科学	舞踊学, コンテンポラリーダンスの創作と研究	造形心理学, 感性心理学
芸術家の技や個性、デザイナーの暗黙知といった、曖昧で多義的な感性の世界、いわば形容(動)詞の世界を科学的に取り扱うための方法を探究しています。	ダンスや身体表現の特質である「現存性」や「コミュニケーション」について、表現活動と研究活動をフィードバックしながら探究しています。	よりよい情報伝達を行うために、人間の情報処理に最適な表現やコミュニケーションを、心理学的アプローチ方法によって探求します。



主な卒業研究テーマ

- ・ウェブマンガはいかに論じられるべきかー議論の枠組みと切り口を提示するー
- ・コトにおける笑いの因子に関する研究
- ・音楽経験が尺八古典曲の印象評価に与える影響
- ・コミュニケーション形成におけるうなずき行動と社会的スキル
- ・Musica Callada におけるハーモニーの特徴について
- ・モノの不便の改善に向けての基礎的研究ー不便の所在とその特徴ー
- ・人の顔と声に対する印象の相合性に関する研究
- ・顔の再認における表情・示差性・適合度の影響
- ・関西系漫才と関東系漫才の比較研究ー2001年～2010年の漫才を題材としてー
- ・ダンス作品における音楽の影響関係に関する一考察
- ・日本語音韻の音象徴における視覚と聴覚の関係性
- ・映画『ハリリーの災難』の音楽分析ー映画の中で音楽はどのような機能を担っているかー
- ・競技ダンスにおける「コネクション」に関する一考察
- ・競技ダンスにおける衣装の効果に関する研究
- ・化粧前後の印象の違いとその判断部位に関する研究
- ・サウンドスケープ論の広まりー現代の日本における普及状況と今後の可能性を考えるー
- ・図形とその副次的要素としての色彩に関する研究
- ・知的障害児のための音楽療法 包括的教育での音楽療法モデル
- ・学びの場としてのワークショップに関する一考察
- ・マンガにおけるスピード感の表現に関する研究

教員からのメッセージ



舞踊の魅力
共感するココロ、表現するカラダ

関 典子 講師(舞踊学, コンテンポラリーダンスの創作と研究)

私のゼミでは、身体という最も身近な存在を表現媒体とする舞踊の実践と研究を通して、「共感するココロ」と「表現するカラダ」についての考察を深めることを目標としています。学生の研究テーマはさまざまですが、常に重視しているのは身をもって体感すること。ワークショップや公演活動を通して、舞踊の理論や意義を体験的に理解することを目指しています。これまでに、アーティストック・ムーヴメント・イン・トヤマ2012松本千代栄賞(最高賞)、こうべユース賞などを受賞、神戸ビエンナーレでは、兵庫県立美術館の屋外大階段で群舞パフォーマンスを上演、好評を博しました。様々なジャンルの芸術表現を総合的に学ぶ人間表現学科の学生の皆さんの感性には、私も一表現者として大いに刺激を受けています。研究面においても表現面においても身体のもつ力を信じ、教員と学生という関係に留まらない同志として、舞踊や身体表現の魅力を探究していきたいと願っています。

自らの感性を豊かにし、
人々に伝えるということ。

山田 祥子 さん(臨床・感性表現論コース4年生)

「人に感動してもらいたい」と漠然と考えていた私は、感性心理学に興味を持っていました。感性心理学を学ぶことで、芸術作品を鑑賞したときに人々に生じる感情の変化を捉えることができたと思っています。卒業論文のテーマは「基本感情から見た感動させるストーリーの構成について」です。人が涙する作品を私も手掛けたいという気持ちがあり、その感動することのメカニズムを明確にしたいと思っています。研究方法については試行錯誤を繰り返していますが、興味のあることに打ち込むことができ、毎日がとても充実しています。

臨床感性表現論コースでは、臨床舞踊や芸術療法なども学ぶことができます。時間と空間を共有し、さらに同じ芸術作品を創作し享受することで、人々の間に大きな力が生まれると実感しています。

表現学科では芸術に貪欲に浸ることができます。毎日個性的な友人や教授に囲まれ、刺激的な学生生活を送ることができています。

学生からのメッセージ



人間環境学科

人間発達を支える新たな環境の創造と持続を目指して

学科の理念

人間環境学科では、学生の皆さんは広い知識を身に付けるとともに、人間の発達の在り方に深くかかわる環境の諸問題を総合的・学際的に探究することを学びます。具体的には自然環境、数理情報環境、生活環境及び社会環境の視点から、理系・文系の枠を超えて幅広い教養と多様な専門的知識を身に付け、それらの統合・融合を積極的に図ることを目指しています。これらの学びを通じ、新たな人間環境の創造に向けて理論的・実践的な問題解決の力を得ようとする意欲的な皆さんを、人間環境学科はお待ちしております。

学科の特色

学際性 — 理系・文系の枠組みを超え、多様な知を融合させる

人間の発達と環境の関係をめぐる諸問題は、特定専門分野の方法だけでは捉えられない複雑な構造を有しています。それを理解するには、これまでの学問分野の構成にとらわれず、複数の分野からの複眼的な視点をもつ必要があります。本学科では、理系・文系の枠組みを超え、多様な学的知見の融合をはかり、人間環境に関する諸問題に幅広い視野からアプローチできる人材を養成します。

専門性 — 高度な専門性に根ざし、環境の理解に立ち向かう

他方で、学際的な勉強・研究は、専門性という拠点があって初めて成り立ちます。複雑で多様な人間環境を理解するためには、しっかりした専門分野をもち、その固有の論理に立脚したうえで、多様な視点を身につける必要があります。本学科は、自然環境論、数理情報環境論、生活環境論、社会環境論という四つの履修コースを擁し、それぞれにおいて高度な専門教育を行います。

実践性 — 問題解決に必要な力を能動的に身につける

人間が発達できる環境をどのように形成し、維持するかは、理論上の問いであると同時に、優れて実践的な課題です。現に私たちは、環境に関する多彩な問題状況に取り巻かれ、その解決を必要としています。本学科は、講義に加え、実験、調査、フィールドワーク、演習、実習などを重視することによって、人間環境の諸問題を実証的に分析し、その解決に能動的に挑戦する人材を養成します。



履修コース

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探究してこそ、答えが見えてくる

自然環境論 コース

定員：35名

▶P52



数理と情報が生み出す精密な道具を手に、情報の海を旅しよう

数理情報環境論 コース

定員：25名

▶P54



日常生活の現場から環境のあり方を追究する

生活環境論 コース

定員：30名

▶P56



人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

社会環境論 コース

定員：30名

▶P58



主な取得可能な資格免許

*全ての学科に共通の資格免許

- ・中学校教諭一種免許状(理科)
- ・中学校教諭一種免許状(数学)
- ・中学校教諭一種免許状(社会)
- ・中学校教諭一種免許状(家庭)
- ・高等学校教諭一種免許状(理科)
- ・高等学校教諭一種免許状(数学)
- ・高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)
- ・高等学校教諭一種免許状(家庭)
- ・学芸員*
- ・社会教育主事*
- ・社会福祉主事任用資格*
- ・環境再生医資格*

学科長からのメッセージ

学科長 平山 洋介教授
(生活環境論コース)

私たちを取り巻く環境は、グローバル化、気候変動、資源枯渇、高度情報化、少子高齢化などによって、大きく変わろうとしています。この状況のなかで、人間環境学科は、人間の発達を支える環境の構築を目指し、次のような特徴をもつ教育と研究に取り組んでいます。第一は、学際性です。本学科は、理系・文系の枠を超え、多様な学的知見の統合をはかり、幅広い視野を備えた人材を育成します。しかし同時に、高度な専門性をも重視する点に特色があります。本学科は、専門教育のために、自然環境論、数理情報環境論、生活環境論、社会環境論という四つのコースを擁しています。さらに第三は、実践性です。本学科では、講義だけでなく、実験、調査、フィールドワーク、演習、実習などに力点を置き、人間環境をめぐる諸問題に果敢に挑戦する姿勢を養成します。



入学から卒業までの流れ・カリキュラム

		1 年	2 年	3 年	4 年	卒業後
		学部共通科目		発達支援論コースに進むことも可		
		全学共通科目, 全学共通基礎科目				
		学科共通科目				進路状況P.51参照
			コース配属が決まります	コース専門科目		
				ゼミ(研究室)配属が決まります	卒業研究	
全学共通科目		● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学				
共通専門基礎科目		● 物理学B1・B2 ● 物理学C1・C2・C3 ● 無機化学基礎 ● 有機化学基礎 ● 生物学I・II・III ● 基礎地学 ● 線形代数学入門 ● 線形代数学1・2 ● 微分積分学入門 ● 微分積分学1・2 ● 法律学 ● 経済学 ● 政治学 ● 社会学 ● 倫理学	● 物理学B3 ● 物理学C4 ● 物理学実験 ● 数理統計学 ● 人文地理学 ● 外国史 ● 日本史			
学部共通科目		● 発達科学への招待				
学科共通科目		● 人間環境学概論 ● 自然環境概論 ● 数理情報環境概論 ● 生活環境概論 ● 社会環境概論	● 統計の考え方 ● 環境モデリング入門 ● 発達支援論研究	● 高齢者環境論 ● エコロジー論		
コース専門科目	自然環境論	● 自然科学演習 ● 自然科学総合演習	● 自然環境科学実験A・B・C ● 自然環境科学 ● 環境地球科学A・B ● 現代物質科学 ● 現代物理化学A ● 現代生命科学A ● 宇宙史 ● 大気環境学 ● 環境計測学A ● 鉱物学 ● 植物環境学1・2 ● 生活環境緑化論1 ● 生物多様性論 ● 自然環境科学特論A・B ● 自然環境総合演習 ● 情報処理演習 ● 環境数値解析1 ● 応用数学入門・同演習 ● 数理の基礎 ● 解析系の基礎 ● 数理統計の基礎	● 現代物理化学B ● 現代生命科学B ● 環境物理学実験 ● 物質環境科学実験 ● 生物環境科学実験 ● 地球環境科学実験 ● 野外生物学実習 ● 分子生命科学実習 ● 地球環境科学特別講義 ● 地球環境変遷学 ● 宇宙環境物理学 ● 無機化学 ● 環境植物生態学 ● 科学哲学論 ● 環境遺伝学 ● 環境地球化学・同演習A ● 環境計測学B ● 生活環境緑化論2 ● 環境経済学 ● 公衆衛生学 ● 身体適応論 ● 環境物理学 ● 量子物理学 ● 基本粒子物理学 ● 分析化学 ● 環境有機化学 ● 生物有機化学 ● 化学反応論 ● 量子化学 ● 高次分子生命科学 ● 生物環境科学 ● 動物行動生態学 ● 環境地質学・同演習1 ● 地球流体力学 ● 人間環境学総合演習 ● 環境数値解析2 ● 生命情報科学A ● 応用解析学A ● 応用統計学A ● 情報環境科学A・B・C	● 環境地球化学・同演習B ● 環境地質学・同演習2 ● 現代物質科学演習 ● 環境物理学特別演習 ● 生命情報科学B ● 応用解析学B ● 応用統計学B	さらに学びたい人は大学院に進学
	数理情報環境論		● 数理の基礎 ● 数理と計算機 ● 計算機科学A・B ● 幾何系の基礎 ● 解析系の基礎 ● 代数系の基礎 ● 数理統計の基礎 ● 生活環境メカニクス1 ● 生活環境電子計測論1 ● 社会調査法	● 応用代数学 ● 数理と論証 ● 計算機数学 ● 応用解析学A・B ● 応用幾何学A・B ● 応用統計学A・B・C ● 数理情報先端特論 ● 情報環境科学A・B・C ● 代数学II ● 解析学III ● 幾何学III ● 確率論I ● 環境経済学 ● 生命情報科学A・B ● 生活環境メカニクス実験 ● ヒューマンエレクトロニクス実験 ● 数理認識発達論 ● メディア論 ● 応用数理特論1 ● 情報環境特論1	● 応用数理特論2・3 ● 情報環境特論2・3	人間環境学専攻 □ 数理情報環境論
	生活環境論		● 生活環境基礎実験 ● 生活環境調査法 ● 生活空間計画論1・2 ● 生活環境心理学 ● 生活環境緑化論1 ● 衣環境学1・2 ● 生活環境メカニクス1 ● 生活環境電子計測論1・2 ● 食環境学1・2 ● 植物環境学1・2 ● 生活環境共生論1・2 ● 栄養学 ● 現代生活論 ● ライフスタイル論1・2	● 生活環境緑化論2 ● 住宅設計論 ● 生活電気・機械 ● 生活環境メカニクス2 ● 生活エネルギー機器論 ● 食環境学実験 ● 衣環境学実験 ● ヒューマンエレクトロニクス実験 ● ライフスタイル論実習 ● 植物環境学実験実習 ● 食環境学実習 ● 生活環境共生論実習 ● 生活環境心理学演習 ● 生活環境緑化論演習 ● 衣環境学演習 ● 動作解析コンピュータ演習 ● 植物環境学演習 ● 生活環境共生論演習 ● ライフスタイル論演習 ● 環境経済学	● 生活環境メカニクス実験 ● 生活空間計画論演習	人間環境学専攻 □ 生活環境論
	社会環境論		● 社会規範論A・B ● 社会文化環境論 ● 産業社会環境論A・B ● 地域社会環境論A・B ● 国際社会環境論 ● 社会環境思想史 ● 社会変動史 ● 産業構造論 ● 労働史 ● コミュニティ論 ● 国際平和論 ● 地域空間システム論 ● 現代日本社会史 ● 生活空間計画論1・2 ● 生活環境心理学 ● 現代生活論 ● 生活環境緑化論1 ● 社会調査法 ● 教育思想史	● 都市地域論 ● 社会政策史 ● 福祉国家論 ● 農村開発論 ● フィールドワーク実習 ● 憲法秩序論 ● 公共性論 ● 家族論 ● 自治体論 ● 国際開発論 ● 環境経済学 ● 生活環境緑化論2 ● 環境植物生態学 ● 数理と論証 ● メディア論 ● 公共性論演習A・B ● 社会環境思想史演習A・B ● 社会文化環境論演習A・B ● 産業構造論演習A・B ● 労働史演習A・B ● 都市地域論演習A・B ● コミュニティ論演習A・B ● 国際開発論演習A・B		人間環境学専攻 □ 社会環境論
		コース配属について				
		2年次より各履修コースに所属します。各履修コースの定員は次のとおりです。1年次終了時に行うガイダンスで希望を調整し、履修コースを決定します。				
		自然環境論 コース 35名 数理情報環境論 コース 25名 生活環境論 コース 30名 社会環境論 コース 30名				
		ゼミ配属について				
		3年次からゼミ(研究室)に所属します。4年次には、指導教員の下、所属するゼミ(研究室)で卒業研究を行います。各履修コースで定められたルールに従って、所属するゼミを決定します。				

OB&OG INTERVIEW

INTERVIEW 01

ゲンゼ株式会社 勤務

池島 宏亮 さん
(2010年3月卒)



人間の生活と環境を総合的に扱う 多彩な講義や実習が今に活きる

私はメーカーでインナーウェアの営業担当として勤務しています。人間が快適に生活するための環境や物に興味があり、最も身近な物の1つであるインナーウェアのメーカーに入社を決めました。仕事では、どのような商品が求められているのか?商品の良さや特徴を分かりやすく伝えるためには?等を考える必要があるので、商品や素材に関する事だけではなく、消費者心理も含めた幅広い知識が必要になります。人間環境学科の専攻分野では快適なインナーウェアの条件について、各種測定機器を用いた客観評価に加えて主観評価を行い、快適性の評価に取り組みました。他の分野でも単なる知識の習得だけではなく、実験や実習を多数経験できました。社会人になった今、専攻分野はもちろん、幅広く他の分野も経験できた事が自らの糧となり仕事の様々な場面で役立っていることを実感しています。今に活きる多彩な内容を学べるところ、それが人間環境学科です。

INTERVIEW 02

株式会社
住化分析センター 勤務

小山 泰弘 さん
(2010年3月卒)



幅広い分野を柔軟に学んだことで 身につけた社会への適応力

私は学生時代、人間環境学科の分析化学研究室に所属していました。ここでは日々の実験や毎週のゼミなどを通じて、世間でどのような分析技術が必要とされ、またそれに対してどのように取り組んでいくかを学んできました。そして大学で学んだ知識や技術を社会に出ても活かしたいと考え、現在は化学分析の企業で技術者として分析に関わる仕事をしています。

人間環境学科で学んだことは、もちろんこのように社会で直接役立つ場合も多々あります。とはいえ、大学で学んだことを将来どのように活かしていくかは様々でしょう。むしろ学んだ内容そのものよりも、学びを通して自発的に問題意識を持てるようになった点こそが自身のためになる、というのが私の実感です。特に発達科学部には多様な研究分野の人が集まっており、学問以外の部分でも多様な価値観を共有できたことは、私にとっての財産です。今後も、自分の知識を多様な視点で社会に還元できればと思います。

INTERVIEW 03

株式会社
三菱東京UFJ銀行 勤務

櫻井 絵里 さん
(2011年3月卒)



幅広い分野を学び、 たくさんの人と出会える環境

私はもともと理系だったので、理系の専門的な学部への進学も考えていました。ですが、幅広い分野を学習でき、将来の選択肢を限定しない自由さに魅力を感じ、この学部を選びました。実際、私は数学を専攻しながら、現在は銀行の法人営業部門に勤務し、様々な企業に対するソリューション—業務上の問題点や課題を解決するための手段—を提供する業務を行なっています。

こう書くと、大学での勉強と仕事が無関係に見えるかもしれませんが、銀行の営業は様々な業種の人と話す機会が多く、幅広い価値観と多様な視点が求められる仕事です。発達科学部では多様な分野の人が仲良く交流でき、自然に多様な視点が身につきますし、卒業研究を進める中でも論理的な考え方と多面的な見方を学ぶことができました。社会人になってからも、人との出会いを大切に、何事も幅広く貪欲に学んでいきたい、そう思える基盤を作れたのは、人間環境学科で学んだ成果なのです。

INTERVIEW 04

西日本旅客鉄道
株式会社 勤務

林 風介 さん
(2009年3月卒)



大学時代の行動原則は興味・関心—勉強も遊びもそれに尽きます

皆さんは鉄道会社が多くの商業施設を保有していることをご存知でしょうか。学生時代、私は建設途中のJR大阪三越伊勢丹やルクアで働きたいと思い、JR西日本という鉄道会社に就職しました。現在はその念願が叶い、大阪駅のJR大阪三越伊勢丹のワイン売場で働いています。

鉄道会社の社員が百貨店で働いていることに皆さんは違和感を覚えるかもしれませんが。私が商業施設に携わりたくて鉄道会社に入ったのは、所属していた都市地理学のゼミで、商業施設など都市機能の裏側・仕組みを学べたからです。今、自分の興味・関心と直結した仕事を出来ているのは、振り返れば、学科内で自分の興味・関心に基づいて自由に学ぶ内容を選択できた結果だと思います。その意味で、人間環境学科は自分の真にやりたいことを見つけるには最適でした。皆さんにもたくさんの選択の機会が待っています。ぜひ自分の興味・関心を大事にしてください。未来はそこから見えてきます。

主な進路・主な資格免許の取得状況

自然環境論 コース

主な進路

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・荏原製作所 | ・花王プロフェッショナル・サービス |
| ・大阪ガスセキュリティサービス | ・関西電力 |
| ・田辺三菱製薬 | ・西日本電信電話 |
| ・東京海上日動火災保険 | ・日立システムズ |
| ・日本水処理工業 | ・プロクターアンド・ギャンブル・ジャパン |
| ・マネックスグループ | ・法務省 |
| ・三菱UFJ信託銀行 | ・神戸大学大学院 |
| ・三菱食品 | 人間発達環境学研究科 (7名) |
| ・NTTマーケティングアクト | ・京都大学大学院地球環境学研究科 |
| ・神戸市職員 | |
| ・神戸大学職員 | |
| ・労働基準監督署 | |
| ・大阪府教員 (中学) | |
| ・神戸市教員 (中学) | |
| ・桃山学院中学校・高等学校 | |
| ・神戸大学大学院 | |
| 人間発達環境学研究科 (8名) | |
| ・大阪大学大学院理学研究科 | |
| ・京都大学大学院人間・環境学研究科 | |
| ・名古屋大学大学院環境学研究科 | |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・中学校教諭一種免許状 (理科) | ・中学校教諭一種免許状 (理科) |
| ・高等学校教諭一種免許状 (理科) | ・中学校教諭一種免許状 (数学) |
| ・学芸員 | ・高等学校教諭一種免許状 (理科) |
| ・環境再生医 (初級) | ・高等学校教諭一種免許状 (数学) |

生活環境論 コース

主な進路

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・岡村製作所 | ・アサソーディ・ケイ |
| ・さくらシーエス | ・関西アーバン銀行 |
| ・聖文館 | ・京都造形大学職員 |
| ・ソフトバンクテレコム | ・近畿大学付属福山高等学校・中学校教員 |
| ・日本鋼管病院 | ・小林産業 |
| ・阪急交通社 | ・ジェイアール東海高島屋 |
| ・日立ソリューションズ | ・神鋼環境メンテナンス |
| ・りそな銀行 | ・ソフテム |
| ・ロフト | ・立川ブラインド工業 |
| ・京都大学職員 | ・中央労働金庫 |
| ・神戸市職員 | ・西日本旅客鉄道 |
| ・富山大学職員 | ・日本生命保険相互会社 |
| ・神戸大学大学院 | ・日本電気 |
| 人間発達環境学研究科 (2名) | ・日本バイリーン |
| | ・ファースト住建 |
| | ・三菱商事ファッション |
| | ・裕幸計装 |
| | ・NRIネットコム |
| | ・大阪狭山市職員 |
| | ・裁判所 |
| | ・神戸大学大学院 |
| | 人間発達環境学研究科 (1名) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|-------------|-------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・環境再生医 (初級) | ・小学校教諭一種免許状 |
| | ・中学校教諭一種免許状 (家庭) |
| | ・中学校教諭一種免許状 (数学) |
| | ・高等学校教諭一種免許状 (家庭) |
| | ・高等学校教諭一種免許状 (数学) |

数理情報環境論 コース

主な進路

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・関電システムソリューションズ | ・成学社 |
| ・近畿日本鉄道 | ・大阪府教員 (高校) |
| ・VSN | ・大阪府教員 (中学) |
| ・大阪府教員 (高校) | ・香川県教員 (中学) |
| ・堺市教員 (中学) | ・神戸市教員 (中学) |
| ・滋賀県教員 (高校) | ・京都府教員 (高校) |
| ・奈良県教員 (高校) | ・滋賀県教員 (高校) |
| ・兵庫県教員 (高校) | ・滋賀県職員 |
| ・兵庫県教員 (中学) | ・長岡京市職員 |
| ・横浜市教員 (中学) | ・奈良県教員 (高校) |
| ・和歌山県教員 (中学) | ・兵庫県教員 (中学) |
| ・神戸大学大学院 | ・和歌山県教員 (中学) |
| 人間発達環境学研究科 (4名) | ・神戸大学大学院 |
| ・奈良先端科学技術大学院大学 | 人間発達環境学研究科 (4名) |
| | ・京都工芸繊維大学 (編入) |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・中学校教諭一種免許状 (数学) | ・幼稚園教諭一種免許状 |
| ・高等学校教諭一種免許状 (数学) | ・中学校教諭一種免許状 (理科) |
| ・特別支援学校教諭一種免許状 | ・中学校教諭一種免許状 (数学) |
| | ・高等学校教諭一種免許状 (理科) |
| | ・高等学校教諭一種免許状 (数学) |

社会環境論 コース

主な進路

- | | | |
|-------------------|-------------------|------------------|
| 2011年度 | ・ウッディーズ | 2012年度 |
| ・TOA | ・サンエース | ・アップ |
| ・オリエンタル鍍金 | ・サントリーホールディングス | ・四国電力 |
| ・千趣会 | ・千趣会 | ・住友生命保険相互会社 |
| ・パナソニックカーエレクトロニクス | ・パナソニックカーエレクトロニクス | ・双日 |
| ・兵庫県信用農業協同組合連合会 | ・兵庫県信用農業協同組合連合会 | ・大東建託 |
| ・広成建設 | ・広成建設 | ・トヨタ自動車 |
| ・不二製油 | ・不二製油 | ・日本放送協会 |
| ・三井住友銀行 | ・三井住友銀行 | ・パナソニックキャリアカンパニー |
| ・尼崎市職員 | ・尼崎市職員 | ・阪急電鉄 |
| ・大阪地方裁判所 | ・大阪地方裁判所 | ・日立ソリューションズ |
| ・川西市職員 | ・川西市職員 | ・富士通 |
| ・神戸大学職員 | ・神戸大学職員 | ・三菱電機 |
| ・高石市職員 | ・高石市職員 | ・ローソン |
| ・豊中市職員 | ・豊中市職員 | ・JTB中国四国 |
| ・大阪府教員 (高校) | ・大阪府教員 (高校) | ・JX日鉱日石金属 |
| ・神戸大学大学院 | ・神戸大学大学院 | ・鹿児島県職員 |
| 人間発達環境学研究科 (3名) | 人間発達環境学研究科 (3名) | ・神戸市職員 |
| | | ・裁判所 |
| | | ・福岡市職員 |
| | | ・和歌山県職員 |

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 2011年度 | 2012年度 |
| ・中学校教諭一種免許状 (社会) | ・小学校教諭一種免許状 |
| ・高等学校教諭一種免許状 (地理歴史) | ・中学校教諭一種免許状 (社会) |
| ・高等学校教諭一種免許状 (公民) | ・高等学校教諭一種免許状 (公民) |
| ・学芸員 | ・高等学校教諭一種免許状 (地歴) |

自然環境論 コース

- ▶ Course Keyword 【コースキーワード】
- 自然環境の多角的理解 □物質環境
 - 異分野との相互刺激 □地球環境
 - 環境物理学 □生物環境

科学の幅広い視野から自然環境の本質を探求してこそ、答えが見えてくる

環境問題に根本から取り組もうとするならば、自然の成り立ちや法則を本質から理解することが必要不可欠です。特に現在は、人類が宇宙へと本格的に足を踏み入れた宇宙時代の黎明期とも言べき時代です。人類がこの時代にふさわしいアイデンティティーを確立できるか否かは、宇宙の創成と進化、太陽系や地球の形成の歴史、さらに物質の化学進化を経て生命の誕生と進化に至る壮大な歴史と、その中の個々のプロセスとを科学的に解明してはじめて得られる、透徹した認識にかかっていると言えるでしょう。環境問題の根本への取り組みも、こうした広い認識があって初めて可能となるのです。だとするなら、現在求められているのは、物理、化学、生物、地学など旧来の学問枠組にとらわれず、対象によって自分自身のポジションを自在に変えながら、広い視野から状況に応じた解決策を見出すことに他なりません。こ

のような考えのもと、自然環境論コースでは、環境破壊などの身近な問題だけでなく、地球や宇宙の様々な場での物質と生命の多様な現象を本質から理解するための授業科目を用意しています。このコースでは、早くから自分の専門分野を限定せず、自然科学の様々な方法論の基礎を習得する事に特色があります。高学年次では、具体的な問題をより深く追求するため、環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境の4つの教育研究分野から2つを選び、さらに専門的に学習、研究します。4年生になると具体的な課題を決めて研究の訓練をすることになります。そのときには、生物学と化学、生物学と地球科学、化学と物理学などの境界領域の研究や環境問題の背後にあるより基礎的なテーマについての研究も可能です。

主なコース専門科目

- 環境地球科学A・B

□現代物質科学

□現代物理化学A・B

□現代生命科学A・B

□大気環境学
- 環境計測学A・B

□鉱物学

□植物環境学1・2

□生物多様性論

□地球環境変遷学
- 宇宙環境物理学

□無機化学

□環境植物生態学

□環境遺伝学

□環境地球化学・同演習A・B
- 環境物理学

□量子物理学

□分析化学

□環境有機化学

□生物有機化学
- 化学反応論

□量子化学

□高分子生命科学

□生物環境科学

□環境地質学・同演習1・2



教員からのメッセージ

循環型社会を目指した環境に優しい次世代のプラスチック

佐藤 春実 准教授(高分子化学・環境調和型高分子)

軽くて丈夫な素材であるプラスチックは、私たちの身の回りになくってはならない存在ですが、一方で石油資源の枯渇、破棄後のごみ問題、焼却時のCO₂排出による地球温暖化など、様々な環境への影響が問題となっています。このような環境問題を解決するものとして注目を集めているのが生分解性プラスチックです。生分解性プラスチックは自然界に生存する微生物によって最終的に水と二酸化炭素にまで分解されるため、環境に優しい次世代のプラスチックと言われています。私の研究室では、この生分解性プラスチックをもっと使いやすくするため、物性向上を目指した基礎的研究に取り組んでいます。生分解性プラスチックの研究は、有機化学、物理化学、高分子化学の他にも生物学や物理学など、広範な学術領域を総合的に理解する必要があります。自然環境論コースの総合理化学型カリキュラムで幅広い知識と視野を身につけ、持続可能な社会の実現に向けた研究を一緒にしてみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

青木 茂樹 教授 素粒子・宇宙線物理学 素粒子および宇宙線に関する実験的な研究をしています。	伊藤 真之 教授 宇宙物理学, 科学教育 人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測的研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	丑丸 敦史 教授 植物生態学 花（被子植物）の形質進化や多様性創出機構および里山や都市域における生物多様性保全を目的とした希少種の分布特性・環境依存性の解明を目指しています。	榎本 平 教授 分子生物学 高増殖性・高重油生産性を有する重油生産藻類 Botryococcus brauniiの開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。	江原 靖人 准教授 生物有機化学 生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製。さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。
蛭名 邦禎 教授 環境物理学, 理論生命科学 地球システムと生命システムのダイナミクスを理解するための基礎理論の構築と、環境問題に係わる科学研究の成果の批判的な検討を行っています。	大串 健一 准教授 地球環境 地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。	齊藤 恵逸 教授 分析化学 発光現象を利用した物質の分析法、有機化合物を用いた金属イオンセンサー、ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	佐藤 春実 准教授 高分子化学・環境調和型高分子学 環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究を行っています。	高見 泰興 准教授 進化生態学 地球上の多様な生物が、どのように生じ、維持されているのかについて、形態学、行動学、生態学、進化学の各視点から研究しています。
田中 成典 教授 計算生物学, 理論生命科学 タンパク質やDNA、RNAなどの生体分子に対する計算機シミュレーションや原子・分子のミクロなレベルからコンピュータ上で構築する理論構造生物学について研究しています。	寺門 靖高 教授 環境地球化学 河川水、生物が作る鉱物、地殻を構成する岩石・鉱物などの様々な地球表層物質についての元素濃度や同位体組成を用いた地球環境の地球化学的研究を行っています。	中川 和道 教授 放射光物性物理学, 環境物理学 大気環境科学(太陽を光源とした温暖化ガスの検出など)やシンクロトロン放射を用いた生体分子の分光(アミノ酸やDNA分子など)に関する研究を行っています。	源 利之 特命助教 水域生態学, 環境生理学 主に河川や湖沼を対象として、広い意味での生態学・環境生理学に取り組んでいます。環境DNAなど、新しい技術の開発も行っています。	

主な卒業研究テーマ

- ・インフルエンザウイルスとの結合能を有する糖鎖修飾核酸の合成

・Botryococcus braunii共生細菌の単離・同定と培養系に与える影響

・都市のソクサ集団における送粉者の減少と自殖性の進化

・低層大気自動測風システムの動作条件の検討

・六甲山地における花崗岩の風化と断層の影響評価

・2011年東北地方太平洋沖地震による津波堆積物の堆積学的研究

・月面突発発光現象の観測と新たに形成されたクレーターの探査

・FFASTレコード盤軌道に対する検出天体数の評価

・イシモチソウにおける捕虫形態の適応的意義

・陸奥湾の有孔虫群集の解析による三内丸山遺跡衰退の解明
- ・グリシン固相における真空紫外線誘起化学進化実験の再検討

・クロナガオサムシにおける精液物質の生理学的機能の解析

・原子核乾板中のα崩壊核種の存在量に関する研究

・交雑帯における遺伝子浸透を利用した種分化遺伝子の解析

・神戸層群凝灰岩のRb-Sr年代とSr同位体比

・神戸大学における酸性雨の主成分および微粒子の観察

・電気化学発光検出を用いる微小流体デバイスの開発

・糖鎖修飾非天然DNAzymeのRNA切断能評価

・ナラ枯れが森林の植生と多様性に与える影響

・フィルタ捕集法を用いたリン酸イオンの化学発光検出

科学と人の魅力がギュッとつまったG棟で

柴山 恵美 さん(自然環境論コース4年生)

自然環境論コースならではの魅力は、幅広く学べる選択肢の多さだと思います。3年生までは物理・化学・生物・地学を幅広く学び、4年生で所属する研究室も4分野それぞれにつき複数の選択肢があります。私自身、入学時の文系から理転してこのコースに入り、さらに、はじめは生物系志望でしたが現在の時間割では物理科目がほとんどです。私の「あれやりたい!」を コースはつねに応援してくれます。大学に行くなら何かひとつじゃ物足りない。いろんなことをたくさん知りたい!自然環境論コース はそんな知的空腹を満たしてくれる場所です。同回生だけでなく、先輩や先生方ともフランクに話せる環境も、自由な学びを後押ししてくれていると思います。自然のシンボル「G棟」には、そんな人と科学の魅力がつまっています。他の理系学部とは一味違うこの「自然」で、「G棟」で、たくさんの選択肢に目を向けながら 広い視野を手に入れてみませんか?

学生からのメッセージ



数理情報環境論 コース

- ▶ Course Keyword 【コースキーワード】
- 情報環境 □数理的手法の理論と応用
 - 現象の数理的モデル化 □情報処理の理論と実務
 - 論理的思考 □統計的手法の理論と応用

数理と情報が生み出す精密な道具を手に,情報の海を旅しよう

アメリカの調査会社によると,2006年のデジタル情報の総量は,これまでにかかれた全書物の情報量の数百万倍にのぼるそうです。しかもその量は数年でさらに数倍に増えたとも言います。この膨大で多様な情報の海が,人間の知的発達や産業構造に多大な変化を与えつつあることは言うまでもありません。こうした現代の情報環境で,情報の海に漂流することなく様々な問題を解決するには,何よりも信頼できる精巧な道具が必要です。そしてその基礎的技法を与えるのが数理情報環境論コースなのです。

このコースでは,数理的理論を基礎から応用まで幅広く学ぶこと,様々な情報環境問題を数理的に捉え,解析し,処理する能力を養うことを2つの柱にしています。2年次では,具体的な問題解決に必要な数学や情報科学の基礎理論を学びます。論理的な思考にもとづいてものご

とを正確に表現するトレーニングを行い,プログラミングやネットワークに関する基礎知識を習得します。3年次では,次の3つの領域で学んでいきます。情報数理では,情報環境を構成するコンピュータを理論的に考察し,計算やプログラムのしくみなど情報そのものがもつ数理的メカニズムの解明を目指します。応用数理では,自然科学や社会科学に現れる様々な現象を数学的な視点からモデル化するとともに,そのモデルをコンピュータで詳しく解析する方法についても学びます。情報統計では,私たちの身近に存在する様々なデータを考え,情報のもつ理論的な背景を考察し,統計学的な問題解決の方法について学びます。そして3年次後半から4年次にかけて,いよいよ各自で課題を設定し,これまでに身につけた道具を駆使して問題の解明を目指し,結果を卒業論文にまとめます。情報の海を縦横無尽に旅したいあなたをお待ちしています。

主なコース専門科目

- 数理の基礎 □解析系の基礎 □数理と論証 □応用統計学A・B・C □情報環境特論1・2・3
- 数理と計算機 □代数系の基礎 □計算機数学 □数理情報先端特論
- 計算機科学A・B □数理統計の基礎 □応用解析学A・B □情報環境科学A・B・C
- 幾何系の基礎 □応用代数学 □応用幾何学A・B □応用数理特論1・2・3



教員からのメッセージ

証明のつぼを身につけよう,どっぽさんとさよならしよう

高橋 譲嗣 教授(数理論理学)

数理の世界では演繹的論証により定理を証明するという営みが重要な役割を演じます。私のゼミでは,ひとまとまりの数理的理論を時間をかけてじっくり勉強しながら,数理的証明の技法に習熟することを目指します。

証明は小さな推論を積み重ねて作られます。単位となる推論の一つ一つは至極単純なのですが,ひとかどの定理を証明するとなると何百何千もの推論を1か所の間違いもなくつなぎ合わせる必要があります。これは一筋縄では行きません。しかし,推論の組み合わせ方にはある程度決まったパターンがあり,迷路のように推論が錯綜して見える証明にも,核となる流れ,そこから派生する支流等からなる構造があり,証明の記述の仕方を工夫することでその構造をより効率よく管理することができます。こうした知恵を身につければ,証明とは手におえない化け物ではなく,一定の法則によって制御できる綺麗な構造体であることが見えてきます。一緒に体験してみませんか？

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲葉 太一 准教授	桑村 雅隆 教授	阪本 雄二 准教授	高橋 譲嗣 教授	高橋 真 教授
数理統計学, 応用統計学, データ解析	応用解析学	数理統計学	数理論理学	情報論理学
統計学は, データを解析することから始まります。学部生の間に, 自分の興味を持てるテーマを選び, 適切な統計手法の適用方法を研究することを目的としています。	物理学, 化学, 生物学などに現れる問題を解析学(微分積分学を基礎としている数学の一分野) とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。	水の流れの中を漂う花粉の運動や株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について, そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。	論証による証明を効率よく理解しかつ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化, 及び数理的方法全般の数理論理学的手法を用いた考察に取り組んでいます。	システム検証 (ソフトウェアが信頼できるかどうかを数学的な方法で検証する方法) と公理的集合論 (集合の理論を公理的に扱う体系) を研究しています。
長坂 耕作 准教授	宮田 任寿 教授			
計算機代数	幾何学的トポロジー			
数値・数式融合計算(パソコン上で様々な計算を行うために必要な理論研究やプログラミングによる実現) と, その応用(ICTによる様々な分野への展開) について研究しています。	様々な図形をトポロジーと呼ばれる「柔らかな幾何学」によって分類したり, その考え方や技術を数学内外の様々な分野に応用する研究をしています。			

主な卒業研究テーマ

- ランダムフラクタル
- サッカーにおけるパスの分析
- サッカー男子日本代表の試合分析 ～サッカー界における通説を解析～
- 連続ドラマ視聴率の解析
- 重大事故発生時の放射線量測定データの分析 —新聞上の公開データから読み取れること—
- より快適なWebブラウジングの為のユーザ補助の検討
- 形式仕様記述とモデル検査
- 統計学における近似公式について
- モデル検査の基礎とUPPAALによる検証
- 紫外線強度の尺度(UVインデックス)の背景と気象条件による影響度分析
- バレーボールにおけるセッターによるブロックの枚数と決定率の違い
- Androidによる手書き計算アプリケーションの設計と開発
- 2階変数係数線形微分方程式と境界値問題
- Degree theory and Borsuk-Ulam theorem
- F1ラップタイム解析のための数量化法
- On universal ultrametric spaces
- アメリカンフットボールにおける怪我の要因分析
- サッカーのシュートとペナルティエリア内での攻防に関する考察
- 常微分方程式について
- スクイークを用いた「速さ」教育について
- スマートデバイスに対応した数学アプリケーションの開発 ～グラフ表示アプリケーション「Math Graph」～
- バドミントンの勝敗における要因解析
- バレーボールにおけるスパイク決定率に関する分析
- ファッションコーディネートシステムに向けたWebアプリケーションの作成
- プロ野球ドラフト分析
- メビウスの帯と精神分析学の関係について
- 留数定理を用いた実定積分の計算

自由な環境で自分の興味あることをめいっぱい！

森口 未恵 さん(数理情報環境論コース4年生)

私は高校生の時, 将来自分が何になりたいのかははっきり定まっておらず, ただ漠然と好きな数学の勉強を続けたいと思っていました。そこで出会ったのが数理情報環境論コース(以下,《数理》)です。理学部数学科とは違い,《数理》は必修科目が少なく,授業の多くを自分で選べます。なので,自分の興味ある授業を受けることができ,多様な分野に挑戦することができます。将来自分の進み道を限定しないこの特色に惹かれこの学部を選びました。

人間環境学科には,文系受験,理系受験の両方で入学できます。《数理》の中には理転をした人もおり,数学Ⅲ+Cを勉強していない人もした人と同様のカリキュラムで学んでいます。理転をした人たちは予習復習を欠かさず足りない部分を補う努力をし,また,理転をした人たちの数学に対する意欲の高さに刺激を受ける,互いを高めあえる環境で勉強をすることができます。

あなたにとっての《数理》の魅力を探しに来てください！

学生からのメッセージ



生活環境論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

☐生活の質(QOL)

☐安全・安心

☐持続可能

☐生活空間

☐生活技術

☐生活資源

日常生活の現場から環境のあり方を追究する

昔、「大人になる」とは親世代と同じ暮らしをすることでした。しかし現代の私たちは、誰も「大人になれば親世代のように暮らす」などとは思えません。私たちの暮らしと、それを取り巻く環境との変化は、それほど激しく急速になっています。日々創られる最先端技術は日常生活の利便性を高める一方で、暮らしと環境に関わる新たな課題も生み続けています。生活の基礎条件である衣食住さえ、つねにその様相を変え続けています。さらに住まいから近隣、都市までの生活を取り巻く空間の変貌ぶりは言うまでもありません。私たちの生活環境は、かつてなく複雑な状況の中に置かれているのです。

そこで生活環境論コースは、日常生活と環境の関係をどのように理解し、組み立てるべきかという問題に対処できる人材の養成を目指しています。具体的には私たちが暮らし、働き、憩うための空間をどのように創造すべきかについて、住居、福祉施設、緑地、都市などの空間

の実態を調べ、生活環境のあり方を考える「生活空間領域」、さまざまな技術が、衣食住にかかわる生活用品や健康と福祉にかかわる機器などにどのように用いられ、暮らしの環境に影響を及ぼしているか、その現状を把握し、技術利用の方向性を考える「生活技術領域」、食糧、水、エネルギーなどの資源環境と暮らしがどのような関係をもつべきなのかを追究し、生活のための資源利用・保全・管理の方法を考える「生活資源領域」という3つの領域から生活環境を捉えます。実験、フィールドワーク、シミュレーションを組み合わせて生活環境の分析を進め、生活製品設計の提案、福祉機器開発、食糧生産のあり方、まちづくりへの参画、高齢者施設計画への参加、環境負荷低減など、実践的なプロジェクトを重視して問題解決のための教育・研究を行っています。

主なコース専門科目

- ☐生活環境基礎実験
- ☐生活環境調査法
- ☐生活空間計画論1・2
- ☐生活環境心理学
- ☐生活環境緑化論1・2
- ☐衣環境学1・2
- ☐生活環境メカニクス1・2
- ☐生活環境電子計測論1・2
- ☐食環境学1・2
- ☐植物環境学1・2
- ☐生活環境共生論1・2
- ☐ライフスタイル論1・2
- ☐現代生活論
- ☐住宅設計論
- ☐生活電気・機械
- ☐栄養学
- ☐生活エネルギー機器論

教員からのメッセージ



生活の質と持続可能性について、環境や資源の観点から考える

佐藤 真行 准教授(ライフスタイル論・環境経済学)

経済発展とともに、人々の生活が便利で快適になることは一面の事実であります。しかしながら、経済発展とともに資源の枯渇、環境の汚染、生態系の破壊といった経済発展の指標(GDP)では捉えられない悪影響が深刻化しているのもう一面の事実です。さらに近年では、経済発展の度合いとは別に幸福度や生活の質といった概念が注目を集めています。また、現在の経済発展がいつまで続くのかといった持続性に関する懸念も深刻化しつつあります。

ところで、これまでの経済発展を推し進めたのは「大量生産～大量消費～大量廃棄」というライフスタイルです。しかしこうしたライフスタイルは持続可能でしょうか。本当に豊かであると言えるでしょうか。私の研究室では、持続可能な発展やライフスタイルについて、環境や資源の観点から経済学を中心に社会科学的研究を行います。“Cool Heads, but Warm Hearts”という有名な経済学者の言葉を共有しながら、この難しい、しかし重要な問題に取り組んでいきましょう。

スタッフと研究分野・研究テーマ

市橋 秀樹 教授	井上 真理 教授	近江戸 伸子 教授	佐藤 真行 准教授	城 仁士 教授
植物環境学	衣環境学, 感性工学	環境バイオテクノロジー	ライフスタイル論, 環境経済学	生活環境心理学
植物が生活環境において果たしている多様な働きを量的に評価して、それに基づいた植物を利用した快適な生活環境作りについて研究しています。	着有感・使用感の良い製品設計のために、繊維状材料をはじめ生活の中で人が触れて用いる材料の特性と人間の感覚との関係をつえる研究を行っています。	農業, 医療, 食糧生産, 環境保全に貢献するための人間生活の中で変化する環境に対応する植物バイオテクノロジーに関連する研究を行っています。	環境・資源制約のもとでの経済システムと、そのときの人々のライフスタイルの分析を中心に、生活の質と社会・環境・経済の持続的発展について研究しています。	身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的実践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。
白杉 直子 教授	田畑 智博 講師	平山 洋介 教授	福田 博也 准教授	矢野 澄雄 教授
食環境学	環境システム工学	生活空間計画	生体電子計測, ヒューマンエレクトロニクス	振動工学, バイオメカニクス
食生活が生み出す環境問題 (台所排水の汚濁負荷, 肥料による地下水の窒素汚染) に関する研究や食品成分からみた味覚研究を行っています。	地域, 個人等, 様々なレベルでの環境負荷の発生要因やその構造を調査, 解析し, 解決に導くための手法論を提案する研究を行っています。	住居からコミュニティ, 都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか, という問題を理論と実証の双方から考えています。	人や植物の生体電位を計測することにより, 人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。	日常生活動作を力学的に分析し, 骨や筋肉などの身体機能・特性を計測して福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発などにかかわる研究を行っています。

主な卒業研究テーマ

- ・社交ダンスと社交ダンス喫茶が中高年女性のQOLに及ぼす影響

・握力センサの製作と動き出し反応時間

・紅葉期における街路植栽の評価

・ジャトロファの遺伝子組換え体の作出

・アメリカフーの紅葉特性

・人工芝のねじり特性の初期性能と耐久性に関する研究

・スーツの着心地に被服圧が及ぼす影響

・神戸市に本社を置く企業の緑化に関する社会貢献活動

・環境制御ブースの改良と植物生体電位計測システムの再構築

・高齢者の住宅改善と療養環境

・植物バイオマス:クズの効率的な発根方法と染色体解析

・地域包括ケアシステムによる住宅高齢者支援のあり方
—京都府福知山市「高齢者の介護及び生活」に関するニーズ調査から—

・乳酸の塩味増強・抑制効果に関する研究
—乳酸添加食塩水の官能評価—

・神戸市民による街路樹の評価—紅葉期の街路樹の印象評価から—
- ・タオルの風合いと物理特性の関係

・音刺激が植物の気孔開度に及ぼす影響と生体電位応答

・既婚女性の就労・育児と住宅事情

・携帯電話の入力操作が歩行に及ぼす影響

・高機能綿織物の性能評価

・公共空間における音声情報伝達についての潜在因子抽出による検討

・高齢期以前の年代における主観年齢と老いへの抵抗感について

・若年層の居住に関するデンマークと日本の比較研究

・ジャトロファの組織培養における効率的なシュート再分化に関する研究

・住宅所有形態と少子化の関係についての研究

・静止時における手の握り強さが動き出し反応時間に及ぼす影響

・トイレットペーパーの風合いと物理特性

・布と皮膚の摩擦特性に関する測定方法の検討

・有機栽培碾茶園における減肥プロジェクト
—統計解析による窒素溶脱低減化の評価—

学生からのメッセージ



文系理系を超えた視点で学びを実践したい、好奇心旺盛な皆さんへ

荒木 緑 さん(生活環境論コース4年生)

「この服は動きにくいなあ」
「この食品添加物は大丈夫かな?」
「この空間が落ち着かないのはなぜ?」

日常生活を通して浮かんでくる疑問や問題は、意識してみるとたくさんあります。それを解決するには、暮らす人や環境によって全く違う色々な生活を「知る」こと、そして実際に解決策を「やってみる」ことが必要です。

生活環境論コースでは、これを文系・理系の境なく、色々な視点から実践できるのです。たとえば、理論を講義で聴くことから、アンケート調査、フィールドワーク、化学実験、工学実験、農園実習、調理実習まで、実践的な授業がたくさんあります。しかも、他コースでは2年次から文理の系統がほぼ決まっているのに対し、生活環境論コースは3年次にゼミでの活動が始まるまで、文理の枠を超えて日常生活の問題に直接関わる問題を見つめ、研究することができます。

常に広い視野をもって、身近な問題の解決を実践したい…。生活環境論コースはそんな人のためのコースです。

社会環境論 コース

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- グローバル化
- 新自由主義
- 地域社会
- 第三世界
- 文化変容
- 公共性

人間の発達と社会の発展を多様な視点の総合から学ぶ

「社会」とは不思議なものです。一方で、社会とは一人一人の人間の集合であり、つまり社会を形作っているのは他ならぬ私たちです。そして私たちはこの社会の中で、迷いや力不足を感じつつも、他の人たちとともに少しでも幸せに、充実して生きていこうとしています。より良い生き方を目指して他の人たちと協働する場、それが社会であるはずですが。

しかし他方で、私たちはこの社会の中で、必ずしも思うように生きていくことができません。いや、「思うように」どころか、せめて「もう少しマシな」生き方を目指すことさえ簡単ではないのが現実でしょう。むしろ様々な壁に囲まれ、「生きにくい」と感じている人も少なくないようです。しかもその苦しみや不安、窮屈さは、最近ますます強まってははいないでしょうか。

私たち自身が社会を作っているはずなのに、なぜこうなるのか。一体どうすれば今の状況を変えられるのか。そして何を目指して進むのか——こう

した問題を考えるのが、社会についての新しい学問である【社会環境論】です。

【社会環境論】では、社会を人間の自由な発達のための環境として捉えます。今の社会で私たちはどんな状況に置かれているのか、私たちはなぜ今のような社会を作り出したのか、一人一人が充実して生きるためにはどんな社会が良いのか、そしてそうした社会を私たち自身がどう作り上げるのか。これが【社会環境論】のテーマです。

ですが、このテーマに取り組むには社会を多面的に見る必要があります(社会全体にかかわる問題を一つの解法で解けるわけではありません)。そのために【社会環境論】は様々な分野(政治、経済、法律、歴史、地理…)をベースにしながら、その枠を越えた学問を目指してチャレンジしています。あなたもこのチャレンジに参加してみませんか?面白さは保証つきです。

主なコース専門科目

- 社会規範論A・B
- 社会環境思想史
- 国際平和論
- 福祉国家論
- 家族論
- 社会文化環境論
- 社会変動史
- 地域空間システム論
- 農村開発論
- 自治体論
- 産業社会環境論A・B
- 産業構造論
- 現代日本社会史
- フィールドワーク実習
- 国際開発論
- 地域社会環境論A・B
- 労働史
- 都市地域論
- 憲法秩序論
- 環境経済学
- 国際社会環境論
- コミュニティ論
- 社会政策史
- 公共性論

教員からのメッセージ



人は、いかにして世界を変えるのか?

浅野 慎一 教授(社会文化環境論,社会学)

私達のゼミでは、一人ひとりの人間が、どのように新たな時代を切り拓きつつあるのかを研究します。つまり個々人の生活や意識の変化、および世界社会の歴史的転換の双方を貫く内在論理を明らかにすることを目指しています。そこでまず、現代の世界社会の構造や動態、および諸個人の「生命=生活 (life)」や発達に関する社会理論を学びます。またゼミの学生達は街に出て、インタビュー調査を敢行します。世界社会の構造を根底から創りかえ、新たな世界を創造する主体性やエネルギーは、人々の現実の生活や生き方の中にしか発見できないからです。インタビューの相手は、在日外国人、ワーキングプア、震災復興支援のボランティア、有機農業に取り組む農民、地域の食文化を担うパン職人、アニメにはまるオタク、海外を放浪するバック・パッカー、子育てに悩む父母、日中両国を越境する中国残留孤児、読み書きを学ぶ夜間中学生、原子力発電に携わる技術者など、多彩です。

スタッフと研究分野・研究テーマ

※ 2013年10月1日着任予定

浅野 慎一 教授	井口 克郎 講師 *	岩佐 卓也 准教授	太田 和宏 准教授	岡田 章宏 教授
社会文化環境論, 社会学	経済学, 社会保障	社会政策	途上国政治経済	社会規範論, イギリス統治構造論
国境を越えて移動する人々を主な対象として、歴史に翻弄されながらも、自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	人間の生活と発達を支える雇用・労働や医療・福祉制度のあり方を研究しています。特に災害被災者の生活保障に取り組んでいます。	新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで、雇用のルールはどのように変容してきているのか、賃金問題などを焦点に研究しています。	グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。	近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検討の対象としながら、住民自らが自治を行う可能性とそのあり方について研究を行っています。
澤 宗則 准教授	橋本 直人 准教授	山崎 健 教授		
人文地理学, 地域社会論	社会思想, 社会学史	都市地理学		
グローバル化にともなう地域社会の変容、特に開発途上国インドの農村の変化、先進国の移民社会の形成について、現地調査に基づいて研究を行っています。	ドイツの哲学・社会学を中心に、これまで現代社会がどうとらえられてきたかを研究することで、社会と人間に関する新しい考え方を探求しています。	日本及び中国の都市・都市圏内部の地域構造の形成と変容について、地理学的な手法を用いて研究を行っています。		

主な卒業研究テーマ

- ・日・中・韓 平和絵本プロジェクト
- ・震災復興における市民と行政の協働
—新潟県中越地震における中越復興市民会議を中心にして—
- ・地域コミュニティ再生へ向けて —東灘区のNPO取り組みを追う—
- ・男性家事・育児参加の現状とイクメンへの展開
- ・子育てネットワーク形成について
—インターネットの利用は何を変えたか—
- ・グローバル化の構造転換 —近代世界システムの彼方へ—
- ・キャラ付けのコミュニケーションとアイデンティティの関係性
—ゴフマン・ミードの視点から—
- ・景観まちづくりと市民参画の新たなカタチ
—神戸市旧居留地地区の事例から—
- ・企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility) 形成の歴史的分脈とその現代的意義
- ・国内ボランティアと国際ボランティア比較
- ・冷戦崩壊後の平和意識の変遷
- ・経済格差から見る教育格差の新たな展望
- ・現代人の幸福の在り方 ～幸福を多角的に考える～
- ・エーリッヒ・フロムの思想の考察 —自発的な仕事のありかた—
- ・介護労働者の社会的地位の向上 —デンマークとの比較から—
- ・学生団体による地域再生活動の目指すべき方向性
- ・環境先進国ドイツの課題 ～生物多様性に関する取り組みについて～
- ・現代社会が抱えるコミュニケーション関係の課題について
- ・郊外住宅団地における男性退職者のネットワーク形成について
—神戸市垂水区団地スポーツ協会を事例にして—
- ・産業社会における遊びの自由と抵抗の可能性
- ・地域づくりにおける社会関係資本の形成
—丹波市における新規定住者獲得に向けた取り組みを事例に—
- ・不登校・ひきこもりの経験者の生活と意識
—内的葛藤と新たな社会認識の錯綜—
- ・ボランティア学習の意義と課題
—国立ハンセン病療養所邑久光明園でのワークキャンプを事例に—

×○○○→ 世界の中のオンリーワン!

吉田 勲雄 さん(社会環境論コース4年生)

社会環境論コースの魅力はまず何といっても「何でもできる!」ということです。僕はゼミで労働研究をしておりますが、その内容は経済学に近く、発達科学部にいながら経済学を深く学ぶことができます。教授の数に対して学生数が少ないため、質問の飛び交う有意義で密度の濃い学びができます。このコースは学びの幅が非常に広いため、今は具体的な目標がなくてもいずれは自分が関心を持つものを必ず見つけられます。

僕はラクロス部に所属しており、練習が朝早くからあり学問との両立は大変ですが、教授や友人の助けもあり、文武両道、毎日を充実して過ごせています。また試合の応援に来てくれるなど素晴らしい友人たちに囲まれています。その期待に応えようと現在はU22日本代表候補となり選考会に臨んでいます。発達科学部は部活をしている人の味方でもあります。

ぜひ、このコースで自分の道を切り拓き、世界の中のオンリーワンを目指してみてください。

学生からのメッセージ



発達支援論 コース

- ▶ **Course Keyword** 【コースキーワード】
- 子どもと家庭の支援
 - ジェンダー・イクイティ
 - 成人学習
 - ボランティア
 - 社会的排除
 - 持続可能な社会づくり

4学科横断のユニークなコースで、 鋭い問題意識を幅広い観点から鍛える

発達支援論コースは、発達科学部の特色を生かすことを目的に作られました。どの学科からでも3年次から、実践的研究に関心のある学生なら進むことができ、自分の関心に基づいて他のどのコースの授業でも受講することができます。卒業論文にその成果をまとめることが目的です。卒論研究に当たっては、人間発達環境学研究科に設置されたHCセンター（ヒューマン・コミュニティ創成研究センター）の活動と連動しながら、アクション・リサーチという、実践現場に足をのいた研究方法の指導を受けることができます。HCセンターには、「ヘルスプロモーション」、「ジェンダー研究・学習支援」、「子ども・家庭支援」、「労働・成人教育支援」、「障害共生支援」、「ボランティア社会・学習支援」という6つの領域があります。詳細はそれぞれの教員紹介欄を見てください。

これらの多様なプロジェクトに参加しながら、鋭い問題意識を養っていきます。たとえば、HCセンターでは、アクション・リサーチに取り組むために大学外の市街地に、のびやかスペース「あーち」というサテライト施設をつくっています。ここでは「子ども・家庭支援」と「障害共生支援」の2つの部門がさまざまなプログラムを展開しています。毎年、この施設を利用して卒論に取り組む学生がいます。また、学生たちの表現活動の場にもなっています。このコースで学ぶためには、社会の動きに目を向けその成り行きに関心をもっていることや、さまざまなアクティビティに自分から参加して、参加者の間をつないでいくような能動的な姿勢が必要です。

主なコース専門科目

- 発達支援論研究
- 発達支援論演習（ジェンダー研究・学習支援論）
- 発達支援論演習（労働・成人教育支援論）
- 発達支援論演習（ヘルスプロモーション論）
- 発達支援論演習（子ども・家庭支援論）
- 発達支援論演習（ボランティア社会・学習支援論）
- 発達支援論演習（障害共生支援論）
- 発達支援研究法

教員からのメッセージ

対立や葛藤を 成長の糧に変えていこう

津田 英二 准教授（生涯学習論，障害共生支援論）

「のびやかスペースあーち」などで取り組んでいる実践的研究において、対立や葛藤を人間の成長によって乗り越えるという視点が大切だと思っています。解決不可能であるかのように思える問題の中に身を投じ、粘り強く解決を探るという経験は、学生のみなさんの心身を鍛え、地球に溢れる諸問題の解決に向かう重要なプレイヤーとしての素質を磨きもすることでしょう。マニュアル社会に住む私たちは、答えがすぐに手に届くところにあると考えてしまいがちですが、私たちの社会にある公共的な課題の多くは、簡単な介入による解決を許さない複雑な背景をもっています。学生のみなさんには、たくさんの地球規模の課題を身近に感じ、その根の深さを知り、それでも根気強く解決に向けて地道な努力をしている人たちに接してもらいたいと思っています。発達支援論コースは、そうした機会をたくさん提供しています。学生も教員も一緒に悩み、そして前進しましょう。

スタッフと研究分野・研究テーマ

伊藤 篤 教授	川畑 徹朗 教授	末本 誠 教授	高尾 千秋 助教
子ども家庭福祉論	健康教育，ヘルスプロモーション	社会教育，成人教育，成人学習論，ライフヒストリー	ESD，青少年教育，野外教育
出産から青年期までの子どもの発達を支援する仕組みを、当事者である家庭と学校を含む公的資源およびNPOを含む地域資源との協働という視点から考えています。	青少年が薬物乱用などの危険行動を避け、健康増進行動を主体的に選択できるようにするため、健康教育とヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	社会に存在する学校以外の場での、成人の学習の意義やその支援の方法などについて研究しています。現在とくに取り組んでいるのは、ライフヒストリーを成人教育に応用するという方法論の開発です。	ESDサブコースのコーディネーターとして、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進するプログラムの研究・開発や、野外での体験学習やワークショップ等による青少年教育の実践的研究を行っています。
津田 英二 准教授	朴木 佳緒留 教授	松岡 広路 教授	
生涯学習論，障害共生支援論	ジェンダー問題と教育・学習	生涯学習論，福祉教育・ボランティア学習論	
障害の問題を社会の問題として捉え、社会的排除のない共生社会にどのように近づくことができるかということを実践的に追究する研究を行っています。	日本のジェンダー問題を明らかにし、教育や学習の問題また学習者支援について具体的、実践的に追究する研究を行っています。	持続不可能な開発をしつづけてきた現代社会を変革するためのさまざまな市民活動・社会的事業・教育活動を対象に、その推進方策・原理を実践的に研究しています。	

主な卒業研究テーマ

- ・不登校と不登校児の家族の家族療法による変化に関する考察
- ・ブックスタートの現状と親子に与える影響についての一考察
- ・母体体重に関する産後の不安を減らす試みーやせ妊婦増加の視点からー
- ・子どもを対象とした野外活動におけるボランティアサブリーダーの役割についての考察
- ・岸和田男女共同参画と岸和田だんじり祭りの関係についての一考察
- ・ボランティアが拓く学校内の脱学校の取組の可能性ー放課後の学習支援実践を通してー
- ・家庭に問題を抱える子どもに対応した教員の連携に関する一考察
- ・歴史的に見た演劇教育の発展と衰退ー現代の普及に向けてー
- ・アスペルガー障害のある学生の高校から大学初年度にわたる支援についての一提言
- ・学童保育施設における健常児と障害児の関係の発展に関する一考察
- ・児童相談所におけるマンパワー不足問題ー児童相談所数・児童福祉数等の量的問題について
- ・性行為におけるジェンダーについての研究ーデンマーク・オーフス市の事例と聞き取り調査を通してー
- ・男性の育児休業取得促進のためにースウェーデンの育児休業制度・企業対応・人々の意識を参照してー
- ・地域と【協働】するワークキャンプに関する一考察ーワークキャンプ実践が未来への懸け橋となる事を願ってー
- ・内的キャリア形成のあり方についての考察ー自己のライフストーリーをもとにー
- ・薬物をめぐる文化に関する考察
- ・ゆとり教育をめぐるメディア報道の当事者的観点からの考察ー新聞記事に対する当事者へのインタビューを通してー

違った仲間、それぞれのフィールド、 何を見つめますか？

光岡 千穂 さん（発達支援論コース4年生）

発達支援論コースに所属する学生の興味は、教育、労働、子育て、ジェンダーなど一見するとばらばらです。また、ボランティアやイベントの企画、部活動、学童保育など活動している場も異なります。そのため、友人から刺激を受けることも多く、「こんな人もいる、こんな考え方もある」という発見もたくさんあります。私自身は、支援論コースに入ってから、「のびやかスペースあーち」で行われる博物館の企画や学童保育に参加するようになりました。どちらも今まで加わることがなかったフィールドで、その場にいるからこそその気づきを得ることができ、とても学びの多い毎日です。このように個人的で活動的な友人たちがいること、フィールドに飛び込む機会があることに魅力を感じています。先生方もユニークで学生のやりたいことをじっくりと聞いてくれます。ゼミに限らず、普段からコース全体で指導していただく機会があることも特徴だと思います。

学生からのメッセージ

	1 年	2 年	3 年	4 年
	学部共通科目			
	全学共通科目,全学共通基礎科目			
	学科共通科目			
			コース専門科目	
				卒業研究
全学共通科目	●教養原論 ●外国語科目 ●情報科目 ●健康・スポーツ科学			
学部共通科目	●発達科学への招待			
学科共通科目	【入学時の学科の学科共通科目を履修します】			
コース専門科目		●発達支援論研究	●発達支援論演習(ジェンダー研究・学習支援論) ●発達支援論演習(労働・成人教育支援論) ●発達支援論演習(ヘルスプロモーション論) ●発達支援論演習(子ども・家庭支援論) ●発達支援論演習(ボランティア社会・学習支援論) ●発達支援論演習(障害共生支援論) ●発達支援論研究法	
		【2年で所属するコースのコース専門科目を履修します】	【発達科学部のすべての授業科目を履修することができます】	

主な進路・主な資格免許の取得状況

主な進路

2011年度	2012年度
・ケイ・オブティコム	・インサイト
・ノバシステム	・関西電力
・神戸市教員(中学)	・グリー
・横浜市教員(小学)	・千趣会
・横浜家庭裁判所	・八十二銀行
	・日本アクセス
	・日本コープ共済生活協同組合連合会
	・東大阪市職員
	・兵庫県教員(特別支援)
	・神戸大学大学院農学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事, 社会福祉主事任用資格を除きます。

2011年度	2012年度
・小学校教諭一種免許状	・中学校教諭一種免許状(理科)
・幼稚園教諭一種免許状	・中学校教諭一種免許状(数学)
	・高等学校教諭一種免許状(理科)
	・高等学校教諭一種免許状(数学)
	・特別支援学校教諭一種免許状

OB&OG INTERVIEW

社会福祉法人恵仲会
サンレジデンス湘南 勤務

伊藤 美友 さん
(2010年3月卒)



今の私は神戸大学での
4年間があったからこそ

私は今、神奈川県平塚市にある社会福祉法人で福祉用具の販売やレンタルの仕事をしなが、人事やヘルパー2級講座の事務局など法人内の様々な仕事に関わらせてもらっています。また、現在社会福祉士通信課程で社会福祉士の取得を目指して勉強中です。

大学時代は人間表現学科に所属し、自由劇場という演劇部で4年間演劇をしていました。学科のみんなと卒業公演で舞台をやれたことは、最高の思い出であると共に今の私の原動力となっています。発達科学部では本当にたくさんの人と出会い、たくさんのことを学べました。

私が現在の仕事に就こうと思ったのも、所属していた発達支援論コースの院生と話をしている中で「どんな人でも集えるような『コミュニケーション』つくりたいよね。」という話題で盛り上がったことがきっかけ。本当にそんな居場所づくりしたいという思いが今の仕事に結びついています。将来はもちろん自分で『コミュニケーション』を作ってそこで演劇したいですね!

ESD サブコース

Course Keyword 【コースキーワード】

- 持続可能な社会の構築
- 人権・平和・環境・開発・倫理
- アクション・リサーチ
- 人間の変革可能性
- 新しい価値観の形成
- 未来への責任

専門的な15コースでの学びに加え,履修可能な補助カリキュラム

ESDサブコースは、発達科学部・文学部・経済学部・農学部・国際文化学部・工学部・医学部の7つの学部が協働し運営している学部を超えた領域横断型のユニークなコースです。発達科学部の学生は主専攻に加えて選択できるコースとなっているため、サブコースと呼ばれています。

地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含む全ての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、日本政府の発案により、世界中で取り組むことが国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことをESD (Education for Sustainable Development) といいます。

ESDサブコースは、3つの大きな特徴を持っています。ひとつには、

ESDに求められる課題の多様性に対応し、貧困、平和、正義、人権、倫理、健康など「持続可能な社会の形成」に重点をおいた各学部の特色を生かした多領域の学びが用意されています。次に、学生のみならずは、地域社会の個々の活動現場に出かけ、学外の人々と連携しながら実践活動への参画(アクション・リサーチ)を通して、持続不可能な社会や仕組みの問題性あるいは解決の方向性を探究することになります。そして、4年間で関連科目を含め14単位を取得することで、卒業学位とは別に「ESDプラクティショナー」として認証を受けることができます。こうした特徴的な仕組みのなかで、個別の専門知識に偏らない複眼的な視点、実際の問題を解決する上で求められる組織・集団の調整能力、および問題を解決する意志とスキルを持った人材の養成を目標としています。

カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
基礎科目	●ESD基礎(持続可能な社会づくり) ●実践農学入門 ●総合科目Ⅰ(ESD論)			
関連科目	●生涯スポーツ論 ●農と植物防疫入門 ●熱帯有用植物学 ●ヴィジュアル・コミュニケーション論 ●阪神・淡路大震災 ●総合科目Ⅱ(ボランティアと社会貢献活動)	●子どもの発達 ●自然教育論 ●健康行動科学 ●都市・建築文化論 ●生活空間計画論Ⅰ ●生活環境緑化論Ⅰ ●ガバナンス論 ●水文学	●バイオエシックス ●環境NPOビジネスモデル設計概論 ●社会コミュニケーション入門 ●食糧生産管理学 ●植物栄養学 ●環境人文学講義Ⅱ ●国際関係論	●国際開発論 ●環境植物生態学 ●エコロジー論 ●メディア論
フィールド演習科目		●ESD演習Ⅰ(環境経済学) ●ESD演習Ⅰ(兵庫県農業環境論)	●ESD演習Ⅰ(環境発達学) ●ESD演習Ⅰ(環境人文学) ●ESD演習Ⅱ(環境発達学)	●ESD演習Ⅱ(環境人文学) ●ESD演習Ⅱ(環境経済学) ●ESD演習Ⅱ(実践農学)
総合実践科目				●ESD実践論

とりあえずやってみる。
おもしろいものが見えてくる。

山尾 すみれ さん(人間環境学科生活環境論コース)

「ESDってどんなイメージ?」と聞かれたことがあります。私の答えは「いろんな人がいろんな方向を向いていて、けど同じ方向に進んでいる感じ。」これはきっとESDサブコースがサブコースであるが故の魅力です。ESDに参加する人達は、教授にしても学生にしてもそれぞれの専門分野を持っています。だからこそ、ひとつの問題に対峙した時に、いろいろな視点から意見を出し合うことができるのです。

また、1回生のときからフィールドワークやプレゼンテーションをする機会に恵まれることも魅力のひとつだと思います。私はESD基礎(1回生対象)の授業で、新開地の喫茶店をまわって店長さんや従業員の方に話を聞く体験をしました。教養や語学が多い1回生の授業の中ではダントツで印象に残っています。

人と話すことや行動することが好きな人、ちょっと変わったことをやってみたい人は、ESDに足を突っ込んでみると、大学生活がもっと楽しくなるかもしれません。

学生からのメッセージ





神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

Graduate School of Human Development and Environment

人間発達環境学研究科とは

21世紀を迎え、科学技術の進化を背景に社会経済における高度情報化やグローバル化が急激に進展し、人類の更なる発展が期待できる状況にあります。しかしその反面、この動きは価値観の衝突や知識・富の偏在の遠因にもなり、多くの国や地域では、人間の自由な発達を阻害する深刻な事態も数多く発生しています。

このようななか、私たちは、人間の発達(human development)とは何か、そしてそれはどうすれば可能か、という根本的な問いと向き合い、より実践的な観点から早急に具体的な解を導くことを強く要請されています。もとより、容易な課題ではありません。なぜなら、人間の発達を真に捉えるためには、人間それ自身だけでなく、人間をとりまく環境にも注意深く関心をいただき、人類の叡智

教育の特色

博士課程前期課程の特色

博士課程前期課程では、人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的あるいは応用的・実践的な教育・研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力を備えた人材の養成をめざしています。このため、本研究科では、個々の学生が本研究科在学中のあらゆる機会を通じて知識・スキル・能力・資質とそれらの自己開発力を獲得できるよう、学生の「学び」をトータルにプロデュースし支援する体制をとっています。以下のような特色をもつ、学ぶ側の立場に立った能力開発支援型の教育プログラムです。

●研究科共通科目(「ヒューマンコミュニティ創成研究」)の設定

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、のびやかスペース「あーち」、サイエンスショップなどを活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。

●特別研究Ⅰ・Ⅱの設定

研究科共通科目「特別研究Ⅰ」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクション・リサーチの技法など、研究に必要な方法論の基本的手法を修得することで研究能力の基礎を固めます。さらに共通科目「特別研究Ⅱ」において、フィールドワークやワークショップ、プロジェクト研究や作品展など、研究の実際の場面に関わることで、研究遂行のための実際的手法を修得します。

これらの「特別研究」では、主指導教員の個別的な指導のほかに、副指導教員を含む他専門の教員による指導助言を受けたり、学生相互の意見交換を行う機会を積極的に設けます。学生は、多様な見方・意見の自由な交流をとおして自らの解を主体的・自律的に導くことができます。

●個々の学習課題に応える積み上げ方式の専門教育

全般的な専門力量の形成を支援するために、人間発達専攻では専攻共通科目(人間発達総合研究Ⅰ・Ⅱ)「人間発達相關研究」「人間発達研究」)を置いているほか、個々の研究課題に応じたコース・ワークが可能になるように、専門科目は、基礎科目(「特論Ⅰ」など)、展開科目(「演習」など)および関連科目から構成される積み上げ方式のカリキュラム構成をとっています。特に「演習」では、開発するスキル群をシラバスに明記し、スキル開発を重視しています。

●複数教員による指導体制

本研究科では、主指導教員1名のほかに副指導教員2名をおき、副指導教員には、異なる専門分野でありながら学生の研究内容に関連する

を結集しながら多面的かつ重層的に研究していくことが求められるからです。

人間発達環境学研究科は、これらの課題に応えるため、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という理念に基づいて、文系・理系の理論や学内外の実践的知見を総動員し、より総合的な観点から人間発達研究に新たな学問的地平を拓くことを目的とした大学院です。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは、大学が地域、行政、企業、NPO、NGO、市民と連携しながら、より実践的な観点から人間的な社会(ヒューマン・コミュニティ)の創成をめざす教育研究活動の総体を意味し、本研究科における教育研究の特徴を示しています。

領域の教員があたるように配慮しています。これらの教員間の協議に基づき綿密な研究指導を行うことで、高い専門性とともに幅広い視野を備えた独創性・創造性をもつ人材を養成するところにねらいがあります。また、後期課程進学志望者については、1年次での学会参加、2年次での学会発表を支援します。

●取得できる学位と後期課程への進学

前期課程では、修士(学術)が基本ですが、教育研究内容によっては、教育・学習専攻においては修士(教育学)、人間環境学専攻においては修士(理学)を取得することができます。また、前期課程を修了した者が引き続き後期課程に進学を希望する場合は、選考の上、進学することができます。後期課程への入学科は必要ありません。

●先端的研究に協働する「研究道場」の設置(人間発達専攻)

人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、教員が共同で進める先端的研究の場に学生が参加し協働する体制として「研究道場」を設置し、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を習得できるようにします。

●ソフトスキルや社会人基礎力の育成

専攻レベル、研究室レベルで実施されている諸活動(専攻研究セミナー、修士論文発表会など)について、「参加」「運営」といった役割を担うことを通して、コミュニケーション・スキル、ネゴシエーション・スキル、企画力、マネジメント・スキル、チームワーク・スキル、リーダーシップ・スキルといったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

●長期履修制度や柔軟・適切な教育方法の実施(社会人学生)

社会人学生については、長期履修制度を設けるとともに、学習の機会が制約されないよう、(大学設置基準第14条に定める教育方法の特例にもとづく)夜間・休日開講など、柔軟かつ適切な教育方法を実施します。



求める学生像

人間発達環境学研究科は、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。



- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間の発達や環境に関する諸課題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力

博士課程後期課程の特色

博士課程後期課程では、人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる原理的あるいは応用的・実践的な教育研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力だけでなく、独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成をめざしています。そのため、本研究科では、以下の特色をもつ教育プログラムのもとで、学生が、自らの専門を深めるだけでなく、多角的かつ相対的に捉えることにより、自らの専門のアイデンティティを練り上げることができる高度な学問的能力を身に付けるようにします。

●特別研究Ⅲ・Ⅳの設定

研究科共通科目「特別研究Ⅲ」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展をめざします。また、本研究科が開催する「学術Weeks」等での研究発表をとおして、国際学会での発表の基盤を固めます。共通科目「特別研究Ⅳ」では、フィールドワークやワークショップ、研究会、学会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得します。また、国際的な論文の作成能力を養成します。

●専門力量の深化

さらなる専門力量の深化をめざした高度化科目(特論Ⅱ)を展開します。

●体系的な博士論文作成指導システムの提供

前期課程、後期課程の5年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム(基礎論文、プロポーザル、予備論文、中間発表、公開最終試験)が準備されています。

●先端的研究に協働する「研究道場」の設置(人間発達専攻)

人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、教員が共同で進める先端的研究の場に学生が参加し協働する体制として「研究道場」を設置し、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を習得できるようにします。

●実践的な教育力の涵養支援

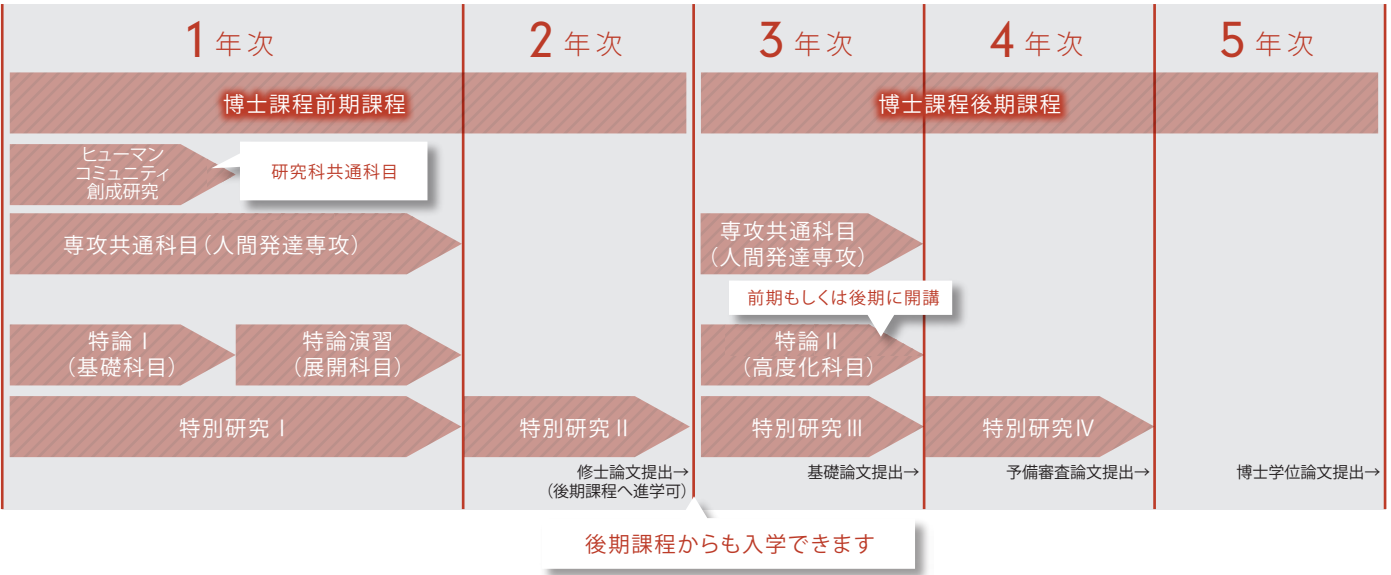
大学教員をめざす学生に対して、学部教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」の履修により、実践的な教育力の開発を支援します。

●取得できる学位

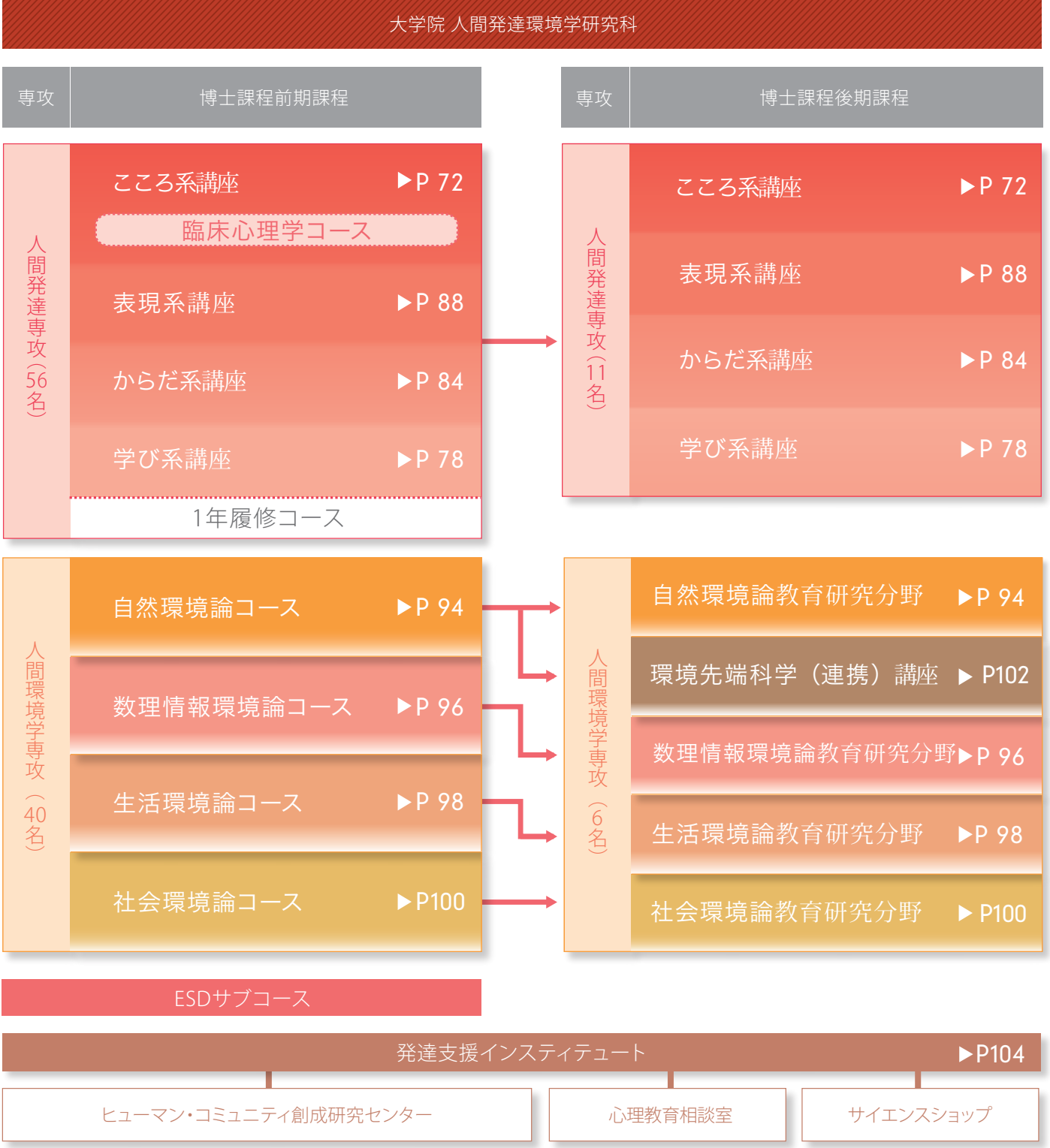
博士(学術)を基本としますが、教育研究内容によっては、人間発達専攻においては博士(教育学)、人間環境学専攻においては博士(理学)を取得することもできます。



研究科のカリキュラム



研究科構成図



ESDサブコースは、「持続可能な開発のための教育: Education for Sustainable Development」の理論と実践について学ぶことを目的としたコースです。環境、人権、開発、防災、経済など、多様な課題の解決について、教育の観点から考究し行動することのできる国際人の育成をめざしています。次のような授業によって構成されており、このコースの修了生には、ESD Advanced Practitioner の認証が付与されます。(学部のサブコースも参照すること。p.63)

<主な授業>**ESD基礎科目群**: 人間発達と人間環境の相互性を軸とした講義。

ESD研究: 英語による授業。人権、開発、共生などをテーマとしたESDの知見を知るための講義とディスカッション。

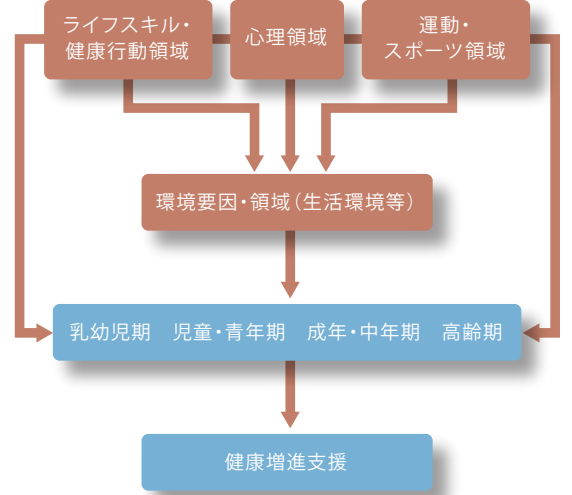
ESD研究演習: スタディツアーをはじめとしたアクションを伴った学習に取り組み、リサーチペーパーに結実させる。

研究トピックス

TOPICS 1 “アクティブ・エイジング”プロジェクト 「多世代を対象としたウェルビーイング(well-being)なコミュニティづくりをめざした支援プログラム開発の試み」

我が国の人口の少子高齢化は、医療・福祉領域にとどまらず、経済・産業・文化など広範で複雑な課題を生み出しています。また、これら多くの課題は日々の生活の中にみられることから、生活の場であるコミュニティの課題を明らかにし、それを解決することは重要な取り組みといえます。この取り組みには、研究者グループの分野横断的・学際的アプローチに加え、研究者が自治体、住民、企業などと協働し、世代を超えた人々の参画のもと、健康を維持しながら社会参加ができる、安全な生活の場としてのアクティブ・エイジングに根ざした新しいコミュニティを創出することが求められています。そこで、本研究では「健康」「社会参加」「安全・安心」「多世代交流」などの観点から、地域コミュニティの様々な問題を明らかにするとともに、それらの解決に向け、研究科教員が地域住民、行政、及び企業と協働し、学びと活動の基礎となる“場”を形成します。そして、その“場”を利用したプログラムの開発と地域への実装を行う計画が進行中です。

なお、このプロジェクトは2011年度から立ち上げた健康増進支援プロジェクトの実績を基に、多領域横断型の発達研究への展開をめざしたプロジェクトで、2012年度から科学研究費補助金(基盤研究A)の援助を受けて実施しています。



TOPICS 2 ESD海外実践研究 「海外フィールドワークで現実を直視し問題の本質に迫る」

2012年秋、2回に分けて教職員と学生の総勢延べ14名が、韓国で各4日間の学習活動を行いました。訪問先の韓国ナザレ大学は、私たちの学部・研究科と連携協定を結んでいる大学で、ここ5年ほど毎年相互に学生と教員が行ったり来たりしています。韓国ナザレ大学は、韓国随一の障害学生支援を展開していて、障害者福祉や障害児教育の分野ばかりでなく、情報科学、経済、音楽、舞台芸術、文学など、さまざまな分野で障害者が活躍するための基盤づくりに力を発揮しています。学生たちは、韓国ナザレ大学の障害学生を対象としたインタビュー調査、アンケート調査を行ったり、授業参観をしたり、自分たちの研究テーマについて英語でプレゼンテーションをしたりしました。韓国の学生との間に友情も生まれ、日韓の文化的差異、日韓の障害者の高等教育保障などについての関心がそれぞれ深まりました。そうした関心に基づいて、学生たちは自主的に韓国ナザレ大学の取り組みを紹介し、日本における障害者の高等教育保障について深める論文の執筆を行い、研究科紀要に投稿する計画を立てています。



TOPICS 3 学術Weeks 「国内・国際交流研究会を軸として学際的研究を推進する」

学術Weeksは、教員、大学院生、大学生が総体となり、国内・国際交流研究会ならびに研究活動報告会を企画、実践するもので、2008年度から11月頃に毎年実施しています。これらの実践活動を通して、個人ならびにグループの研究を鳥瞰的に見つめ直し、研究能力の向上を図ることが目的の一つです。また、本研究科で行われている多様な研究領域について、教員、大学院生、大学生が異なる学術分野の枠を超えて交流するように多角的に工夫されており、新たな学際的研究を生むフィールドとしても期待されます。2012年度の学術Weeksでは、13企画を実践し、外国人研究者は12名、大学院生と大学生はのべ1,127名が参加しました。特に大学院生が企画段階から主体的に取り組むことで、On the job training(OJT)として、英語力、企画・運営力、広報力、発表力などの研究に重要なスキルを習得し、キャリアを育成する支援を行うという教育的側面も持っています。



人間発達専攻

専攻の理念

人間の発達とは、すべての人がもつかけがえのない個性を前提とする概念です。1人ひとりの人間は、さまざまな潜在能力をその人に固有の道筋で開花させていくのであり、それを人間の発達と呼ぶことができます。ですから、実際に現れる発達の様相は、とても多様で複雑です。「人間発達専攻」は一筋縄では捉えられない人間の発達と向き合おうとするとき、関連する学問分野が相互につながり、それぞれに蓄積された学問的知見を有機的に結びつける“学問領域複合型人間発達研究”こそ、発達の実像の解明に効果的であると考えています。

人間発達環境学研究科は、「人間それ自体の発達」に関わる教育・研究のあり方をさらに高度化、総合化していきます。新たにスタートする人間発達専攻は、今までの心身発達専攻、教育・学習専攻、人間行動専攻、人間表現専攻という4つの専攻を統合し、これまで蓄積したそのエネルギーを1つの専攻に集中させることで、人間発達研究の新たな一歩を踏み出します。



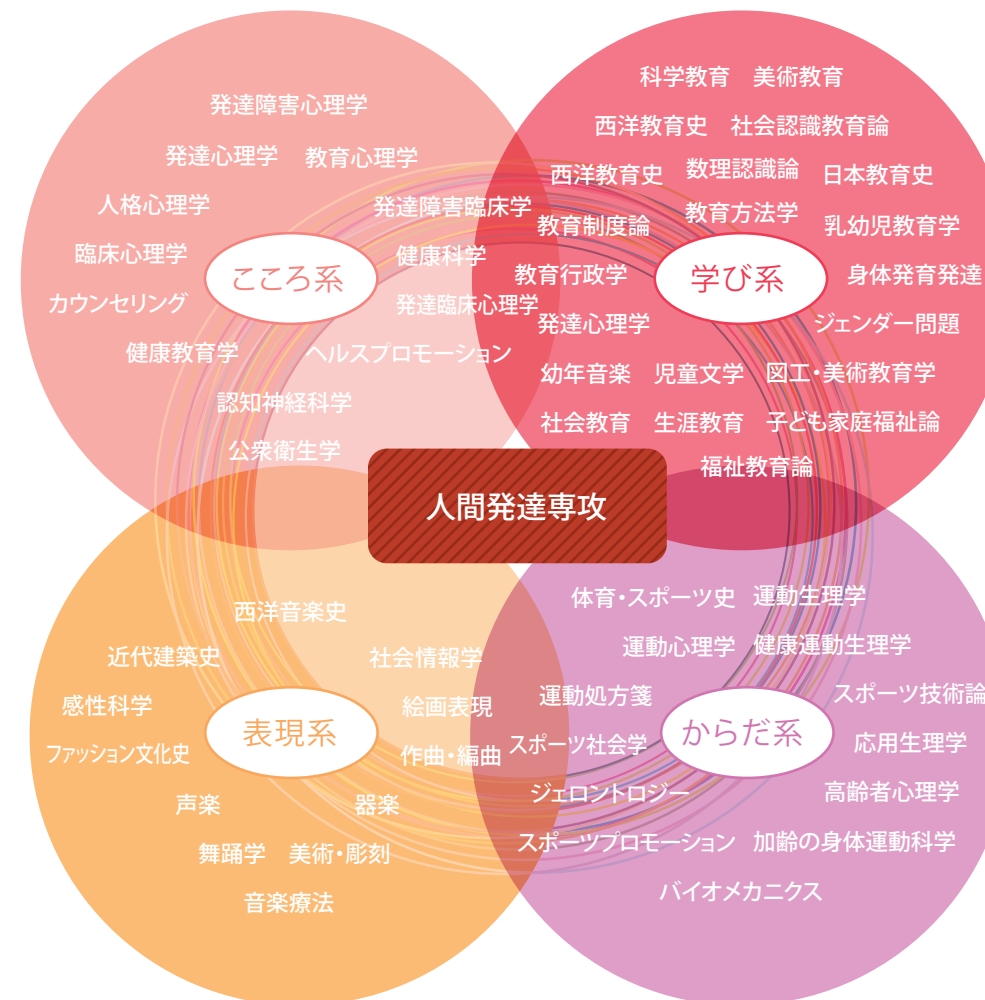
人間発達専攻は、もうひとつの専攻である人間環境学専攻とともに、急激に変容する今日の状況に柔軟に対応するためパワーアップを図り、人間発達環境学研究科を支える“車の両輪”として、これまで以上に充実した教育・研究を提供していきます。

専攻長からのメッセージ

専攻長 森岡 正芳 教授

人間発達専攻という新しい専攻が私たちの研究科に誕生します。専攻で用意するカリキュラムは多彩です。こころ系、からだ系、学び系、表現系という4つの系の科目群と共通科目群によってカバーする領域は広く、教育と研究両面での交流が格段に活発になることが期待されます。皆さんが入学されたら、これらの各群の科目を積極的に組み合わせてください。独自の専門領域を構想することができます。たとえば、赤ちゃんから高齢者にいたる人生の発達と学びを心理、教育、社会の観点からとらえたり、アートのさまざまな方法を用いて社会支援のフィールドに活かしたりすることが可能になります。心と身体の働きをハードからソフトにいたる技術によって測定し、心身の健康回復と増進に貢献する基礎力を養うこともできます。社会の様々な実践現場で、借り物ではない知を培い活かす力が求められています。その期待に添いたい。新専攻を皆さんとともに充実させましょう。

人間発達専攻がカバーしている4つの系の専門領域



【図】人間発達専攻が包摂する専門領域

人間発達専攻では、学生自らが様々な専門領域を自由に組み合わせ、独自の視点から人間の発達を解明することを期待しています。この図は、そのための道標を示しています。

先端的研究に協働する「研究道場」の設置

人間発達専攻では、人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制として「研究道場」を作ります。そこでは、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早

期に自立できる素養を習得するようにします。この道場への参加は、原則として前期課程1年次又は後期課程1年次において参画意欲のある学生を募った上で、主・副指導教員の判断により決定します。

主な進路(旧専攻ごとの実績を表記)

(旧心身発達専攻)	(旧教育・学習専攻)	(旧人間行動専攻)	(旧人間表現専攻)
・神戸市職員	・草津市職員	・ミズノ	・奈良たんぼの家
・高知県職員	・啓明中学校・高等学校教員	・大阪府教員(小・高)	・アートセンターHANA
・法務教官	・システムディ	・奈良県私立学校教員(中高)	・奈良市職員
・松坂厚生病院	・奈良県教員(小学)	・西脇市職員	・兵庫県職員
・神戸大学大学院人間発達環境学研究科	・テレビ新広島	・ヤマハモーターソリューション	・兵庫県教員(高校)
	・大阪府教員(高校)	・大成建設株式会社	・スガナミ楽器
	・神戸大学大学院人間発達環境学研究科	・神戸大学大学院人間発達環境学研究科	

主な取得可能な資格免許

- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・小学校教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状(保健体育, 音楽, 美術)
- ・高等学校教諭専修免許状(保健体育, 音楽, 美術)
- ・特別支援学校教諭専修免許状
- ・臨床心理士資格試験の受験資格(臨床心理学コースのみ)

心理発達に関する研究分野

「心の科学」を体系的に追究し、専門的な力量を深める

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- 人間発達特論Ⅰ
- 自己形成特論Ⅰ
- 教育発達心理学特論Ⅰ
- 発達障害心理学特論Ⅰ
- 発達障害臨床学特論Ⅰ
- 心理統計法特論
- 人間発達特論Ⅱ ●
- 自己形成特論Ⅱ ●
- 教育発達心理学特論Ⅱ ●
- 教育能力養成演習 ●
- 臨床人間関係学特論Ⅱ ●
- 臨床心理学特論Ⅱ ●
- 芸術療法特論Ⅱ ●
- 臨床心理実習Ⅱ ●



大学院生からのメッセージ



多様な視点から
人間の「生」と「死」に向き合う

田中 美帆 さん(前期課程2年生)

妊娠・出産を経験した女性がどのような生と死に対する態度を持つのか、それが私の最大の興味です。命を生み出すライフイベントは人間の一生の中で最も「生」を強く意識する瞬間ですが、同時に母子どちらにとっても命を懸けた闘いでもあります。このような「生」と「死」どちらにも関わるような経験が女性の生と死に対する態度に与える影響について、妊娠中からの変遷に焦点を当て研究しています。

私の研究テーマは国内では研究がほとんど蓄積されていません。方法論が確立されておらず、先行研究も少ないといった研究を進めるうえでの難しさもありますが、前人未到の頂に登るような研究の日々は私をワクワクさせてくれます。また、この研究科には私と同じく先駆者の少ない分野を研究する学生が多く、彼らとの活発な議論を通じて気づかされる部分も多いのです。たくさんの人に支えられ、研究という大きな頂をこれからも登っていきたいと思っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

赤木 和重 准教授 後 発達障害心理学 自閉症スペクトラム障害児における 教示行為の発達と支援 自閉症スペクトラム障害児における自己と社会性の 発達に注目して研究しています。特に教示行 為の発達と障害について、実証的な研究を行っ ています。同時に、障害のある子どもどうしが教え あう・学びあう授業の構造と展開について、現場 の教員と協同しながらすすめています。	林 創 准教授 後 認知発達心理学 子どもはいつ頃「目に見えない 他者の気持ち」の存在に気づくのでしょうか？ 主として幼児期から児童期を対象とした認知の 発達の問題に焦点をあてています。とくに「他者 とかかわる心」に関心があり、社会性の認知発達 に関して、実証的に研究を行っています。また、教 育実践や日常生活への示唆が得られ、社会的貢 献ができることを目標にして研究を進めています。
齊藤 誠一 准教授 後 発達心理学 受精から死まで人間発達の不思議と面白さ をわくわくドキドキしながら研究しています ①からだところの関係：思春期発育がどのよう な心理的影響を与えるか、生殖期女性の性周期 がどのような心理的意義をもつかを研究していま す。②震災とところの関係：阪神・淡路大震災や 東日本大震災とりわけ放射能汚染がその人の生 き方や未来にどのような影響を与えているかを研 究しています。	
坂本 美紀 准教授 後 教育心理学 質の高い学びの実現に向け、心理学の 観点から、学習の過程と評価を検討する。 教科学習場面における児童の協調学習につい て、理科を中心に研究しています。現在の関心 は、科学的思考とその表現にあり、知識を活用し て思考する力と、思考の内容を文章等で表現する 力とを一体的に育成する理科授業、ならびに 思考力の評価方法を開発・改良し、授業の成果 評価に取り組んでいます。	谷 冬彦 准教授 後 人格心理学 青年期におけるアイデンティティ形成の 研究とパーソナリティ（人格）研究 青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）形 成の研究を主に行っています。そのほか、広く パーソナリティ（人格）や自己に関する実証的研 究をしています。パーソナリティ（人格）の研究と しては、「甘え」や自己愛や基本的信頼感など、精 神分析の人格理論に基づいた研究をしていま す。



主な学位論文テーマ

- ・恋愛関係における多次元的な嫉妬について
- ・思春期における問題行動の促進・抑制要因の検討:衝動性に注目して
- ・小学生に対する話し合いを取り入れた意見文指導の効果
一意見構築能力と文章作成スキルの向上を目指して一
- ・小中移行期における学校適応の変化 一縦断研究による調査から一
- ・愛着との関係からみる自己愛人格の構造に関する研究
- ・青年期における親子関係及び父母関係の認知と対人態度の関連



心理発達に関する研究分野

(前期課程：臨床心理学コース)

豊富な臨床実習体験ときめ細かい指導システム

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- 心理療法特論Ⅰ
- 臨床人間関係学特論Ⅰ
- 臨床心理学特論Ⅰ
- 芸術療法特論Ⅰ
- 臨床心理検査特論Ⅰ
- 臨床心理実習Ⅰ
- 精神医学特論
- 教育臨床特論
- イメージ臨床特論
- 心理療法特論Ⅱ ●
- 臨床人間関係学特論Ⅱ ●
- 臨床心理学特論Ⅱ ●
- 芸術療法特論Ⅱ ●
- 臨床心理実習Ⅱ ●



大学院生からのメッセージ



「一人ひとりを見るということ」

山崎 美鈴 さん(前期課程2年生)

私は「親になる」ことに興味を持っています。どんな体験をきっかけに、周囲との関係の中で、どのように意識されていくのか…。人それぞれ、その人だけの体験であるが故に、一人ひとりを深くみていくことの重要性和新鮮さを感じています。子育て援助を中心とした臨床心理学的援助を目指して本研究科に進学しましたが、病院、学校等幅広いフィールドでの実習や授業を通して、よりその人に寄り添った援助の在り方とは何か、日々考えさせられます。海外の研究者や他領域との交流も活発であり、国際シンポジウムやセミナーで話し合いや実践から知識を吸収し、新しい視点に拓かれていくのはとても楽しく刺激になります。「親になる」ことの発達や周りの関係を研究しながら、実践の場でその気持ちを受け止め、一緒に進んでいくための研鑽を積む。専門のみにとらわれない広い視野で研究と実践を繋げていけることに、やりがいと向上心を感じています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

相澤 直樹 准教授 ● 臨床心理学, 臨床心理検査(投影法) 対人恐怖の心理を探る研究と臨床事例を中心としたロールシャッハ法研究 対人恐怖とは、人の目に映る自分の姿に強くとられる状態で、青年期に多い悩みとされています。その心理を発達の観点から解明する調査研究をしています。また、投影法心理検査として有名なロールシャッハ検査を臨床現場で用い、事例研究を中心にさまざまな心の問題に悩む人にアプローチしています。	伊藤 俊樹 准教授 ● 臨床心理学, 芸術療法 無意識から産み出されるイメージを通じて自分や他者の「心ころ」をさぐる ①心理療法の中でも、特にイメージを用いた芸術療法に関する研究。②ロールシャッハテストを用いた、芸術家の無意識の創造性に関する研究。③投影法的な手法を用いた、消費者の商品・ブランド等に対する無意識のイメージの研究。また、その知見を生かした、商品の開発・企画の研究。	河崎 佳子 教授 ● 臨床心理学, 発達臨床心理学 「心の風景」を求めて - 聴覚障害児、被虐待児への心的支援の実践的研究 聴覚障害児・者とその家族に対する心的支援をテーマに研究しました。きこえない子どもたちの心理発達に手話が果たす役割に注目し、彼らの映像思考に関心を寄せて取り組んでいます。また、被虐待体験をもつ乳幼児への心理的ケアについて、乳児院・児童養護施設を舞台に実践研究を続けています。
森岡 正芳 教授 ● 臨床心理学, 文化心理学, 臨床ナラティブアプローチ 語りが自己を形作る。その文化社会的、関係性の要因をさぐり、心理療法に活かす。 ナラティブアプローチによる治療の意味生成に関する研究。ナラティブや対話的自己という視点から家族関係、トラウマのケア、心身相関、病と障害、文化と癒しの問題に取り組んでいます。対話関係の中で自己が積極的に構成されるプロセスを分析しています。	吉田 圭吾 教授 ● 臨床心理学, 教育臨床心理学 教育現場における教師と心理との連携を図る一子どもや保護者のために何ができるか? 幼稚園から小中高を通して大学・大学院にまで至る教育現場における、教育相談の理論と実際、教師の教育相談の在り方、教師とスクールカウンセラーとの連携、保護者面接の仕方、発達障害や精神障害を抱える人への支援の仕方について研究しています。また最近では自死遺族相談にも力を入れています。	この5名が担当する臨床心理学コース(博士課程前期課程)は、臨床心理士受験資格取得の第Ⅰ種指定大学院コースです。

主な学位論文テーマ

- ・アタッチメントと孤独感、甘えとの関連
- ・独り言に隠された対話関係 - 「声」によってつくられる発話 -
- ・労働者の持つひとりの時間と精神的健康との関連
- ・不登校体験の語りをきく - 当事者の体験の意味づけとその課程 -
- ・認知症の母親を介護する娘が抱える葛藤について
- ・就労3年目以降の高機能自閉症スペクトラム障害者における職業価値観の変容プロセス - 就労上の困難に焦点を当てて -



健康発達に関する研究分野

包括的かつ体系的なヘルスプロモーション研究

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- 健康教育学特論Ⅰ
- 健康行動科学特論Ⅰ
- 健康環境科学特論Ⅰ
- 健康増進科学特論Ⅰ
- ヘルスプロモーション特論Ⅰ
- 健康教育学特論Ⅱ ●
- 健康行動科学特論Ⅱ ●
- 健康環境科学特論Ⅱ ●
- 健康増進科学特論Ⅱ ●
- 教育能力養成演習 ●
- ヘルスプロモーション特論Ⅱ ●



大学院生からのメッセージ



先輩・後輩と研究室で 過ごす一日一日が、私の財産です

堺 千紘 さん(後期課程2年生)

私は他大学の薬学部出身です。中・高等学校での医薬品の正しい使い方に関する教育について、薬学的観点からだけでなく教育学的観点からもその在り方について研究したいと考え、健康教育、行動科学をご専門とする川畑先生のもとで学んでいます。

川畑研究室では、青少年の健康にかかわる行動にはどのような社会的要因や個人的要因が関連しているのか、また青少年の健康的な行動を促進するためにはどういった教育が必要か、という問題を柱に、学部生・院生一人ひとりが研究課題をもち、調査研究や論文執筆に日々切磋琢磨しています。学部生・院生が取り組む研究課題は多様なので、お互いの研究について相談し合うことで、とても視野が広がります。研究を進めていく上では、学問的知識だけでなく、コミュニケーションも同じくらい重要だと思います。研究室で先輩や後輩と過ごす一日一日が、学問的にも、また人間的にも自分を成長させてくれる、この上ない財産です。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

加藤 佳子 准教授 ●	川畑 徹朗 教授 ●	中村 晴信 教授 ●
健康教育, 健康心理学	ライフスキル教育, ヘルスプロモーション	公衆衛生学 生理人類学
生活科学と行動科学の学際的な立場から健康行動を解明し健康教育に貢献する	しなやかに生きる心の能力(ライフスキル)を育てる教育プログラムの開発	疾病予防と健康増進につながる生活習慣の探索とその生理学的メカニズムの解明
心や体の健康に関する人の行動を探り、HR-QOLとWell-beingの向上を目指しています。現在の研究課題は、健康生成モデルにもとづいた食嗜好と偏食の機序に関する研究やオーストラリアと日本のHR-QOLおよびWell-beingに関する文化比較研究、ジェンダーと健康の研究です。	思春期の様々な危険行動を防止するために、ライフスキルやメディアリテラシー形成に焦点を当てたプログラムの開発研究を行っています。具体的には、メディアが喫煙、飲酒行動、ボディイメージに及ぼす影響、ライフスキル形成を基礎とするいじめ防止や性教育プログラムの開発研究に取り組んでいます。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について、疫学調査と実験を組み合わせ、健康問題の探索や生理学的メカニズムの解明を行っています。現在の主なテーマは、子どもの発達と体組成との関係に関する研究や、食事が生体に及ぼす影響や食行動と精神的健康との関係についての神経生理学的研究です。



主な学位論文テーマ

● は博士学位論文

- ・ 青少年の医薬品使用に関わる要因
- ・ ネットいじめ防止に有効なアプローチの検討 いじめ加害防止の観点からー
- ・ 非行少年の再犯にかかわる要因に関する文献研究
- ・ 食に対する態度や行動におけるストレスの影響と関連要因の検討
- ・ 現代の食事パターンがヒトの生理・心理機能に及ぼす影響ー自律神経機能を中心とした検討からー ●
- ・ ライフスキルとメディアリテラシー形成に焦点を当てた、中学生の性に関する危険行動防止プログラムの開発のための基礎研究 ●



教育科学論に関する研究分野

教育はいかにして可能か?教育現象を探究する高度な専門能力育成

主な授業科目

⑩ 後期課程開講科目

- 西洋教育史特論Ⅰ
- 教育行政特論Ⅰ
- 教育制度特論Ⅰ
- 日本教育史特論Ⅰ
- 高等教育特論Ⅰ
- 高等教育計画特論Ⅰ
- 教育方法学特論Ⅰ
- 社会認識教育内容特論Ⅰ
- 科学教育カリキュラム特論Ⅰ
- 科学教育原理特論Ⅰ
- 西洋教育史特論Ⅱ ⑩
- 教育行政特論Ⅱ ⑩
- 教育制度特論Ⅱ ⑩
- 日本教育史特論Ⅱ ⑩
- 高等教育特論Ⅱ ⑩
- 高等教育計画特論Ⅱ ⑩
- 社会認識教育内容特論Ⅱ ⑩
- 科学教育カリキュラム特論Ⅱ ⑩
- 科学教育原理特論Ⅱ ⑩
- 教育方法学特論Ⅱ ⑩



大学院生からのメッセージ



教育現場を助ける、 じわじわと効く漢方薬のような研究を。

宇賀神 一 さん(前期課程2年生)

私は昨年、宇都宮大学から本大学院に進学してきました。進学当初は環境の変化に戸惑いでしたが、今では同級生や先輩と楽しく刺激的な毎日を送っています。

丁寧に指導してくださる教授陣が揃い、また貴重な資料が閲覧できる充実した環境のもと、私は「石森延男」という人物の歴史を研究しています。石森は戦前と戦後、日本と中国を跨ぎ国語教育に関わった人物です。8月からは、研究の一環として華東師範大学(中国・上海)に留学して資料収集を行う予定です。

「研究は現場の負担を軽くするものであれ」、そして「歴史研究は即効性がない。しかし、漢方薬のように後でじわじわ効いてくる」という師の言葉を道標に、研究を進めています。石森についての研究は、即座に教育現場の問題の解決には繋がらないかもしれませんが、常に現場の先生方の負担や悩みを視野に入れ、いずれ漢方薬のようにじわじわと効果を発揮する、息の長い研究をしたいと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

⑩ 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

稲垣 成哲 教授 ⑩ 科学教育	川地 亜弥子 准教授 ⑩ 教育方法学	勅使河原 君江 講師 美術教育
科学教育におけるテクノロジー利用についてプロジェクト型の研究を通して考える。	よりよい教育実践のあり方を、子どもの生活と表現から探究する	美術を通した子どもの発達支援研究を資料研究と実践研究の両面からアプローチしています。
科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論、方法、評価及び実践デザインについて研究しています。	子どもの発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、そのよりよいあり方を探究しています。特に、戦前・戦後の生活綴方実践に注目して研究しています。近年は、系統的な教科の指導と子どもの生活と表現に根ざした指導の関係や、子どもの自由な表現を保障する指導と教育評価に焦点を当てています。	美術教育資料研究として、1940年代から1970年代に関西で出版された童詩雑誌『きりん』にみられる美術作家達による美術教育の資料研究を行っています。子どもの表現を実践的に理解する研究としては、対話型美術鑑賞をベースとした美術教育実践研究を行っています。
船寄 俊雄 教授 ⑩ 日本教育史、教育学	山口 悦司 准教授 ⑩ 科学教育	山下 晃一 准教授 ⑩ 教育制度論
教育の歴史を知り、明日の教育を拓く——日本教員養成史を中心に	科学の学びをよりよく支援するための理論的・実践的な研究に取り組んでいます。	「なぜ学校に行くのか」不透明な時代に、いかにして「通いたい学校」を実現できるか
明治時代以降現在に至る教員の養成史を研究しています。その中でも最も関心をもっているのは、戦前にあった中等教員の国家検定試験(文検)の研究です。	教育学の中でも、科学(理科を含む)の教育に特化した専門分野で研究しています。最近では、子どもの学習だけではなく教師の教えることに関する学習も支援しうる「教師用指導書」の研究、長期にわたる子どもの概念変化や思考発達を扱う「ラーニング・プログレッションズ」の研究に取り組んでいます。	「なぜ学校に通わなければならないのか」という苦悩が少しでも減り、子どもが通いたくなる、大人も勤めたく・関わりたくなる学校をどう創るか。地域が学校や教師を評価・承認する制度や、教師が互いに支えあい、子どもや保護者への感受性を発揮できる校内組織などのあり方について研究しています。
吉永 潤 准教授 ⑩ 社会認識教育論	渡部 昭男 教授 ⑩ 教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育)	
社会科教育は、政治、国家、権力作用、そして戦争をどう教えるべきか?	人権と幸福を享受できるよう教育法制度を運用する智恵&工夫を学ぶのが教育行政学です。	
社会認識とは何か。それは、つきつめれば、人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。あなたならどう答えますか?	特別ニーズのある子どもたちを含む、人間発達と地域創造を保障できるような教育行政の在り方、特に住民と身近な基礎自治体(市町村)の可能性を探っています。近年は、「糸賀一雄の思想」「発達権の保障」「漸進的な無償化」「インクルーシブ教育への道」を探究しています(附属図書館Kernelのサイトで検索閲覧可能)。	



主な学位論文テーマ

⑩ は博士學位論文

- ・高等学校における教員養成プログラムの展開と課題
—「教育」関連コース等の設置と教育実践に着目して—
- ・K.ストライクによる学校改革論の射程と意義
—米国スモールスクールの理論と実践を中心に—
- ・中国農村部における小中学校統廃合の要因と影響に関する実証的研究 —湖南省祁東県を中心に—
- ・コネクショニストモデルを応用した理科の授業研究 ⑩
- ・能力人間学としての骨相学
—近代教育言説における「能力」のエピステモロジー— ⑩

子ども発達に関する研究分野

乳幼児から青年期の子どもを対象に、子どもの教育と発達を総合的に学びます

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- ☐ 乳幼児発達特論Ⅰ
- ☐ 乳幼児教育保育特論Ⅰ
- ☐ 数理認識発達特論Ⅰ
- ☐ 造形表現学習特論Ⅰ
- ☐ 幼年音楽表現特論Ⅰ
- ☐ 児童造形表現特論Ⅰ
- ☐ 児童文学表現特論Ⅰ
- ☐ 身体運動発達特論Ⅰ
- ☐ 乳幼児発達特論Ⅱ
- ☐ 乳幼児教育保育特論Ⅱ
- ☐ 造形表現学習特論Ⅱ
- ☐ 幼年音楽表現特論Ⅱ
- ☐ 身体運動発達特論Ⅱ



大学院生からのメッセージ

自分の視野を広げられる きっかけにあふれる場

黒西 希 さん(前期課程2年生)

私は学部時代を音楽大学で過ごし、本研究科に進学しました。学部時代から幼児の音楽教育を専攻し、子どもにとっての望ましい音楽経験とはなにか、そのために周りの大人はどのような援助が出来るのかについて研究しています。学部時代は「音楽」というフィールドから「教育」や「子ども」を捉えていましたが、本研究科に進学し「教育」や「子ども」というフィールドから「音楽」を捉えてみることで、新しい知見、新しい視点を持って音楽教育を見つめ直せていると実感しています。このプロセスにおいて、様々な研究分野を持つ院生に囲まれて取り組む講義や演習、院生同士の議論は欠かすことができません。日常的に他分野の研究を行う院生と交流でき、新しい考え方に触れる機会に恵まれているという点は、本研究科の大きな魅力なのではないかと感じています。この恵まれた環境の中で研究に取り組むことができることに感謝し、より自分の視野を広げたいです。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

岡部 恭幸 准教授 後 数理認識論, 数学教育 算数・数学についての子どもの「わかり」を解き明かし、「わかる」授業をつくる。 よりよい算数・数学教育が実践されるために、子どもがどのようにそれぞれの数学概念を認識していくか、またそれぞれの数学概念がどのような構造を持っているかについて研究しています。そして、それらの研究で得られた知見に基づいて教育内容や方法の開発を実践的に行っています。	北野 幸子 准教授 後 乳幼児教育学, 保育学 乳幼児の特性を理解し、尊重し、発達に適した乳幼児教育と保育者の専門性を探求する。 乳幼児(0～8歳くらい)を対象とし、その発達に適した保育の内容や方法、保育に独自の専門性、保育者の専門要件、養成教育や研修の在り方について研究しています。また、国内外の専門組織の活動や政策を検討し、乳幼児教育保育領域の専門性の確立や、維持向上を図るシステムについて探求しています。	木下 孝司 教授 後 発達心理学 子どもの「不思議」を通して、人間の発達の「謎」に迫る。 乳幼児や障害のある子どもの発達について、次のようなテーマで発達心理学的な研究を行っています。1)乳幼児が相互に相手の心の状態を理解するプロセス。2)子どもが他者とのコミュニケーションを経て自己を形成していくプロセス。3)保育や療育を通じた発達支援のあり方と発達保障の基盤づくり。
國土 将平 教授 後 身体発育発達, 保健体育科教育, 健康・スポーツ測定 子どものからだの発育・運動能力の発達・健康・生活を計量的に切り取り解明する。 日本やアジアの子どものからだの発育や健康、体力・運動能力・運動動作の発達を計量的に明らかにし、これらの相互作用を検証するとともに、教育・学習活動、生活環境や生活習慣の影響について研究しています。統計を駆使して複雑な現象を説明しますが、人間の感覚に近い観点や結果を目指しています。	五味 克久 教授 後 幼年音楽, リトミック, 合唱指揮 リトミック及び幼年音楽をどのような課題でどのように指導するか。 生活の中にある音や音楽に気づくことから始めます。そして、身近にある物で簡単に音のでるものを作ってみます。音の発見あるいは音の気づき、ということから考えています。このようなことからどのように音楽教育や音楽の活動に繋げていくかという研究をしています。	鈴木 幹雄 教授 後 図工・美術教育学, 芸術教育に関連した教育学 子どもの心に語りかける表現教育、その営みと努力 ヨーロッパの芸術教育学に関心があります。この点で、ナチズム期亡命者達によりアメリカにもたらされたヨーロッパの学問に関心があります。
目黒 強 准教授 後 児童文学, 国語教育 児童文学作品を通して、子どもという存在に価値を見出す社会について考える。 明治以降、特定の子ども観が学校・家庭・社会のそれぞれの領域で発見され、相互に関連しながら、近代的子ども観を形作ってきました。このようなムーブメントのなかで、児童文学の文学場がどのようにして成立したのかについて、歴史社会的観点から明らかにしようと試みています。		

主な学位論文テーマ

- 割合概念の獲得にみられるつまずきとスキーマ形成の関連
- 時間的広がりをもった感情理解の発達
- 幼児期の絵における意図の発達 一意づけによる意図の持続の検討―
- 自閉症の幼児における笑いと発達 ―通園施設での観察事例の分析―
- 2歳児における葛藤場面での自己調整の発達
- 関数描画ソフトを利用した数学教育について
- 高機能自閉症児の自己認知と自尊心を育む教育的支援 ―「9,10歳の節」での自己認知の質的变化に着目して―

発達支援に関する研究分野

現場の実践者と協働した実践的研究を行う

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- 生涯学習支援特論Ⅰ
- 成人学習支援特論Ⅰ
- 継続教育支援特論Ⅰ
- ジェンダー文化学習特論Ⅰ
- 児童発達支援特論Ⅰ
- 子ども・家庭支援論
- 労働・成人教育支援論
- ヘルスプロモーション論
- ボランティア社会・学習支援論
- ジェンダー研究・学習支援論
- 障害共生支援論
- 発達支援技術論
- 生涯学習支援特論Ⅱ ●
- 成人学習支援特論Ⅱ ●
- 継続教育支援特論Ⅱ ●
- ジェンダー文化学習特論Ⅱ ●
- 児童発達支援特論Ⅱ ●



大学院生からのメッセージ



「たくさん人と出会い、ともに学び合うことができるオープンな場所」

赤嶺 佑一 さん(前期課程2年生)

私は「ジェンダー視点でみる地域防災」を研究テーマとしています。自宅近所で発生した火災をきっかけに、地域の防災活動におけるジェンダーに関心を持つようになりました。現在は、地域の消防団や防災福祉コミュニティの活動に参加しながら、ジェンダー視点から、これからの地域防災のあり方を追究しています。

地域の防災活動に関わる方々は年齢も職業も様々ですが、どの方も「どうにかして、この地域をもっとよくしたい」という思いを持って活動しておられます。こうした方々と一緒に、どうすれば災害に強いまちになるのか、皆で助け合える地域をつくれるのかといったことを日々考えながら活動しています。

「このような問題関心で本当にやっていけるのか」と、大学院進学を考え始めた時は非常に不安でしたが、本研究科は多様な問題関心を持つ人たちが一緒になって、ともに議論し実践できる環境が整っており、いまはとても充実した大学院生活を送っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

伊藤 篤 教授 後 子ども家庭福祉論	末本 誠 教授 後 社会教育, 成人教育, 成人学習論, ライフヒストリー	津田 英二 准教授 後 生涯学習論, 障害共生支援論
拠点を核とした最早期からの育児支援システムを構築し、その効果について検討します	ライフストーリーを成人教育に取り入れる方法について実践的に研究します	「障害」を主テーマにしながら、インクルーシブな社会形成の実践課程を追求します
地域における子育て支援の質を高めるための支援構造を、家庭のライフサイクル・被支援者のニーズやリスクの水準・支援主体間の協働・センターモデルなどから検討します。	成人が学ぶことにはどのような意味があり、どのような支援が求められているのかを、ライフヒストリーを応用することによって実践的に探究する研究を行っています。	障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。
朴木 佳緒留 教授 後 ジェンダー問題と教育・学習	松岡 広路 教授 後 生涯学習論, 福祉教育・ボランティア学習論	
「見えないジェンダー」の可視化とジェンダー平等のための戦略を研究します	「持続可能な社会」の創成プロセスにおける学びの様態を実践的・理論的に探究します	
現代日本のジェンダー問題の特質をとらえ、ジェンダー問題克服のための学習支援のあり方や方策を追究する実践的研究を行っています。	ESD推進の原理・システムを、生涯学習論および福祉教育・ボランティア学習論の観点から考究し、ポスト近代教育の枠組みの構築を目指しています。	

主な学位論文テーマ

● は博士學位論文



- ・障害児の発達を促す環境形成に向けた地域資源の相互連携
- ・子育て支援としての親子リズム教室の意義と可能性
- ・大学を基盤とした福祉教育実践における学習者の変容プロセスに関する一考察
- ・共感的自己肯定感を育むインクルーシブ教育に向けて一特別支援学校における工業高等専門学校と高齢者小規模多機能施設のつながりを通して一
- ・ひとり親家庭の母の自己形成からみる就労支援のあり方一公共職業訓練修生のライフヒストリー研究一
- ・病院ボランティア活動に内在するインフォーマルな福祉教育に関する研究 ●



身体行動に関する研究分野

人間の行動・スポーツを科学するチームです！

主な授業科目

- 身体運動処方特論Ⅰ
- 運動心理学特論Ⅰ
- 身体運動制御特論Ⅰ
- 身体システム特論Ⅰ
- スポーツバイオメカニクス特論
- 生涯スポーツ特論Ⅰ
- 身体コンディショニング特論
- スポーツ文化史特論
- 身体運動処方特論Ⅱ
- 運動心理学特論Ⅱ
- 身体運動制御特論Ⅱ
- 身体システム特論Ⅱ
- 身体運動技術特論
- 生涯スポーツ特論Ⅱ
- スポーツ文化史特論Ⅱ



大学院生からのメッセージ



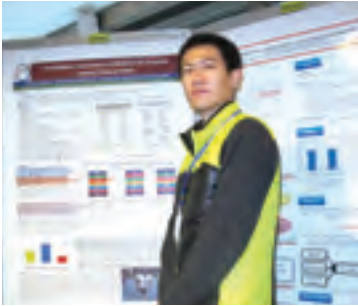
スポーツを核とした
人々の結びつきが生み出す力

稲葉 慎太郎 さん(後期課程3年生)

現代社会のスポーツを取り巻く環境は、トップスポーツから市民スポーツまで実に様々です。私は、スポーツ社会学を専攻しており、特に、“生涯スポーツ”を実現するべく育成が進んでいる総合型地域スポーツクラブを焦点に当てて研究をしています。このクラブでは、スポーツをする人はもちろんですが、子どもの試合を応援する人、指導者や事務局として日々の活動をささえる人、さらに、クラブへの協賛などで応援している地元の商店や地域団体など様々な人々が関わっています。このようなスポーツ現場を中心とした地域社会との多様な結びつきが、活動をより豊かなものにしていくといわれています。私は研究を通して、スポーツに様々な人が関わることによって生み出されるソーシャル・キャピタル(社会関係資本)について探求し、実際に活動現場に好影響をもたらすことを実証することで、より豊かな地域スポーツのネットワーク形成に貢献できればと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

秋元 忍 准教授 ^後 体育・スポーツ史 近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法に基づき解明します。 19世紀末から20世紀初頭の英国を対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法に基づき解明します。統括組織設立以前のゲームの組織化とルールの統一化の経緯、統括組織のゲーム普及戦略、統括組織非加盟クラブの活動、スポーツ用具業者の役割などを主要検討課題としています。	河辺 章子 教授 ^後 運動生理学(身体運動制御) 身体運動の巧みさを探る。 ヒトの身体運動の制御機構を探求し、随意動作の巧みさを探るとともに、巧みな動作の獲得過程を解明し、最終的には子どもから高齢者まで様々なレベルのスキル向上に貢献すること、そしてより適切な効率のよい練習法や指導法の開発への貢献を目指しています。	高田 義弘 准教授 運動生理学(身体コンディショニング) 運動、スポーツ活動を通じて、健康と競技力向上を目指します!! 運動・スポーツ(トレーニング)することによって疾病を予防することが出来るのか?競技力向上・障害予防のためのトレーニングとはどのような方法が最適なのか?運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。
高見 和至 准教授 ^後 運動心理学 意識的に思考した行動から、無意識に遂行される行動へ、人間の行動が習慣化する不思議。 現在の研究テーマは、「運動習慣の心理的プロセス」です。人間行動の発現から定着という習慣化を生み出す心理のプロセスを、運動行動から解明しています。運動・スポーツの場合、習慣化の強さは、行動ルーティンの有無、環境刺激による動機づけ、非遂行時の否定的感情生起などから推測できそうです。	平川 和文 教授 ^後 運動生理学(運動処方論, 体力・トレーニング科学) 理論と実践を繋げるスポーツ科学の研究、アクティブライフスタイルの推進! 子どもの体力・運動能力の二極化解消、ハイパー持続能力からの競技力の向上、成人・高齢者の健康・体力増進のための運動処方を研究課題としています。研究活動の基本姿勢は、理論と実践を有機的に結合させ、活動的なライフスタイルの実現に向けて、学際的視点を持って研究を進めることです。	前田 正登 教授 ^後 スポーツ技術論, スポーツバイオメカニクス, スポーツ工学 スポーツの用具を使いこなすために～動作研究と用具研究の交点 人間の動きや運動技術を考慮に入れたスポーツ用具とは?スポーツの動作・技術研究と用具研究を融合し、それら相互間の影響までを含めた研究は、スポーツで勝つために、あるいはスポーツをより楽しいものにするには不可欠です。選手が使いこなせる、人の動きにマッチしたスポーツ用具を考えていきます。
山口 泰雄 教授 ^後 スポーツ社会学、生涯スポーツ論 国内外のスポーツ振興やスポーツ政策の現状と課題を社会科学の手法により解明します。 スポーツ社会科学の理論と手法により、スポーツ参与、スポーツ政策、スポーツツーリズム、国際比較研究等に取り組んでいます。特に、スポーツ・フォー・オール(生涯スポーツ)の推進に貢献できる応用研究に焦点を当て、フィールドワークを中心に進め、国内や海外の学会・コンgresで情報発信しています。	  	

主な学位論文テーマ

● は博士學位論文

- ・頭部位置による四肢の筋力発揮への影響
ー緊張性頸反射による関与の可能性を探るー
- ・短距離走スタート局面における加速様式に関する研究
ー出発動作から疾走動作への移行に着目してー
- ・球技選手における走方向の素早い変更動作
- ・中国における大学運動選手の社会的スキル
ー社会的スキルの獲得に及ぼすスポーツ経験の影響ー
- ・競技スポーツ選手における
音楽を用いた心理的コンディショニングづくり
- ・アメリカンフットボールによる頸椎湾曲形態の短期的変化に関する研究 [●]



行動発達に関する研究分野

行動の発達・適応を多角的に究明する分析力と問題解決能力を磨く

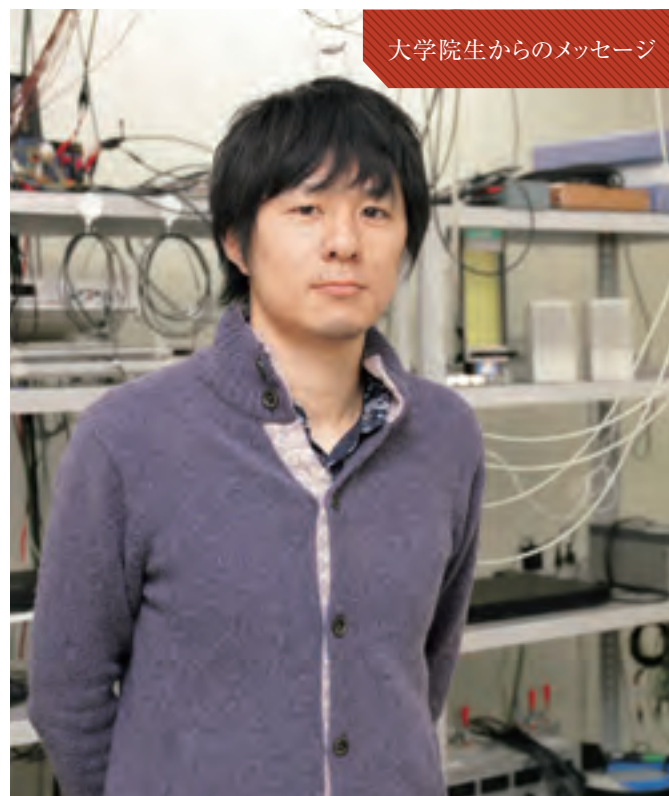
主な授業科目

● 後期課程開講科目

- ジェロントロジー特論Ⅰ
- スポーツジェロントロジー特論Ⅰ
- 身体機能加齢特論Ⅰ
- 身体機能調節特論Ⅰ
- 行動適応特論Ⅰ
- ジェロントロジー特論Ⅱ ●
- スポーツジェロントロジー特論Ⅱ ●
- 身体機能加齢特論Ⅱ ●
- 身体機能調節特論Ⅱ ●



大学院生からのメッセージ



「世界的に活躍する研究者」を目指す!

天野 達郎 さん(後期課程3年生)

私は運動時におけるヒトの体温調節システム(主に発汗や皮膚血流反応)の解明とそれに対する運動トレーニング効果について研究しています。学部生の時に陸上競技をしていたため運動時の生体反応(特にトレーニング効果)に興味を持ち、学部の卒論から現在まで継続した研究を行っています。私にとっての研究の醍醐味は、世界で初めての知見を探索することや同じ分野における世界中の研究者と競争することです。研究では論文のインパクト(≒科学雑誌のレベル)と数が重要になり、世界中の研究者が競ってレベルの高い雑誌にチャレンジしています。私自身、博士前期課程で行った研究の一部が評価の高いアメリカの生理学雑誌に受理された時はとても嬉しかったです。一方で4回リジェクトされて苦労している論文もあります。私の目標は、世界的に活躍する研究者になることです。高い志と熱い気持ちを持った方が本研究科にチャレンジすることを期待しています!

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

岡田 修一 教授 ●

加齢の身体運動科学

転倒予防の戦略と「七転び八起き」の大切さを学ぶ

超高齢社会にある我が国において、高齢者の健康に関わる大きな問題として、加齢に伴う転倒の増加があげられます。私の研究室では、身体運動科学的手法を用いて、転倒予防を視野に入れた高齢者の生活・運動機能の解析とその能力向上に関する研究、ならびにそれらの知見をもとにした介入研究を行っています。

近藤 徳彦 教授 ●

応用生理学, 運動生理学, 環境生理学

統合的に調節されている汗の仕組みを知ることによって人の行動を理解する

人は運動や環境変化に対してからだの様々な生理学的機構を統合することで適応しています。運動、年齢、性差、日内変動、運動トレーニング、人種差などを対象に、この統合的な仕組みを研究しています。また、その一つである人の汗の不思議を探ることで、人の行動の探求も行っています。

長ヶ原 誠 准教授 ●

スポーツプロモーション, 健康行動科学, ジェロントロジー

生活と社会の活性化を目指したスポーツ・健康増進活動の支援方法を探求

成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツプロモーションの理論・実証的研究と共に、これらのイベント開発、啓発キャンペーン事業、組織開発・運営、等のプロジェクト事業を通じたアクションリサーチを行い、個々の生活と社会のアクティベーション(活性化)の可能性と支援方法を探求しています。

増本 康平 准教授 ●

高齢者心理学, 実験心理学, 認知心理学

超高齢化社会のさまざまな問題を心理学的側面から科学的に捉える

現在、加齢が人に及ぼす影響やそのメカニズムに対する関心が、医療・福祉・介護に限らず、さまざまな分野で高まっています。私の研究室では、豊かな高齢社会を実現するための環境・技術の構築を目指し、加齢による認知機能・行動要因の変化について実験心理学的手法を用いた研究を実施しています。



主な学位論文テーマ

● は博士学位論文

- ・ 空巢高齢者のサクセスフル・エイジング
- ・ 運動トレーニングの違いがヒトの熱放散反応に及ぼす影響
- ・ 成人・中高齢者の主観年齢に影響を及ぼす要因の分析
— 体力年齢とスポーツ活動の関連性に着目して —
- ・ 四川大地震極重被災地什 市紅白鎮地域の
高齢者の生活回復過程に関する研究 — 震災3年後調査に基づいて —
- ・ 人工膝関節置換術施行患者における転倒リスクの経時的・多角的検討
- ・ 二重課題を伴った高齢者の動的立位姿勢調整能 ●

表現創造に関する研究分野

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指します

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- 現代彫刻特論
- 声楽表現特論
- 器楽表現特論Ⅰ
- 現代絵画特論Ⅰ
- 音楽創造特論
- 音楽創造研究特論Ⅰ
- 音楽療法持論Ⅰ
- 舞踊表現特論Ⅰ
- 立体造形演習Ⅱ ●
- 声楽表現演習 ●
- 器楽表現持論Ⅱ ●
- 現代絵画持論Ⅱ ●
- 音楽創造研究持論Ⅱ ●
- 音楽療法持論Ⅱ ●



大学院生からのメッセージ

新たな世界へと

花岡 麻里名 さん(前期課程2年生)

私が幼少から学んできたダンスや歌は、舞台上から一方的にパフォーマンスを行うだけでなく、それまで観客であった人々と互いに学びあい、発見しあい、深い気づきに至れることを知りました。大学院では、高齢者を対象に、週に一回神戸の老人ホームに通い、歌とダンスでのワークを実践して心と体の健康促進の研究をしています。自分のやりたかった研究を実際に実践し、それを分析し学ぶことは、学部時代とは違う環境でとても面白く、有意義な院生生活を送っています。また課外では今年の8月から「神戸ウエディングクイーン」として神戸に幸せを運ぶお手伝いをさせて頂いており、色々な事に挑戦して、たくさんの方に出会い、新たな世界が広がりました。ここで蓄積した力は将来の自分をしっかりと支えてくれるものだと思います。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

岸本吉弘 准教授 ● 絵画表現 直観と継承。絵画自身の自律性、重要性を現代社会に問える制作と研究 主に近代以降の絵画表現を造形的な視点より分析し、それらを継承する形で現代美術や場合によっては現代社会をも俯瞰するものの、残念ながらそうした文脈下には「真のクリエイティビティ」は存在しない。それらに対称化される「自己≒日本≒人間」という存在を(理屈ではなく)見詰めています。	佐々木 倫子 教授 ● 声楽 身体が楽器である歌。身体を通して感じそして考えたことを研究テーマにしてみませんか。 歌曲における朗唱法に関する研究。歌曲演奏において「語ること」と「うたうこと」の差異を心理的側面、技術的側面などから明確にしつつ、その表現法を研究し、コンサート活動という実践に繋げています。演奏はロシア・ドイツ・日本の歌曲が中心ですが、とくにロシア歌曲は私のライフワークです。	関 典子 講師 舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究 身体・空間・時間を媒体に、瞬間の共有を目指すコンテンポラリーダンスの世界。 有限の身体や動きという儚いものを媒体とする芸術、舞踊。その「瞬間性・現在性」にこだわり、表現・研究活動をフィードバックしながら探究しています。近年、指導学生がArtistic Movement in Toyama松本千代栄賞(最高賞)等を受賞。身体のもつ力を信じる同志として、舞踊や身体表現の魅力を探究し続けます。
塚脇 淳教授 ● 美術、彫刻 樹木のように地中から空を指向すること。あるいは人間、地上から空間を志向すること。 私たちは西洋から何を学び何を受け入れ何を自分たちのものとしてきたのか、20世紀美術を代表する作家や表現を様々な角度から考察・検証し、「彫刻」を思考しています。近年はロシアとの芸術交流に力を入れています。それはロシアが構成主義を生んだ国であり、私の作る彫刻にはその構成主義の精神が脈々と存在すると感じるからです。	田村 文生 准教授 ● 作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究 文化的パースペクティヴとスペクトラムの中にある「音」を書く、聴く、読む 「音」という概念には、素材、空間、技術、美意識など、様々な要素との接点が認められます。それらとの距離を測りつつ作品の創造に取り組むと同時に、「作品」として提示された価値の読み方・語り方について、個々の作品、諸芸術の動向・理論の中に手掛かりを求めつつ、探索しています。	坂東 肇 教授 ● 器楽(ピアノ、室内楽) 魅力ある演奏の秘密、自由自在の境地と自他一如の世界を求めて。 演奏は生命の響きそのものであり、人間のすべてを映し出すものです。誰の演奏にも、その人生が如実に反映されています。歴史的な名演奏家の演奏が、どのように確立され円熟してゆくのかといった研究を通して、人間の個性や人格の発達と、その演奏との相関について探究しています。



主な学位論文テーマ

● は博士學位論文

- ・パウル・クレーのポリフォニー絵画における「造形思考」
- ・図形楽譜を使用した子どもとの創造的音楽活動ー音楽療法の視点を通してー
- ・即興演奏の習得に関する研究
- ・音楽療法における母子理論を再考するーケアの議論を手がかりにー
- ・歌唱伴奏のピアノリズムー合唱におけるピアノ伴奏の検証を通してー
- ・ゲルハルト・リヒターにおけるアブストラクト・ペインティングの変容に関する考察
- ・音楽療法におけるソングライティングーその情動のヴィークルとしての性格をめぐってー ●



表現文化に関する研究分野

文化としての表現を、多面的に深く追究する

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- 図形科学特論Ⅰ
- 建築文化史特論Ⅰ
- メディア情報社会特論Ⅰ
- ファッション文化特論
- 音楽民族学特論
- 音楽文化史特論Ⅰ
- 視覚情報表現心理学特論Ⅰ
- 図形科学特論Ⅱ ●
- 建築文化史特論Ⅱ ●
- メディア情報社会特論Ⅱ ●
- ファッション文化特論Ⅱ ●
- 音楽民族学特論Ⅱ ●
- 音楽文化史特論Ⅱ ●



大学院生からのメッセージ



感性科学 ーヒトの持つセンスや 印象、情動を科学する。

吉見 紫彩 さん(前期課程2年生)

私は高校、大学と芸術制作を行う中で、「感じる」とは何か?という関心が強まり、感性科学が学べる人間発達環境学研究科へ進学しました。ここでは、研究者だけでなくアーティストやパフォーマーが集い、影響し合うことで、自らの研究に「自分らしさ」を見出しています。私は現在、芸術鑑賞の際にタイトルが気になったり、自分の制作した作品のタイトルを考える時にあれこれ悩んだ経験をもとに、「音象徴」と呼ばれる現象について研究を行っています。音象徴とは、パ行は元気良い、ガ行は力強い等、ある音が特定のイメージをもつ現象です。今まで経験的に語られてきた音象徴を科学的に分析するため、「あ」～「ん」の日本語拍の印象や、視覚と聴覚の印象の差異、複数拍への応用可能性を検証しました。学会発表や論文投稿と大忙しでしたが、自分らしい研究ができたと感じています。

今後は、発声時の身体感覚の影響を探るべく、新たな実験を開始します。どんな結果がでるか、今からとても楽しみです!

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

梅宮 弘光 教授 ● 近代建築史・都市史 建築や都市を舞台に展開する人と世界の相互関係に時代の特徴を探る 人間と世界の相互関係を表現や象徴を切り口に探求することを、表現文化研究と捉えています。なかでも建築や都市といった空間的拡 がりをもった世界を対象に、近代という時代の特徴を探ろうとしてきました。具体的には、日本の建築におけるモダニズム思想の生成と変容、戦後神戸の都市環境形成史などです。	大田 美佐子 准教授 ● 音楽史、音楽美学 音楽はどこにあるのか?うつろいゆく音楽のメッセージを歴史の多層性のなかに読み取る。 近現代を中心に、様々な芸術領域と交流をもつ音楽作品や音楽文化に表象された時代精神を読み解く作業をしています。個人あるいは音楽文化のなかで、伝統がどのように受容継承され、現代の音楽文化にどのようなインパクトを与えているのかを、歴史研究と音楽批評の両面から考察しています。	小高 直樹 教授 ● 感性科学、図形科学 あいまいで多義的な感性の世界に切り込むー感性情報処理科学の挑戦 感性科学の分野においては、芸術などの創造的表現におけるあいまいで多義的な感性情報を工学的に取り扱うことができる方法を構築すること、また図形科学の分野においては、平行軸測図法と透視図法を、一つの演繹体系のもとに統一的に扱うことのできる理論を構築することを目指しています。
谷 正人 准教授 ● 民族音楽学・異文化理解教育 イラン音楽の「即興」概念の解明、および音楽教授法とそれを支える価値観の変遷の研究 イラン音楽を題材に、「即興」「伝統」「オリジナリティ」などの諸概念を研究しています。最近ではイラン国外に亡命した音楽家達も対象に、イラン音楽の教授法の変遷 やヴァリエーションを、近代教育の知識観・教育観といわゆる徒弟制のそれとのダイナミクスとして比較する研究をしています。	田畑 暁生 准教授 ● 社会情報学、映像論 多種多様なメディアのあふれる現代の現代の情報社会について考え、行動する。 現代の情報社会に関する理論的・実践的な諸問題を研究対象に対し、社会学および学際的な手法でアプローチしています。より具体的に言うと、情報社会論および監視社会論の思想的系譜や、映画やテレビでの映像作品の内容分析、各地で行われている地域情報化政策の効果や影響などを扱っています。	平芳 裕子 准教授 ● ファッション文化論、表象文化論 服は語られることでファッションとなる。そしてそれはいかに語られてきたか。 ファッションという領域横断的な対象に対して、現代への批評的なまなざしと歴史のプロセスの解明との両輪でアプローチします。特に近現代の雑誌メディアにおける身体イメージと言説の分析を通じて、文化的枠組としてのファッションの成立過程やファッションシステムの構造と機能について研究しています。
山本道子 講師 視覚情報伝達学 感性心理学 表現を具体化する技術の基礎を科学的に探求する 形態、運動、奥行き、色彩など、視覚情報が処理される神経機構や知覚、認知の特性、記憶や文脈効果等の心理学的側面から、視覚情報の美的受容における理論について、総合的に研究を行っています。視覚と聴覚、視覚と触覚など、認知の上での他の感覚器官との関係や、聴覚に関する認知の研究にも関心があります。		

主な学位論文テーマ

● は博士学位論文

- ・ 神戸市の震災復興過程における都市環境の変容に関する研究
- ・ バリ島の民族芸能「ジェゴク」に関する研究
- ・ 音楽と視覚芸術の交感ーエリック・サティとダダイズムー
- ・ 中国の画報『良友』(1926-1945年)のタバコ化粧品の広告に見られる女たち
- ・ 日本のオーケストラにおける価値の戦略的再創造ー日米芸術環境比較とオーケストラのマーケティングに関してー
- ・ ボールルームダンスの魅力に関する研究ー踊り手の属性との関連を軸にしてー ●



人間環境学専攻

人間発達を支える新たな環境の創造と持続を目指して

専攻の理念

人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように構築し、維持すればよいのか。人間環境学専攻は、この問題の解明に向けた教育と研究に取り組んでいます。博士前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、人間環境のいっそうの改善のために活躍できる多様な人材の育成です。博士後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。



人間環境の 探求と発達を促進する 環境の開発

専攻長からのメッセージ

専攻長 平山 洋介 教授

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、人間環境としての自然を対象とし、その成り立ちを解明しようとする「自然環境論」、数理科学を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境論」、日常生活の状況から環境のあり方を追求する「生活環境論」、社会環境に関する諸矛盾の克服を目指す「社会環境論」という四つの履修コース(前期課程)・教育研究分野(後期課程)を設けています。これに加え、後期課程には、環境先端科学講座があります。前期課程では、専門的な知識に加え、実践的な行動力をもち、政府、自治体、民間企業、NPOなどの多様な領域で活躍できる人材を養成し、後期課程では、高度な専門学識と創造性を備える研究者、大学教員などを養成します。

コースと教育研究分野

自然科学の広い視野を備えて環境の本質をとらえ、課題解決に挑む

自然環境論 コース
(教育研究分野：自然環境論)

▶ P 94



情報環境に本気で取り組む人のための、数理に根ざした高度の専門性

数理情報環境論 コース
(教育研究分野：数理情報環境論)

▶ P 96



生活環境の課題を発見し、分析し、解決する能力を持つ人材を養う

生活環境論 コース
(教育研究分野：生活環境論)

▶ P 98



人間の発達と社会の発展を総合的に捉える新たな学問を創る

社会環境論 コース
(教育研究分野：社会環境論)

▶ P100



環境科学の先端を拓く研究機関との連携による教育・研究

環境先端科学(連携)講座

▶ P102



主な進路

2011年度

- 旭硝子
- 山陽電気鉄道
- ナガセ医薬品
- パナソニック
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
- ベニックスソリューション
- 大阪狭山市職員
- 独立行政法人理化学研究所
- 香川誠陵中学校・高等学校
- 兵庫県教員(高校)
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科(3名)
- コベルコシステム
- 住化分析センター
- 日本電気

2012年度

- アサヒホールディングス
- アクセンチュア
- 石原薬品
- 日本工営
- 三菱電機インフォメーションシステムズ
- MonotaRo
- 岡村製作所
- 生活品質科学研究所
- 日本アイ・ビー・エム
- 日本郵便
- 読売テレビ放送
- アシックス
- 栗田工業
- 富士通
- サラヤ

・NTTコミュニケーションズ

- ・イオンリテール
- ・まちづくり研究所
- ・三井倉庫
- ・静岡県職員
- ・福井県職員
- ・大阪府教員(高校)
- ・大阪府教員(中学)
- ・兵庫県教員(中学)
- ・兵庫県教員(高校)
- ・神戸大学大学院人間発達環境学研究科(1名)
- ・神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究生

主な取得可能な資格免許

- ・中学校教諭専修免許状(理科, 数学, 家庭, 社会)
- ・高等学校教諭専修免許状(理科, 数学, 家庭, 公民)

自然環境論 コース

(後期課程：自然環境論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- ☐物質系
- ☐生命系
- ☐高い専門性と総合力
- ☐自然環境の多角的理解
- ☐異分野との相互刺激
- ☐地球表層から宇宙まで

自然科学の広い視野を備えて 環境の本質をとらえ、課題解決に挑む

20世紀の科学は専門化、細分化を推進することによって精緻を極め、大きな発展を遂げてきました。しかしその結果として現代社会が直面したのは、気候変動、生物多様性保全、資源・エネルギー問題など、環境問題を始めとして私たちの生存に関わる複合的な科学的諸課題でした。こうした複雑な課題の解決に取り組み、持続可能な社会の構築へと向かうために、今や旧来の学問の諸分野・領域を超えた総合的な知の在り方や、異なる背景や専門性を持つ人々の連携をコーディネートできるような能力・人材が切実に必要となっています。このような背景を踏まえて、博士課程前期課程の自然環境論コースおよび後期課程の自然環境論分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質系、生命系、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広く、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、生物多様性を含む自然環境保全などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。カリキュラムには、専門諸領域の多彩な授業科目に加えて、環境科学の大学院レベルの幅広い基礎力を修得する環境基礎物質科学、環境基礎生命科学等の科目群、先端のトピックスを取り上げる自然環境先端科学の科目群の他、サイエンスコミュニケーション演習、インターンシップなどの特徴ある科目が用意されています。これらを基盤として、特別研究や論文作成を通じて研究能力を養います。多様な領域の教員や大学院生の仲間との対話と相互作用の中で、高い専門性と総合力を培い、自然環境の諸課題に挑む意欲ある皆さんを歓迎します。



大学院生からのメッセージ

藻で地球を救えるか？ 最先端の研究のスピードを感じて

吉沼 春香 さん(前期課程2年生)

人間活動とエネルギーの大量消費・化石燃料の枯渇—これらは切り離すことのできない重要な環境問題です。私はこの問題解決の可能性を秘めた「榎本藻」という藻類の研究をしています。この藻は光合成で吸収したCO₂を用い、細胞内で重油を生産するのです。

代替エネルギーとして有用な藻でありながら、その遺伝情報は未知の部分が多く、他の藻類よりも成長速度が遅いため生存競争に勝てないといった問題もあります。この課題を解決するべく、遺伝子解析で得られた情報をもとに“自然に優しい遺伝子組み換えシステム”の確立を目指しています。

人間の存在抜きでは語ることのできない環境問題と、そのアプローチとしての藻ディーゼル。理学部でも農学部でもなく、この人間発達環境学研究科だからこそ出会えたテーマだと感じています。私たちの手で次世代エネルギーのブレイクスルーを起こせるか、研究のスピード感を日々感じながら課題に取り組んでいます。

スタッフと研究分野・研究テーマ

❶ 前期課程・後期課程担当 (無印は前期課程のみ)

青木 茂樹 教授 ❶ 素粒子・宇宙線物理学 ニュートリノ振動実験や宇宙ガンマ線の観測などの研究をしています。	伊藤 真之 教授 ❶ 宇宙物理学, 科学教育 人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測的研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	丑丸 敦史 教授 ❶ 植物生態学 送粉者による花形質の進化の解明を目指し、及び送粉ネットワーク構造や水田生態系における希少種(半自然草地の草本, カエル類)の分布特性の解析も行っています。	榎本 平 教授 ❶ 分子生物学 高増殖性・高重油生産性を有する重油生産藻類Botryococcusbrauniiの開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。	江原 靖人 准教授 ❶ 生物有機化学 遺伝子を構成している核酸塩基を改変した人工核酸を合成し、試験管内高速進化法と組み合わせることにより、がん細胞、ウイルスを標的にした新しい核酸医薬を創製しています。
蛸名 邦禎 教授 ❶ 環境物理学, 理論生命科学 地球システムと生命システムの時間発展ダイナミクスのモデル化と、それに基づく地球環境理解に取り組んでいます。	大串 健一 准教授 ❶ 地球環境 地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。	齊藤 恵逸 教授 ❶ 分析化学 化学発光・蛍光を利用した物質の分析法、有機試薬を用いたイオン選択性電極の開発、ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	佐藤 春実 准教授 ❶ 高分子化学・環境調和型高分子学 環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究を行っています。	高見 泰興 准教授 ❶ 進化生態学 生物多様性と進化に関わる性淘汰と種分化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。
寺門 靖高 教授 ❶ 環境地球化学 河川水、生物が作る鉱物、地殻を構成する岩石・鉱物などの様々な地球表層物質についての元素濃度や同位体組成を用いた地球環境の地球化学的研究を行っています。	中川 和道 教授 ❶ 放射光物性物理学, 環境物理学 大気環境科学(太陽を光源とした温暖化ガスの検出など)やシンクロトロン放射を用いた生体分子の分光研究(アミノ酸やDNA分子など)について研究しています。	源 利文 特命助教 水域生態学・環境生理学 主に河川や湖泊を対象として、広い意味での生態学・環境生理学に取り組んでいます。環境DNAなど、新しい技術の開発も行っています。		

主な授業科目

❶ 後期課程開講科目

- ☐環境植生学特論Ⅰ
- ☐植物多様性特論Ⅰ
- ☐高次生命機能特論Ⅰ
- ☐環境創成科学特論Ⅰ
- ☐環境地球化学特論Ⅰ
- ☐環境地質学特論Ⅰ
- ☐宇宙環境物理学特論Ⅰ
- ☐粒子物理学特論Ⅰ
- ☐紫外線・放射線作用特論Ⅰ
- ☐自然階層構造特論
- ☐分析化学特論Ⅰ
- ☐環境有機化学特論Ⅰ
- ☐超分子化学特論
- ☐環境植生学特論Ⅱ
- ☐植物多様性特論Ⅱ
- ☐環境地球化学特論Ⅱ
- ☐環境地質学特論Ⅱ
- ☐水環境科学特論
- ☐環境有機化学特論Ⅱ
- ☐環境遺伝子工学特論
- ☐分析化学特論Ⅱ
- ☐高次生命機能特論Ⅱ
- ☐生体超分子化学特論
- ☐環境創成科学特論Ⅱ
- ☐理論環境物理学特論
- ☐紫外線・放射線作用特論Ⅱ
- ☐粒子物理学特論Ⅱ
- ☐宇宙環境物理学特論Ⅱ

主な学位論文テーマ

❶ 博士学位論文

- ・Rb-Sr法による六甲山地域花崗岩類の詳細な年代測定
- ・「すざく」衛星XISデータを用いた太陽X線アルベドの研究 Ⅲ
- ・エマルジョン望遠鏡による宇宙ガンマ線観測計画:姿勢モニターの開発およびエマルジョンの直線偏光ガンマ線の検出能評価
- ・ルテニウム錯体化学発光法を用いたシステム及び類縁物質定量法の開発
- ・都市化が移動習性の異なる水田性のカエル2種の遺伝構造に与える影響
- ・コンピューターシミュレーションによるポリグルタミンペプチドの特性解析
- ・六方晶窒化ホウ素薄膜における原子状水素の選択的吸着

研究最前線

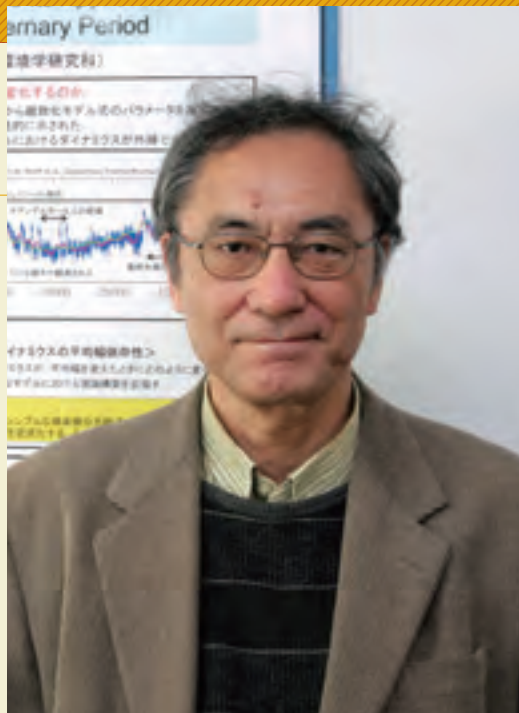
蛸名 邦禎 教授(環境物理学,理論生命科学)

物質界・生命界・人間界の 動態原理を究め環境基礎理論の構築へ

環境の基礎理論構築を目指しています。環境学には、現に起こっている問題だけでなく、将来起こることに備えるという面があります。したがって、何が予測可能で何がそうでないか、また物事の時間発展はどのように決まるかなどを諸科学の知見に基づいて批判的に分析し、その確実性(または不確実性)を定量的に評価することが必要です。そこで、マクロには気候や生態系を含む地球システムから、ミクロには細胞内ダイナミクスまでを扱う理論的研究を行っています。特に、第四紀の急激な気候変化の特徴を確率過程モデルに基づいて理解することや、光合成反応を量子力学、化学反応理論、統計解析などによって理解することに取り組んでいます。

このような研究を進めるには、種々の分野の人々との交流が欠かせません。人間発達環境学研究科はそのための環境として最適です。研究室の学生には、物理学や数学の基本をしっかり身につけるとともに、物質界・生命界・人間界に幅広い興味と関心をもち、必要に応じて生命科学・人間科学・社会科学の諸分野にも怯まずに取り組む覚悟を期待しています。また、システム情報学研究科の田中成典研究室(計算生物学)との毎週の合同ミーティングで、生命科学、物質科学、計算科学の先端研究に関する討論を行っています。

今後取り組んでいきたい課題として、第四紀の急激な気候変化が人類の進化、特に人間の脳の進化にどのような影響を与えたか、という問題があります。200万年前以降の急激な気候変化の時期に人類の祖先の脳の容積も飛躍的に増加したことが知られています。これは、人間の将来予測能力やコミュニケーション能力の発達とも関係がありそうです。気候変化の理解とともに、進化のプロセスや認知の仕組みに関する理解も必要となります。この「人間はどこからきてどこに向かうか」という基本的な問いに関係した挑戦的なテーマに、一緒に取り組んでみませんか。



数理情報環境論 コース

(後期課程:数理情報環境論教育研究分野)

Course Keyword (コースキーワード)

- 高度化する情報環境 □知的環境の数理的分析
- 数理学の高い専門性 □精度の高い問題定式化
- 創造的な情報処理 □信頼性の高い問題解決法

情報環境に本気で取り組む人のための、 数理に根ざした高度の専門性

いまや私たちの生活はデジタル情報なしには何も動かないと言っていいでしょう(あなたが持っているこのパンフレットも、印刷の直前までデジタル情報だったはずです)。多様化・高度化する情報環境への対応は、現代社会のあらゆる分野で必要性を増しています。そして情報化を推進する中で遭遇する問題に対処できる人材が必要とされています。しかしながら、情報環境のような知的環境では、場当たりの対応はむしろ問題をこじらせることになってしまいます。さまざまなソフトウェアやIT機器を効果的に利用しながら、対象を適切に定式化して問題の解明にあたることが問題の解決に向けての重要な柱であり、さらに数理的手法の利用により、問題の定式化の精度及び解決策の信頼性を高めることが求められます。

本コースでは、このような視点に基づき、数理学に対する高い専門性を身に付け、情報環境の多様化・高度化に対応して情報環境における諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。上記の目的を意識して、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理学の諸分野を重視した授業科目が設定されています。学生は、これらの授業科目の履修を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。授業科目の履修と同時に、指導教員との綿密な連携の下で具体的な研究プロジェクトを企画・実施することが要求されます。このプロジェクトを遂行する中で、理論を実際の問題の解決のために活用することを体験し、理論に関する知識を生きた素養へと発展させます。日々進化する情報環境に本気で取り組もうという学生を待っています。



大学院生からのメッセージ



いましかできないこと

大月 翔太 さん(前期課程2年生)

私は高校の数学の教員になるために大学院に進学しました。実際、学部を卒業して教職に就くこともできたのですが、数学の専門性を高め、そして数学を続けた先にどのような世界が待っているのかを体感することも将来教壇に立つ際に必要なのはと感じ、進学を決めました。時間をかけて数学を学ぶことができるのは“今しかできない”ということも進学を決断したきっかけでした。私の専門は位相幾何学で、とくに整数平面において近さや繋がり方を表現する“Digital topology”と呼ばれる概念について研究しています。実数平面で成り立つ図形の性質を整数平面でどのように再現できるのか、また結果をどのように応用できるのか、を考えています。

数学の文献はすべて英語ですし、学会で専門の先生方の発表を聞く機会など学部ではなかったものを体感しています。そして“発達”ならではの様々な分野の人との関わりによって自分自身も成長し、社会に出ていきたいと考えています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

② 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

稲葉 太一 准教授	桑村 雅隆 教授 ^②	阪本 雄二 准教授 ^②	高橋 譲嗣 教授 ^②	高橋 真 教授 ^②
数理統計学, 応用統計学, データ解析	応用解析学	数理統計学	数理論理学	情報論理学
統計手法は、その適用分野によって異なる側面があります。例えば医学統計の分野では、多重比較法という手法があり、その適用範囲を広げる事を研究しています。	物理学, 化学, 生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。	ポアソン過程や拡散過程などの確率過程に関して、その漸近分布論と統計的漸近理論、およびその数理ファイナンス・保険数理への応用の研究を行っています。	数理的方法全般の数理論理学的手法を用いた理論的考察、及び論証による証明を効率よく理解し、且つ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化に取り組んでいます。	無限ブール代数のゲーム論的性質およびモデル検査ツールを用いたシステムの信頼性検証について研究をしています。
長坂 耕作 准教授 ^②	宮田 任寿 教授 ^②	 		
計算機代数	幾何学的トポロジー			
数式処理の理論研究(主に数値・数式融合計算)とその効率的な実装方法や情報システム(主に数式処理システム)を活用した他分野への展開について研究しています。	Shape理論(局所的に複雑な図形や空間への幾何学的なアプローチの方法)とそのフラクタル幾何学への応用、様々な次元について研究しています。			

主な授業科目

② 後期課程開講科目

- 統計解析特論
- 統計推測特論
- 情報数理方法特論Ⅰ
- 情報論理学特論Ⅰ
- 非線形数理特論Ⅰ
- 数式処理特論Ⅰ
- 応用幾何学特論Ⅰ
- 応用統計解析特論^②
- 非線形数理特論Ⅱ^②
- 情報論理学特論Ⅱ^②
- 情報数理方法特論Ⅱ^②
- 応用幾何学特論Ⅱ^②
- 数式処理特論Ⅱ^②

主な学位論文テーマ

② は博士学位論文

- ・捕食者の休眠を伴うratio-dependentな被食者-捕食者系について
- ・多重比較におけるホルム法およびペリの方法に関する考察
- ・フラクタルと位相次元について
- ・状態空間モデルに対するフィルタリングとその応用
- ・Radon-Nikodymの定理について
- ・共分散構造分析における推定問題とその応用
- ・定常時系列に関する逐次的アルゴリズム
- ・時相論理モデル検査と状態遷移表モデル検査ツールの実装について

研究最前線

稲葉 太一 准教授(数理統計学, 応用統計学, データ解析)

さあ今こそ統計解析を用いて、 問題解決の専門家を目指そう!

昨今の高度情報化社会では、どうしても問題が複雑化します。そこで必要なのは問題解決の方法論と共に、情報をまとめる力です。統計解析は、情報を数値化して分析する効率的な方法論を提供してくれます。もちろん統計解析の手法を取らずに膨大なデータを逐一調べることも重要でしょう。しかし統計解析では、検出力という考え方で、いかに少ないデータ数でより多くの結論を合理的に導くかを考えて行きます。

私の最近の興味は、医学統計の分野でよく用いられる「多重比較法」にあります。多重比較法とは、臨床試験の用量設定の段階で必然的に用いられる手法であり、これが無くてはこの世に「新薬」が産まれないうほど重要な役割を果たしています。ここで検出力が高いとは、より少ないデータ数で他の手法と同じ意義のある結論を導くことを意味します。つまり臨床試験に関わる人数が最小で済むのです。臨床試験は我々が「新薬」を得るためには避けられない道ですが、このリスクに関わる人を最小限に留めることが、研究の目的となります。

このように大変意義深い「多重比較法」において、通常の検定で行われる「第1種の誤り」の確率に似た、「Type I FWE」という考え方があります。一般的に、多重比較法として認知されるためには、このType I FWEがコントロールされていることが必要です。この「正しい仮説のうちで、1つ以上を棄却する確率」を抑えるためには、閉検定手順という方法が提案されています。しかし、検定される対象が複雑に絡んでいるという背景があり、現実には提案されている手法は、必ずしも検出力を最大にするように設計されてはいません。

現在、多群の比較では決定版と言われている「ベリの方法」を研究しています。統計解析は純粋に理論的な研究ですが、改良版が実現すると、リスクが少ない「新薬開発」が可能となり、社会の効率化に貢献することができます。皆さん、一緒に研究しませんか?



生活環境論 コース

(後期課程：生活環境論教育研究分野)

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- 生活の質 (QOL)
- 安全・安心
- 持続可能
- 生活空間
- 生活技術
- 生活資源

生活環境の課題を発見し、分析し、解決する能力を持つ人材を養う

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境論コースでは、私たちの生活環境を形成する生活空間・生活技術・生活資源の3領域について、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決を図ろうとしています。「生活空間」領域では、住居、福祉施設、緑地、都市などの空間の実態を調べ、人間の発達や環境問題の観点から、望ましい生活空間をどのように創造すべきかを追求します。「生活技術」領域では、ハイテク繊維などの機能性製品、生体特性を計測する機器、新しいセンシング技術などが人々の発達をどのように支え、暮らしの環境にどのような変化をもたらしたのか、その実態を把握し、技術利用の方向性を考えます。「生活資源領域」では、持続可能な社会の構築に向けて、植物・食・エネルギー等の生活環境を支える資源の持続的な利用を追求するため、バイオテクノロジー、経済システム、環境・エネルギー、ライフスタイル、安全・安心の観点から分析、評価します。かくも多面的・総合的な私たちの生活環境を探究するため、本コースでは社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して問題を分析します。ここで学ぶことにより、皆さんは生活環境の形成に関する課題を発見、分析し、解決する能力を持つこととなります。研究者はもちろん、暮らしに関する政策の立案・運営を担う中央ならびに地方行政セクターのスタッフとして、また生活創造活動につなげる企画・実践力を備える企業活動セクターのキーパーソン、そして地域の生活と環境の課題に取り組むNPO・NGOの担い手などとして、様々な分野での活躍を目指す人々をお待ちしています。



大学院生からのメッセージ



地域の再生可能エネルギーを推計し 持続可能な社会をプロデュース

坂口 卓司 さん(前期課程2年生)

私が所属する都市環境システム研究室では、環境の側面から持続可能な社会の構築を目指して、再生可能エネルギー、ごみ、ライフスタイルに着目した研究を行っています。私の研究は、淡路島で再生可能エネルギーを導入することで、二酸化炭素・コストが現在と比較してどれだけ変化するかを評価しています。評価手法には、物質フロー分析・LCAなどの考え方をを用いて、数値として結果を示します。

しかし、数値化で終わったのでは、意味がありません。研究背景や社会事情を調査し、一般社会でも適用できる結論が求められます。このような研究プロセスこそが発達科学を象徴する「文理融合」だと自負しています。

私は学部での卒業研究をより深くやろうと思い、大学院に進学しました。大学院では、国内外での研究発表等、貴重な経験ができます。私も国内学会で二度研究発表することができました。少しでも研究がおもしろいと感じたなら進学することをおすすめします。

スタッフと研究分野・研究テーマ

❶ 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)

市橋 秀樹 教授 ^❶	井上 真理 教授 ^❶	近江戸 伸子 教授 ^❶	佐藤 真行 准教授 ^❶	城 仁士 教授 ^❶
植物環境学	衣環境学, 感性工学	環境バイオテクノロジー	ライフスタイル論・環境経済学	生活環境心理学
植物が生活環境において果たしている多様な働きを定量的評価と、それに基づく植物を利用した快適な生活環境作りについて研究しています。	布の風合い(触感)・衣服圧・衣服内気候を、材料特性から実験的、理論的に解析し、着心地の良さをもたらす製品を設計、提案する研究を行っています。	イネ科、マメ科、アブラナ科植物、バイオエネルギー植物を対象にした植物環境学ならびに植物の新機能の開発、器官分化についての細胞・ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。	環境・資源制約のもとでの経済システムと、そのときの人々のライフスタイルの分析を中心に、生活の質と社会・環境・経済の持続的発展について研究しています。	身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的実践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。
白杉 直子 教授 ^❶	田畑 智博 講師	平山 洋介 教授 ^❶	福田 博也 准教授 ^❶	矢野 澄雄 教授 ^❶
食環境学	環境システム工学	生活空間計画	生体電子計測, ヒューマンエレクトロニクス	振動工学, バイオメカニクス
茶園をフィールドとした農地の多施肥による地下水の窒素汚染低減化、および有機酸の塩味増強・抑制効果(ハエ味細胞を用いた電気生理学実験による評価)の研究を行っています。	地域、個人等、様々なレベルにおける社会・経済活動とそれが及ぼす環境影響を体系的に解析し、持続可能な社会を構築するための手法論を開発するとともに、実学への展開方法を提案する研究を行っています。	住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。	温度・湿度・光強度といった環境要因をコントロールした生活空間において、いろいろな環境刺激に対する人や植物の生体電位応答について研究しています。	日常生活動作の力学的な分析や身体機能・特性の計測を行い、福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発および経験やノウハウを形にする研究を行っています。



主な授業科目

❶ 後期課程開講科目

- 生活空間計画特論Ⅰ
- 機械機能応用特論Ⅰ
- 生活環境心理特論Ⅰ
- 植物環境学特論Ⅰ
- 食環境学特論Ⅰ
- 衣環境特論Ⅰ
- 環境バイオテクノロジー特論Ⅰ
- 電子応用機能特論Ⅰ
- 生活環境共生特論Ⅰ
- ライフスタイル特論Ⅰ
- 生活環境デザイン特論Ⅰ
- 生活空間計画特論Ⅱ^❶
- 機械機能応用特論Ⅱ^❶
- 生活環境心理特論Ⅱ^❶
- 植物環境学特論Ⅱ^❶
- 食環境学特論Ⅱ^❶
- 衣環境特論Ⅱ^❶
- 環境バイオテクノロジー特論Ⅱ^❶
- 電子応用機能特論Ⅱ^❶
- ライフスタイル特論Ⅱ

主な学位論文テーマ

❶ 博士學位論文

- ・住居材料の触覚・視覚評価
- ・世界遺産と地域空間計画
- ・生活環境におけるエコロジカルマインド評価尺度の開発とその評価
- ・バイオ燃料植物ジャトロファの早期開花遺伝子組換え創出に関する研究
- ・犬の都市空間 一ペット飼育をめぐる分離と共存一
- ・公営住宅ストック削減計画の研究
- ・歩行分析のための鉛直床反力と3軸加速度の無線計測システムの構築
- ・下肢筋における等尺性筋収縮時の筋出力変動が立位姿勢の安定性に及ぼす影響^❶

研究最前線 近江戸 伸子 教授(環境バイオテクノロジー)

植物バイオを利用して、次世代の生活環境を改善する

日本では低炭素化社会の実現に向けて、グリーンイノベーションの拡大が必要とされています。そして、化石燃料の有限性についての懸念から、化石燃料に代わる再生可能でクリーンなエネルギー資源の開発が求められています。私は、人間を取り巻く環境を理解し、植物資源やバイオテクノロジーを効率的に生活に利用して、次世代の生活環境を豊かにするため、バイオマスエネルギーに寄与する植物の開発と利用に取り組んでいます。それらの基盤として、次の2つの研究を行っています。

第1は、油糧植物ジャトロファの研究です。ジャトロファは、種子に多量の油分を含む一方、毒性をもつため食料とはされません。さらに、他の作物が育たない荒地でも育つため、食料問題を引き起こさない新しいバイオマス燃料植物として期待されています。また、改良にあたり、ゲノム解析が大きな課題となっていました。私の研究は、1. ゲノム解析プロジェクトにて、ジャトロファの遺伝子・ゲノムの解析、2. 最適培養条件・遺伝子組換え法の確立、3. 開花を調節する因子の解析の3つのアプローチから、ジャトロファの油糧植物としての開発に貢献したいと考えています。

第2は、地産地消型の燃料植物生産を目標に、日本に大量に自生しているクズの栽培ならびに、その遺伝特性に注目しています。クズはマメ科つる性の多年草で、根のデンプンを利用した二次代謝産物が豊富です。クズ湯やクズ餅など、日本人にとって、馴染みの深い植物であり、日本の気候風土に適しているため、地産地消型の植物バイオ資源としての道が期待されます。旺盛な繁殖力は、大規模栽培に適し、新規バイオリファイナリとしての利用の可能性があります。クズのもつ様々な環境ストレス耐性は、次世代型の再生可能な新規の植物として、利用の拡大につながると考えています。私の研究では、このようなクズの染色体・遺伝子レベルの基礎研究を行っています。



社会環境論 コース

(後期課程：社会環境論教育研究分野)

▶ Course Keyword (コースキーワード)

- グローバル化
- 新自由主義
- 地域社会
- 第三世界
- 文化変容
- 公共性

人間の発達と社会の発展を 総合的に捉える新たな学問を創る

私たちの社会は多くの矛盾や問題を抱えたまま、ついにここまで来てしまった——いま、私たちは多くの場面でそう痛感してはいないでしょうか。例えば、福島第一原発事故は、電力多消費型の産業構造や都市生活の脆さと、原発さえ「誘致」せざるを得ない地域社会の苦境とをあらわにしました。世界的な経済危機はグローバル資本主義の矛盾を、政治の混迷は現代社会における公正と連帯の空洞化を露呈させています。真っ当に働いて暮らすという希望さえ叶い難く、第三世界の最も貧しい人々が先進諸国の利害に振り回される。まるで私たち人間は自らの社会を制御できないまま、破局へと突き進んでいるかのようです。

しかしその一方で、矛盾に満ちたこの社会を創りかえ、真に「発展develop」させるのも、究極的には一人一人の人間の「発達development」と社会的協働、そしてそれに基づく「類」的発展に他なりません。だとすれば、人類がその生存をかけて、危機に至った自らを問い直し、自己変革=社会変革を進めることこそ、いま最も切迫した課題ではないでしょうか。しかもそのためには、既存の学問領域(政治学、経済学、法学、歴史学、地理学、社会学…)の成果を吸収しつつその殻を破り、人間と社会を統合的に把握しなければなりません。このように、人間発達と社会発展の相互連関を解明すべく総合的な社会把握を追求する新しい学問、それが【社会環境論】です。

もちろん新しい学問の創造というチャレンジは容易ではありません。【社会環境論】はまだ羽ばたこうとする途上にあります。そしてこの新しい学問が大きく羽ばたけるかどうかは、真剣に学ぶ熱意を持った皆さんの参加と協働にかかっているのです。

ぜひこのチャレンジに参加して下さい。私たちスタッフは皆さんとの協働を願ってやみません。



大学院生からのメッセージ



学際的で刺激的な研究環境

クレータ・トアカイ さん(前期課程2年生)

私は南太平洋のキリバス共和国という小さな国からこの神戸大学に学びに来ています。専門は政治学で「キリバスの環境問題と政治過程」が研究テーマです。これまで受講した講義では非常に刺激的なディスカッションが交わされ多面的な見方や価値観を学ぶことができました。それを通じて私自身の研究課題を深めるだけでなく、社会を構造的に分析する視点も養えました。学際的な講義内容はすべて私の研究の糧となっています。自分の興味ある分野だけでなく、様々な社会問題や理論を学んだことは研究を進める上で大いに役立っています。また将来帰国した後のキャリアにも生きてくるものだと感じています。複数の先生方からの研究上のアドバイスは自分の研究課題を深める大きな助けとなっています。留学生にとっては多くの日本人と知り合え、日本についてたくさん学ぶことができるのはとてもうれしいことでもあります。みなさんとキャンパスで会えることを楽しみにしています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

③ 前期課程・後期課程担当(無印は前期課程のみ)
* 2013年10月1日着任予定

浅野 慎一 教授 ③	井口 克郎 講師 *	岩佐 卓也 准教授 ③	太田 和宏 准教授 ③	岡田 章宏 教授 ③
社会文化環境論, 社会学	経済学, 社会保障	社会政策	途上国政治経済	社会規範論, イギリス統治構造論
国境を越えて移動する人々を主な対象として、歴史に翻弄されながらも、自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	人間の生活と発達を支える雇用・労働や医療・福祉制度のあり方を研究しています。特に災害被災者の生活保障に取り組んでいます。	新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで、雇用のルールはどのように変容してきているのか、賃金問題などを焦点に研究しています。	グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。	近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検証しながら、この国の特質である住民自治をとおりて公共性の内実と実現形態を検討しています。
澤 宗則 准教授 ③	橋本 直人 准教授	山崎 健 教授 ③		
人文地理学, 地域社会論	社会思想, 社会学史	都市地理学		
グローバル化にともなう地域社会の変容、特に開発途上国インドの農村の変化、先進国の移民社会の形成について、人文地理学の視点から理論的かつ実証的に研究を行います。	近代の内在的批判を主題として、M. ウェバーの社会理論の形成過程、またフランクフルト学派とポスト・コロニアル思想との連関を研究しています。	日本および中国の大都市・大都市圏の地域空間構造の形成と変容について、地理学的手法を用い、理論的・実証的両側面から考察研究を行っています。		



主な授業科目

③ 後期課程開講科目

- 都市地域構造特論Ⅰ
- 農村地域構造特論Ⅰ
- 国際社会構造特論Ⅰ
- 社会変動特論Ⅰ
- 労働社会史特論Ⅰ
- 憲法秩序特論Ⅰ
- 比較社会規範特論Ⅰ
- 社会環境思想史特論
- 都市地域構造特論Ⅱ ③
- 農村地域構造特論Ⅱ ③
- 国際社会構造特論Ⅱ ③
- 社会変動特論Ⅱ ③
- 労働社会史特論Ⅱ
- 憲法秩序特論Ⅱ ③
- 比較社会規範特論Ⅱ ③

主な学位論文テーマ

③ は博士学位論文

- ・長谷部恭男「穏和な平和主義」の批判的検討
- ・都市圏多核化による都市内部構造の変化—兵庫県西宮市の事例を中心に—
- ・ハンナ・アレント『人間の条件』再考
- ・異文化間介護にみる人間発達—在日韓国・朝鮮人の高齢者介護を事例に—
- ・現代日本における外国人の子どもの教育を受ける機会の保障に関する研究
- ・中国高齢者の生活と福祉に関する研究—西安市での調査を事例に—
- ・中国二元社会における農村社会保障—農村養老保険制度
- ・中国における都市社会空間構造の変容—単位空間を中心に— ③

研究最前線

岩佐 卓也 准教授(社会政策)

ドイツの労使関係、 労働協約はどう変わってゆくのか

この間私はドイツの労使関係に関する調査、分析を行っています。企業の組合と企業別労使交渉が支配的な日本では、それが労働組合の規制力を弱めているとの批判的視点から、ヨーロッパ諸国の企業横断的な労使関係と労働協約との対照関係が強く意識されてきました。企業横断的なヨーロッパの労使交渉と労働協約こそ、個々の企業のおかれている状況にかかわらず平等に、かつ安定的に労働条件を規律することができる優れたシステムとして理解されてきました。しかし今日、このように理解されてきたところの横断的労働協約のモデルは現実を正確に反映するものではなくなっています。これまでであれば個別企業にとっては変更不可能な与件であった労働協約上の労働条件は、徐々にそうしたルールとしての「硬さ」を失い、一定の条件のもと個別企業ごとの事情に応じた労働条件の引き下げを許容するような、融通可能なより「柔軟い」ものへと変わっています。こうした変化が著しく現れているのがドイツです。ドイツでは企業の「競争力強化」のために横断的労働協約の適用を除外するということが広く行われています。それは、ドイツの労働組合にとっての試練であるとともに、横断的な規制を成り立たせている前提は何であるのかという問いを改めて突きつけているように思われます。多くの事実を調べてゆくと、今日の労使関係の変化は、じつはさまざまな可能性の中から選択されてきた「政治的」な変化であること、したがってそれは別の方向に変わりうるものであることを感じます。しかし同時に、この現実の変化の力の強さ、つまり別の方向に変えることがいかに難しいかということも感じます。楽観でも悲観でもない、具体的なリアリティのある分析を深めていきたいと思います。



環境先端科学 (連携) 講座

(後期課程のみ)

▶ Course Keyword【コースキーワード】

☐大気環境科学

☐オゾン・エアロゾル

☐健康工学

☐バイオセンサ

☐温室効果ガス

☐生体ストレス

環境科学の先端を拓く研究機関との連携による教育・研究

人間環境学専攻には、博士課程後期課程の連携講座として「環境先端科学講座」が設置されています。この講座は、体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成することを目的とします。現在、大気環境科学、健康工学の2分野について、国立環境研究所、産業技術総合研究所との連携のもとで環境科学の基礎から実践にわたる教育と研究を行っています。具体的研究テーマとしては、大気中のオ

ゾンおよびエアロゾルの生成・消滅に係わる化学過程の研究、温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明、生体および環境分析への応用につながるマイクロ分析システムの研究開発、ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究などがあります。

スタッフと研究分野・研究テーマ

● 後期課程のみ担当

今村 隆史 教授 ●	永井 秀典 准教授 ●	向井 人史 教授 ●	脇田 慎一 教授 ●
大気化学, 化学反応論, 光化学	マイクロ流体工学	環境化学	環境分析化学, ナノバイオ計測工学
大気中でのオゾンや微小粒子の生成・消滅反応、オゾン層破壊機構、および大気中での化学物質分布やその変化と気候変動の関係について研究しています。	単一細胞から遺伝子を高速に増幅する技術や、イムノアッセイ及び電気泳動等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムに関する研究を行っています。	温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明、人間活動による環境中の汚染物質等の物質循環や濃度変化の検出、越境大気汚染に関する科学的知見の集積に関する研究を行っています。	ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究を行っています。

主な授業科目

● 後期課程開講科目

- ☐大気環境科学特論 ●
- ☐大気化学特論 ●
- ☐環境ストレス科学特論 ●
- ☐生体環境先端計測特論 ●



附属組織と附属施設

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

大学と地域社会の架け橋となり、人間の発達を支援するコミュニティ創りを目指します

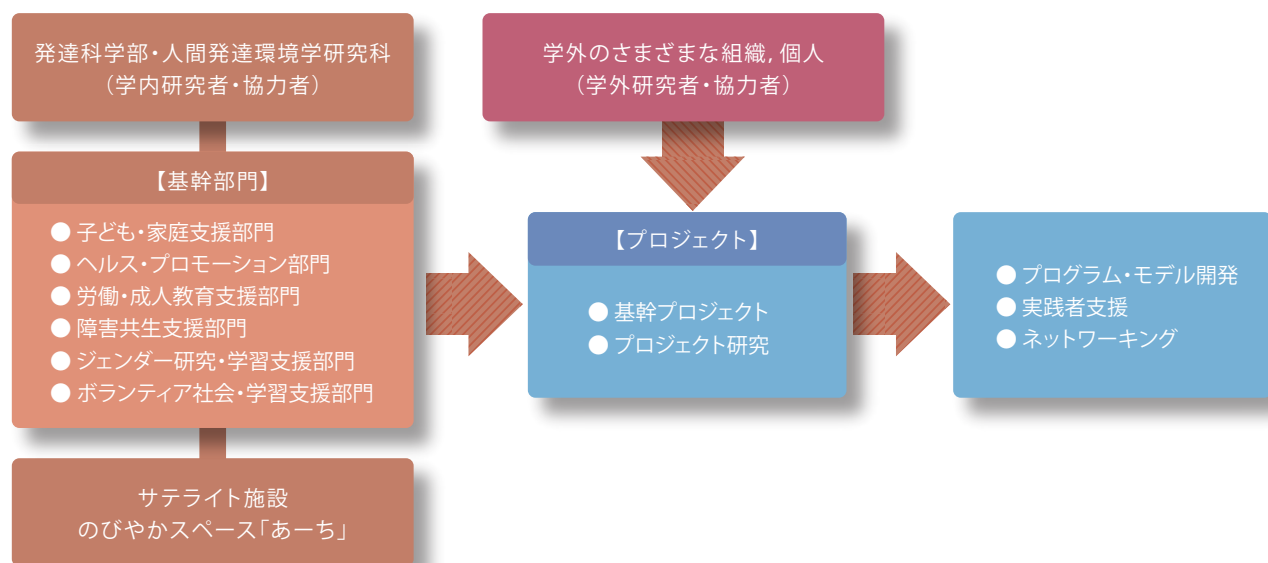
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター(以下、HCセンター)とは、人間発達環境学研究科内の発達支援インスティテュートに所属する機関で、実践的な研究を推進するためのセンターです。人間発達環境学研究科・発達科学部で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。人間の発達とそれを支える活動を行っている地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。HCセンターには6つの研究部門があり、6名の専任教員を中心に運営しています。6つの部門ではさまざまなプロジェクト研究が展開されています。各プロジェクトは、リーダーである専任教員と学内研究員および学外の研究員・協力員が担っています。



アクション・リサーチ ～地域や社会への参画を通して研究する

HCセンターの英語名は、「Action Research Center for Human and Community Development」です。アクション・リサーチとは、地域や社会の実践への参画を通じての研究＝「行動を通しての研究」と言える手法です。HCセンターは、このアクション・リサーチの手法により、研究者と実践者のネットワークづくりも進めています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの組織と役割



基幹部門

子ども・家庭支援部門

「子育てコミュニティ」の形成を目指します

家庭および家族的機能を有する諸施設の養育活動を支援することを通して、周産期から青年までの子どもとその家族・養育者の発達を促進するための実践的研究を行います。また、「子育てコミュニティ」の形成を目指します。

- 地域リソースとの連携
子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指すのびやかスペース「あーち」は学外にあるサテライト施設で、大学と地域を結ぶ架け橋の意味から「あーち」と名付けられました。ここでは地域の様々な組織・機関等と連携して、地域住民に対する多様なレベルの子育て支援サービスを提供しています。
- 地域の人材育成について
小・中・高校生を対象として「赤ちゃんふれあい体験学習」を実施し、次世代を担う子どもたちに「命の尊厳や発達の素晴らしさを実感し、親になることを考える」機会を提供しています。また、各地域で子育て支援にボランティアとしてかかわりたいと希望するシニア世代を対象とした講座、保育士を対象とした講座、専門職やNPOなどの支援者を対象とした講座を開催しています。

労働・成人教育支援部門

人は一生涯学び続ける。成人のための「学びの場」構築を目指します

人は成人になっても成人なりの仕方で成長、発達を続けることが分かってきており、それに対応した学びの場づくりが論議されています。そのような新しい社会の要請に答えて、その必要についての原理を探究しながら現場で求められる成人が学ぶ方法について、実践的な研究をしています。

- ライフストーリーの成人教育への応用
学校型の教育モデルの問題を克服するため、自分の経験を基に自分で気づいたり意味を発見、再構築したりすることを学びとする、新しい考えが生まれています。この概念「ライフストーリー」に基づいた、実践を通じた開発に取り組んでいます。
- 国際的なつながりの中で
近年、世界中で成人教育という未知の領域へのチャレンジが始まっています。ライフストーリーを成人教育に応用する試みとして、先進的な取り組みをしているフランス語圏での活動と連動して、共同の研究会を開催するなどの活動を行っています。

ジェンダー研究・学習支援部門

地域、市民社会と連携してジェンダー問題に取り組みます

市民社会の形成のための支援を行うことが大学の重要な役割の一つであると考えて、ジェンダー問題について、NPOや企業、個人と共同して学習プログラムを開発し、啓蒙活動に取り組んでいます。これを達成するため、地域で活躍・活動している学外の方に部門研究員として多数参加して頂いています。

- セクシュアル・ハラスメント防止のための教師用研修プログラム
「自分のこと」として考えるためのワークショップ型プログラムを開発し、ブックレットを刊行するなど、啓蒙活動に取り組んでいます。
- 市民と行政のパートナーシップの検証
「男女共同参画施策」に関わった市民の活動を、当事者と協働しつつ、行政とともに市民が行う協働とは何かを検証しています。
- 子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座
市民によって行われているワークショップに光を当て、その「市民力」を広げ育てるための取り組みを積極的に支援しています。

ヘルス・プロモーション部門

健康で有意義な人生を送るために必要なライフスキルの育成を目指します

「環境づくり」と「健康教育」について研究を行っています。特に、青少年期に焦点を当てて、喫煙、飲酒、薬物乱用をはじめとする健康を損なう恐れの高い行動(危険行動)を避け、積極的に健康を増進する主体的行動を支援する健康教育プログラムの開発を、教師などの実践者と連携しながら進めています。

- ライフスキル教育プログラムの開発
喫煙、飲酒、薬物乱用、早期の性行動、不必要で危険なダイエットなどの危険行動を防止するために、ライフスキルやメディアリテラシーなどの心理社会的能力の形成を主な内容とするプログラムを開発しています。また、ライフスキル教育を、いじめ防止や非行防止などの問題にも適用する試みにも着手しています。
- ライフスキル教育の普及
開発したプログラムを普及するために教育研究会を組織・運営し、ネットワークを構築するとともに、ライフスキル教育及び健康教育の実践者を対象としたワークショップを、各種団体などと協働して、毎年全国各地で開催しています。

障害共生支援部門

社会的排除のない共生社会を目指すプログラムを開発します

社会的排除のない共生社会とはどのようなものなのか、また、そのような共生社会に少しでも近づくためにはどのような実践が必要なのか、という課題に取り組んでいます。

- のびやかスペース「あーち」
さまざまな人たちの個々の日常的な課題を相互に支えあうインフォーマルな関係の形成過程に着目した研究をしています。
- 「みのり」プロジェクト
障害のある人たちが学生が相互に学びあう実習機会を学内に設け、その参加者の変容過程に着目した研究をしています。
- 「つむぎ」プロジェクト
障害のない子どもたちと障害のある子どもたちが学童保育で共に育つことで形成される共生関係の研究をしています。
- 世界的動向との呼応
障害を社会的排除の問題として捉えようとする世界的動向と呼応して、韓国ナザレ大学と連携しつつ、障害の問題に取り組む新しい実践的研究の分野や方法を模索しています。

ボランティア社会・学習支援部門

人間が主体的に社会にかかわるボランティア社会の創造を目指します

社会参加・参画のひとつの方法としてのボランティア活動を、人間形成・コミュニティ形成および学習の場として考え、そのあり方や支援方法などについて、学外団体と連携しながら実践・検証します。

- ESDボランティアプログラムの開発
ESD (Education for Sustainable Development) プログラム・モデル開発として、「ESDボランティア塾ぼらばん」事業を実施しています。高校生・大学生が主役の事業です。
- 福祉教育実践研究隊の組織化
京都府社会福祉協議会との協働で、「福祉教育実践研究隊」の組織化を行っています。福祉教育の実践現場を訪問し、当事者性を高める実践方法について協議しています。
- ESD推進拠点の創造
国連大学から認証されている「RCE兵庫-神戸」(Regional Centres of Expertise: ESD地域推進拠点)のマネジメントを行っており、ESDの実質化を目的に、セミナーやシンポジウムを企画運営しています。

サテライト施設 のびやかスペース「あーち」

「あーち」は、「子育て支援を契機にした共生のまちづくり」を目的にした施設です。

「あーち」は、子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指す施設です。この施設の目的は、地域と大学の連携によって、地域の数あるニーズに自発的に対応することができる地域の活力を向上させていくことです。住民の間に子育て支援を契機としたネットワークの形成を促進し、そのネットワークが相互支援関係を形成するよう働きかけます。この施設は、ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの「子ども・家庭支援部門」及び「障害共生部門」が中心になって運営しています。

「あーち」では、遊び、アート、音楽などを通して、子どもを中心にさまざまな人たちが集うプログラムが数多く実施されています。それらのプログラムは、地域の人たちが自発的につくりあげていくものもあれば、学生たちが知恵と力を寄せ集めて実施しているものもあります。日常的な実践を通して、人と人とを結びつけ、新しい価値を創造し、ひとりひとりが人間としての輝きを取り戻すためのコミュニティづくりを目指しているのです。

「あーち」は、人々が相互に関わりあう活動の拠点であり、また学生の教育、実践モデルづくり、実践的研究の現場でもあります。その成果を評価され、1997年「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」、2009年に「神戸市市民福祉賞」、2010年に「神戸大学学長表彰」をそれぞれ受賞しました。



大学院 人間発達環境学研究科

発達支援インスティテュート

心理教育相談室

現代のようにストレスの多い時代では、何も悩まずに生きていくのは難しいものです。心理教育相談室では、さまざまな悩みを持っている方に、臨床心理学の専門の立場から相談に応じています。子どもの言葉や発達が遅れている、落ち着きがない、友達と遊べない、学校へ行きたがらない、子どもが障害を持っているなど、子どもに関する悩みや、対人関係がうまくいかない、なにもやる気が起こらない、食事がうまくとれない、自分に自信がない、家族や夫婦のことで悩んでいる、自分についてもっと知りたいなどの悩みに対する相談を受けるとともに、カウンセリング、プレイセラピー（遊戯療法）、心理テストなどを通して、援助を行っています。現在、阪神間において、心理相談外来の重要な一拠点として乳幼児から高齢者まで、幅広い層の方々に利用されています。必要に応じて医療機関との連携や他機関への紹介も行っています。

また、この相談室は大学院・臨床心理学コースの臨床心理士養成の実習機関を兼ねています。心の問題が多様化している近年、相談機関や専門家のさらなる質の向上が求められています。専門家養成には日々の相談活動の積み重ねが不可欠です。今後も地域社会の人々に気軽に安心して利用していただける相談室であるよう、臨床心理士の資格をもつ教員と、教員の指導のもと臨床心理学を専攻する大学院生が実践・研究両面にわたり研鑽を重ねています。



大学院 人間発達環境学研究科

発達支援インスティテュート

サイエンスショップ

「サイエンスショップ」とは、市民社会の科学技術に関わる課題について、大学やNPOなど専門的知識をもつ機関が、市民の相談を受けて必要な情報を提供したり、調査・研究の実施または支援をしたりする組織のことで、1970年代にオランダで誕生しました。

現代社会は高度科学技術社会あるいは知識基盤社会などよばれ、環境、医療、安全などの課題を解決しようとするとき、科学技術等に関わるさまざまな知識が必要となります。しかしその一方で、科学技術の高度化・専門化が進み、理解が難しくなり、疎遠なものと感じる人も多いことでしょう。神戸大学のサイエンスショップは、こうした背景をふまえて2007年に創設されました。

神戸は大都市であるとともに、六甲山・大阪湾など自然環境にも恵まれています。また、阪神淡路大震災を契機として多様な市民活動が芽生え成長してきた地域でもあります。このような神戸の特徴を活かして、ヨーロッパに生まれ育ったサイエンスショップを参考にしつつも、地域社会や日本の文化的風土に融和した独自のあり方、“神戸型サイエンスショップ”を創造することを目指しています。地域社会における広い意味の科学教育や、文化としての科学を地域に根づかせ、「持続可能な社会づくり」を目指して、コミュニティを豊かにしていくような科学のあり方を探ってゆきます。



主な取り組みとして、以下のような活動を進めています。

●サイエンスカフェの開催と支援

サイエンスカフェは、科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について自由に語り合うコミュニケーションの場です。神戸地域でのサイエンスカフェの開催の他、西宮、姫路、伊丹、淡路、三田、豊岡、篠山、明石などさまざまな地域で、市民グループなどのサイエンスカフェの企画・運営などを支援しています。

●市民のさまざまな科学活動の支援

小・中学生から成人まで、余暇を使って科学の研究や学びを楽しみたいという人々の活動を支援するとともに、活動紹介や交流の場を提供します。

●高等学校等と連携した科学教育の普及・活性化支援

学校での課題研究を含む教育プログラムへの支援などを行っています。

●神戸大学学生の科学に関わる諸活動の支援

上記のさまざまな取組みへの参加や、主体的研究活動などを含めて、学生が企画・実施する諸活動を支援し、そのための環境を提供しています。これらを通じて、学生のみなさんの課題を発見・解決する能力、コミュニケーション能力、プロジェクトを企画・運営・実施する能力などを高めることも目指します。



キャリア形成支援

未来への一步を発達科学部から

発達科学部では「発達（development）」「異なるものの包容」「持続可能」という言葉をよく考えますが、単に問題を解決し発展を遂げることを目標にするのではなく、課題や問題を解決することで持続的な環境を目指すことが、「ハタツツ的」考えです。

発達科学部のキャリア支援は、就職活動支援ではありません。就職活動をして、どこかの企業や組織から内定や合格を得ることをゴールにしても、未来への一步を踏み出すことにはなりません。ゴールの先を考えることがなければ、自分の未来を切り開くことはできないからです。私たちは、一人ひとりの生き方、生きる方向性を考え、行動することをキャリア形成と捉えています。何が起きるか分からない、また何が起きてもおかしくない現代の社会では、生涯において確実に安心できる道を見つけることが難しくなっています。これからの社会で生きていくためには、自分がどう生きたいかについて立ち止まって考えることが重要です。そして、色々な体験を自分自身の経験として意味付け、目の前に広がる未来へのアプローチを考えること、考え抜いた一步を踏み出す勇気、それらが自分自身のキャリアを形成していくことになります。

発達科学部では、今の自分と未来との間に発達科学部での経験を位置付け、さまざまな体験が可能です。未来の自分に向かうため、積極的に「ハタツツ体験」を試してみましょう。



OB・OGセミナー「ビール会社で働く」(2012年2月開催)

キャリア作成スケジュール

	目標	アドバイス
1年生	自己探索	新しい環境に早く慣れて、興味のあることにどんどんチャレンジしてみましょう。自分の未来への可能性を広げておく時期です。勉強・部活動・ボランティア活動・アルバイトなどバランスを取りながら大学生活を楽しみ、充実感を得ておきましょう。1年生後期のコース選択、2、3年生からのゼミ(研究室)選択は、進路選択の一つと考えて、自分の適性・興味・関心をふまえて決定しましょう。また将来に向けてインターンシップやキャリアセミナーなどに参加し、社会で働くイメージを身近にしておくことも大切です。
2年生	挑戦と達成	
3年生	進路の模索と選択	就職活動の準備から本番へ向かう時期です。今までの自分を振り返り、興味・関心・能力・価値観などを明確にしておく必要があります。全学部向け、文系・理系向け、発達科学部独自のものなど就職活動をサポートするためのガイダンスやセミナーが多く実施されます。情報収集が大切なポイントですから、自分が得られる支援・サポートを把握し、活用していきましょう。
4年生	進路決定	次第に進路が決まりますが、決定の時期は個人差があります。焦らず取り組む力が必要です。就職活動のゴールは、内定ではありません。自分自身が社会の中で活躍出来ることです。どうすれば自分を社会で活かすことが出来るかを考え、社会と自分をつなぐ重要な時期です。
博士課程前期1年生	研究スタイルの構築	博士課程前期の学生にとって、この時期の就職活動は、修士論文作成のための研究との両立が大変です。しっかりスケジュールを把握し、計画的に進めましょう。
博士課程前期2年生	研究を踏まえた進路選択	進路が決定すると、残りの大学生活を研究に集中できます。学生生活の集大成として研究に取り組むことになるでしょう。また博士課程後期への進路を選択する学生は、後期課程修了後の自分の進路について考えておく必要があります。
博士課程後期1年生	研究スタイルの確立	大学院の博士課程後期は、将来像を明確にした上で、選択する道です。研究者、教育者など自分の研究スタイルや具体的な活動を模索しながら研究を進めることになります。社会からは、学部卒業生、修士修了生以上に実践力を求められることになります。社会人としての基本的能力(社会人基礎力)やビジネスマナーなどをしっかり身につけておきましょう。また、自分の進路については、より積極的な行動が必要です。自分の目指す方向に関係する活動には自ら関わっていきましょう。
博士課程後期2年生	研究を活かした進路選択	
博士課程後期3年生	進路決定	

個々の個性に対応した相談

個別相談

エントリーシート添削

模擬面接

インターンシップ

キャリアサポートセンター

学生の個性に対応したキャリア形成をサポート

発達科学部キャリアサポートセンターは、A棟1階D-Roomの西側にあり、そこでキャリア形成支援を行っています。「自分の人生をどう生きるか」を考えるプロセス、そのものをキャリア形成と捉え、新入生から大学院生にいたるすべての学生を対象として、就職活動の支援だけではなく、現在から将来へ、学生自らが勇気を持って一步を踏み出すサポートを行っています。

キャリアサポートセンターでは、キャリア形成や就職に関する各種資料を閲覧できます。資料は、キャリアに関する書籍、教員採用試験に関する過去問題や資料、求人票、公務員試験に関する資料、就職活動に関する書籍などを揃えています。また、キャリアに関するセミナー、ガイダンスでは、企業

啖啄の機を迎えるために

宮村聡子 キャリアディベロップメントアドバイザー

啖啄の機とは、雛がかえろうとすると、雛が内からつつくのを「啖」、母鳥が外からつつくのを「啄」といい、禪においては、師家と修行者との呼吸がぴったり合うこと。機が熟して弟子が悟りを開こうとしているときをさし、得難いよい時機という意味です。

大学生生活は、人生の中では社会に出て行く一歩手前に位置付けられます。大学または大学院を卒業すると多くの人が社会人としてスタートすることになります。社会からの呼び掛けに応えるわけです。皆さんが、社会人になろうと必死になる、社会も皆さんを受け入れるために準備を進める、就職活動は、そのような見方をすると「啖啄の機」という言葉がぴったりです。また就職活動に限らず大学生活では、今までの自分の殻を破ることが必要でもあり、自分の中でも湧きおこってくる欲求でもあると思います。ゼミで部活でアルバイトで、今の自分に満足せず新しい世界に進みたいと思った時、その場面、場面が「啖啄の機」になり得ます。

キャリアサポートセンターでは、今の自分の殻を破りたい、と思っている皆さんのことを準備を整えて待っています。



教員採用試験対策 セミナー・ガイダンス

「論作文」「教育時事」「面接試験」などの対策セミナーをシリーズで開催するほか、教員採用試験合格者有志による座談会のサポートも行っています。

OB・OGセミナー

本学部・研究科の卒業生・修了生に、ご自身の学生生活や卒業後の様子など体験を踏まえたお話をうかがいます。2012年度は、「大学院生の強みと弱み」「文部科学省で働く先輩から伝えたいこと」を開催しました。

キャリアセミナー・ガイダンス

2012年度は、社会保険労務士による「女性の働き方講座」や企業のキャリア開発プログラムに携わる方による「キャリア講座」などさまざまな取り組みをしています。

企業説明会

特に現在人事として活躍しておられるOB・OGの方からの企業説明会の開催に力を入れています。

就職活動支援セミナー

就職活動を直前に控える学生に対して、専門家の方を招き、就職活動に必要な知識やノウハウなどに関する 세미나を開催します。2012年度は、「就職活動支援トレーニング」「エントリーシートの書き方講座」「就職活動におけるマナー講座」を開催しました。

インターンシップ

インターンシップをより活用出来るようにビジネスコミュニケーション研修やマナー研修を開催しています。

発達キャンパス

01 A棟

人間発達環境学研究科・発達科学部の正門に入って正面に見えるのがA棟です。1階にはD-Room、HCセンター、キャリア・サポートセンターが、2階には図書館と事務室があります。事務の中でも教務学生係は、授業科目の履修、試験、成績、進級、卒業などに関する事項や教育実習、教員免許・各種免許に関する事項、さらに学生生活に関することを取り扱っています。また、授業料免除や奨学金、各種証明書の発行、施設の利用案内や留学に関することなども取り扱っていますので、足を運ぶことが多い場所です。3階から7階までは教室や実験室、研究室になっており、ゼミ配属が行われる3年生以上になると利用することが多くなるでしょう。6階にあるカフェ



「アゴラ」は憩いの場です。その眺望は必見。

02 B棟

正門から入って西側のタイルモザイクが壁に施されている棟がB棟です。この壁画は人間表現学科の岸本吉弘先生の創作によるものでROBIN (FOR DOR)と名付けられています。「ロビンとはヨーロッパコマドリのこと、この鳥には古くから献身的利他的な伝承が数多くある。腹部あたりの鮮やかな赤色はその恩恵により生じたもので、自らを最高に美しく彩る。ロビンの如き若き実践者にこの作品を贈りたい。茶は大地、青は天空を表し、重層的な構図は知の蓄積を示唆する。此处で生まれ出る叡智が実践として無限にまた永遠に拡がらんことを切に願う。」との銘が刻まれています。

1階にはテラスのようにテーブルとイスが置いてあり、授業の合間に友達と雑談を楽しんだり、ミーティングをしている学生がたくさんいます。その奥には



中庭があり、季節に応じて草木や花の香りを楽しむことができます。大教室から演習室までさまざまな教室のあるB棟は教室棟とも呼ばれています。

03 C棟

主に人間表現学科の学生と音楽関連のクラブをしている人が利用します。音楽棟でもあるC棟には研究室やピアノのある個室などがあります。



04 G棟

理系の先生方の研究室と実験室が並ぶG棟は南側にビオトープ、棟の入口には動物の剥製などが置いてあります。



05 体育館, プール

体育館、プールともに2010年に改装されて、明るくきれいになりました。体育館にはトレーニング室、シャワー室が整備され、使用することができます。更衣室もきれいになって、クラブ活動で頻繁に使う学生たちの評判も上々です。無線LANも整備されていますので、研究する上でも便利になりました。



06 食堂・売店

各種定食や麺類・どんぶり・カレーなどだけでなくバイキングの昼食があるのが特色となっています。自分ではいとおかずをお皿にのせてレジに持っていくと重さによって値段が決まるのですが、日によってたとえば333gとか222gなどの3ケタの数字が同じになると無料という企画が人気です。何も考えないで好きなものをお皿にのせて持っていったら333gで無料になったという経験者もいて、学生にとってはちょっとしたお楽しみになっています。外にテラス席もあり、団らん場所となっています。このキャンパスにある大学生協の売店と食堂の特色は、とにかく働いている方々が優しいこと。学生の憩いの場です。



阪急神戸線「六甲」駅、JR神戸線「六甲道」駅、阪神本線「御影」駅のいずれかより、神戸市バス36系統「鶴甲団地」行き（「鶴甲2丁目止」行きでも可）に乗り、「神大発達科学部前」バス停で下車してください。
発達科学部・人間発達環境学研究科は、バス停より徒歩すぐにあります。

施設紹介

07 図書館（人間科学図書館）

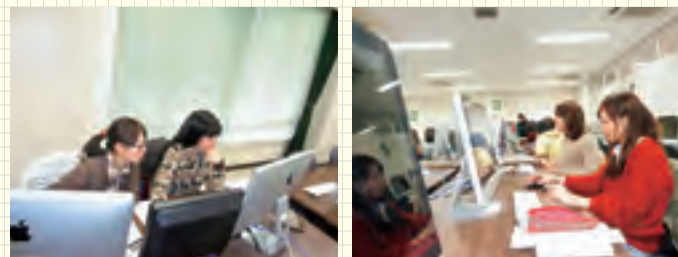
人間発達環境学研究科・発達科学部には神戸大学附属図書館のひとつ、人間科学図書館があります。館内の開架閲覧室には、教員による推薦図書や教科書、辞書・辞典や地図などの参考図書が並び、新着図書や雑誌のコーナーがあります。研究内容に対応した幅広い分野の図書、雑誌、AV資料などを所蔵し、学術的に貴重な図書や分野ごとの図書は三層の書庫に配架するなど、勉強・研究を行う上で使用しやすい配置になっています。閲覧室には個人用のデスクやグループで利用できる学習室が用意され、また情報検索コーナーのPCからは図書館のWebサイトを使って、情報を検索したり、Webページを閲覧したり、電子使用することができるようになっています。無線LANも利用でき、視聴覚資料のDVDなどもAVブースで視聴できます。レポート作成や論文作成の強い味方です。

図書館では専門ごとに文献検索ガイダンスを開催するなど、学部生・大学院生の学習・研究を強力にサポートしてくれています。



08 情報教育設備室 (RIE: Room for Information Education)

RIE (リエ) と呼ばれるこの施設は、自由にPC (iMac) を利用できる教室です。この教室で授業も行われますが、レポート作成や印刷にも使用できます。PCに詳しいスタッフが待機していますので、もしトラブルが発生しても安心です。PCやネットワークに関すること、神戸大学キャンパスの各所で使える「全学用無線LANサービス」の接続方法など、何でも気軽に相談することができます。



09 D-Room (発達ホール)

A棟正面玄関横に、D-Roomという愛称で呼ばれる、学生や一般の方向けに開放されているスペースがあります。本学部・研究科の行事予定やお知らせが流れているスクリーンもあり、友達とおしゃべりをしたり、昼休みにお弁当を広げて食事をしたり、グループでミーティングをしたり、ノートパソコンを持ち込んでレポートを書いたり、いろいろなことに利用できるフリースペースとなっています。



10 カフェ「アゴラ」

“アゴラ”とは政治や哲学について自由に議論する市民生活の中心の場を示す古代アテネの言葉です。A棟の6階に位置し、大阪湾と神戸の街並みを一望することができます。お昼前から夕方にかけて開店し、学生たちや先生方の交流スペースとして活用されています。このカフェは一般の方も自由に入出入りできますので、大学と社会の架け橋ともいえる場になっています。

ここでは、障がいのある人たちがスタッフや実習生として働いており、実習生にとっては職業訓練の場、対人支援に関心をもつ学生にとっては支援実践の場にもなっています。

マスターの淹れるコーヒーは絶品。抜群の眺望を楽しみながらゆったりとした時間を過ごすことができます。

11 実習観察園

本学部の南西にあるバス通りに面したところに実習観察園があります。植物栽培に関する教育・研究を行う施設です。授業では、教室での座学だけでなく、この実習観察園において作物、野菜、花卉、果樹の栽培と管理に関する実習を受けることができます。また、本学部・研究科の建物周辺の環境を整備するために、玄関やアプローチの花壇の維持管理も担っています。温暖化防止策としてその有効性が注目されている屋上緑化や壁面緑化に関する研究、さらに、野菜栽培を通じて障がい者が社会とかかわることを目的とする「みりのりのプロジェクト」などの地域連携活動もなされています。

